

# クボタトラクタ

## 取扱説明書

**X<sup>20</sup>  
24**



F5089

ご使用前に必ずお読みください

**Kubota**

## トラクタ 安全五憲章

- 1・道路を走行するときは、  
ブレーキペダルを連結します。
- 2・農道を走行するときは、  
スピードを落とし路肩に注意します。
- 3・ほ場へ出入りするときは、  
スピードを落としあぜに直角に走行します。
- 4・トラクタや作業機を点検調整するときは、  
必ずエンジンを止め、油圧ロックをします。
- 5・補助者と共同作業を行なうときは、  
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は、安全五憲章のとおりですが、これ以外にも本文の中で **安全ポイント** として説明のつどとり上げております。

更に、安全のポイントを抜粋した **安全注意ポスタ・納入品安全説明書** を別冊にして添付しておりますので、よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

# はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買いあげの製品がいつまでもすぐれた性能を発揮するようこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、わからないことがあったとき取出してお読みください。

なお、製品の仕様変更などにより、お買いあげの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

また、この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので、お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ、おまちがいのないようお願いいたします。

- 大きさ別によって……「X(クロス)ー20仕様」「X(クロス)ー24仕様」
- パワーステアリング付き……「S仕様」
- マイコンモノローマチック付き……「M仕様」
- メカオート付き……「A仕様」
- 倍速ターン付き……「B仕様」
- クリープ付き……「L仕様」
- パワーアジャスト付き……「T仕様」
- レインガードキャビン付き……「U仕様」
- ロータリ駆動方式によって……「サイドドライブ仕様」【NR仕様】  
「センタドライブ仕様」【R仕様】
- ロータリのリヤカバーの種類によって……「標準カバー仕様」  
「Vカット仕様」
- リヤカバー 2 付き……「波形補助板無し」【A仕様】  
（【NR仕様】にのみ） 「波形補助板付き」【AY仕様】  
（取付けできます。）
- 2 柱式安全フレーム付き……「Y仕様」

説明はXー24・NR1500を基本とし、Xー24・NR1500と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

# 目次

サービスと保証について .....	<b>1</b>
-------------------	----------

小型特殊自動車について .....	<b>2</b>
-------------------	----------

装置の知識について .....	<b>3</b>
-----------------	----------

スイッチとメータの取扱い .....	3
運転装置の取扱い .....	5
PTO装置の取扱い .....	10
作業機昇降装置の取扱い .....	10
マイコンモノローマチック【M仕様】の取扱い .....	11
メカオートロータリ【A仕様】の取扱い .....	14

上手な運転のしかた .....	<b>15</b>
-----------------	-----------

エンジンの始動と停止 .....	15
ならし運転と暖機運転 .....	17
走行運転のしかた .....	17
上手な装置の使いかた .....	21
安全フレームとシートベルトについて【Y仕様】 .....	22

トラクタ使用前の点検について(仕業点検) .....	<b>23</b>
----------------------------	-----------

作業前の点検 .....	23
仕業点検のしかた .....	24

トラクタの簡単な手入れと処置 .....	<b>26</b>
----------------------	-----------

点検箇所について .....	26
燃料について .....	29
冷却水について .....	30
給油と注油について .....	31
フィルタの交換と洗浄について .....	33
各部の点検・調整 .....	34
輪距の調整 .....	37
電気系統について .....	38
長期格納時の手入れ .....	40

ロータリ装置の取付けかた .....	<b>41</b>
--------------------	-----------

取付け前の準備 .....	41
クイックピッチ装置の取付け(Aフレームオート3P) .....	41
ロータリの取付け・取外し .....	42

---

## ロータリ作業前の点検について(仕業点検).....46

作業前の点検 .....	46
仕業点検のしかた .....	46

---

## 上手な作業のしかた.....48

適応作業速度 .....	48
あぜぎわ耕うんのしかた .....	48
爪の取付けかた .....	49
耕うん爪の配列 .....	50
耕うん方法 .....	52
普通爪の使用【NR仕様】 .....	53
爪軸交換のしかた【NR仕様】 .....	53
耕深の調節 .....	53
リヤカバー2の調節【NR仕様】 .....	54
ロータリカバーの調整【R仕様】 .....	54
サイドカバーの調整【R仕様】 .....	54
後2輪の調整 .....	55
後2輪ホルダの調整【R仕様】 .....	56
ロッドの調整 .....	57
ロータリ畝立て作業 .....	58

---

## ロータリの簡単な手入れと処置.....61

点検箇所について .....	61
給油と注油について .....	61
ロータリ保管時の注意 .....	63

---

## 付 表.....64

主要諸元 .....	64
標準付属品 .....	65
推奨オイル・グリース一覧表 .....	66
主な消耗部品一覧表 .....	68
アタッチメント一覧表 .....	73
インプルメント一覧表 .....	78
配線図 .....	83
型式検査(国検)成績表 .....	84

---

## ロータリ作業の一般的な調整要領.....87

---

# サービスと保証について

この製品には、サービスブックが添付してあります。アフタサービスなどの詳細についてはサービスブックをご覧ください。

なお、ご使用中に万一故障した場合やご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店・農協・弊社支店又は(株)クボタアグリに設けております「御相談窓口」にお気軽にご相談ください。

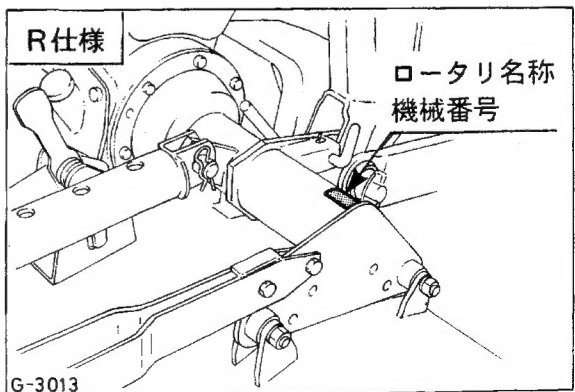
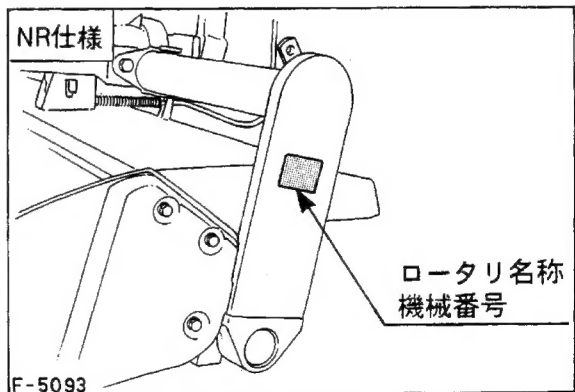
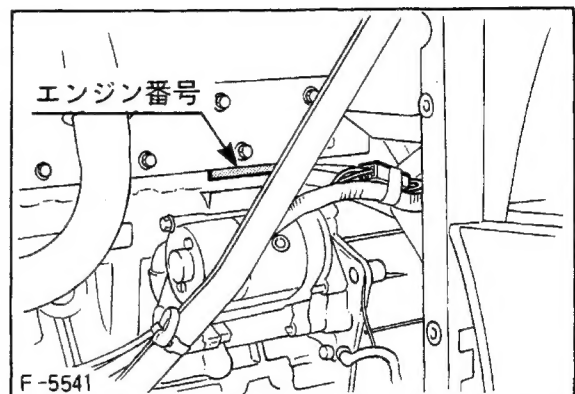
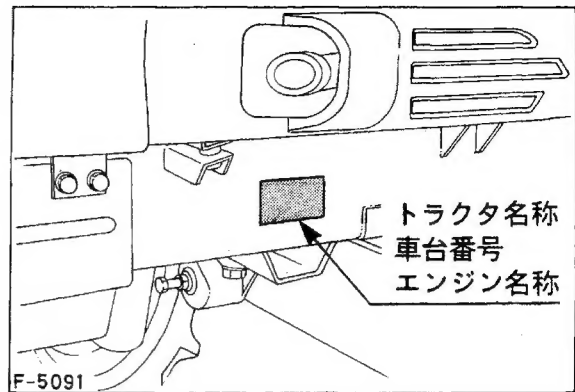
## ●ご相談の際には

- (1)トラクタ名称と車台番号
  - (2)エンジン名称とエンジン番号
  - (3)ロータリ名称と機械番号
- を合せてご連絡ください。

農機型式名	安全鑑定適合番号
クボタX-20	1201020
クボタX-24	1201021
クボタX-20H	1401031
クボタX-24H	1401032

農機型式名	型式検査(国検)合格番号
クボタXSF-24 (安全キャブ及び安全フレーム)	87021
クボタSF-X24 (安全キャブ及び安全フレーム)	89058

●検査成績表は、84・85ページをご覧ください。



# 小型特殊自動車について

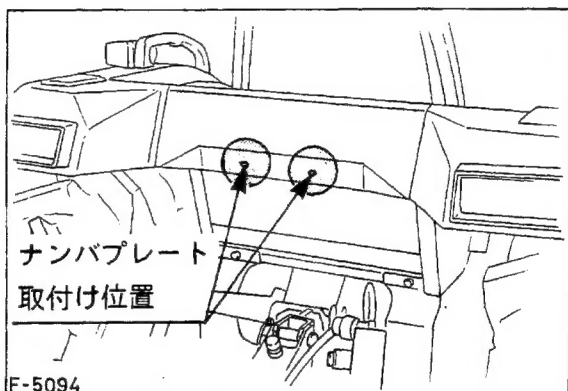
このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

## ■小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届出、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

(手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、販売店・農協にご相談ください。)

- ① 小型特殊自動車取得の証明書など(販売店・農協で発行)に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
- ② 届出が済むとナンバープレートが交付されます。
- ③ ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。



## ■運転免許

公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

## ■自動車損害賠償責任保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

## ■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全 長	4.70m以下
	全 幅	1.70m以下
	全 高	2.00m以下
最 高 速 度		15km / 時以下
原 動 機 の 総 排 気 量		1500cc以下

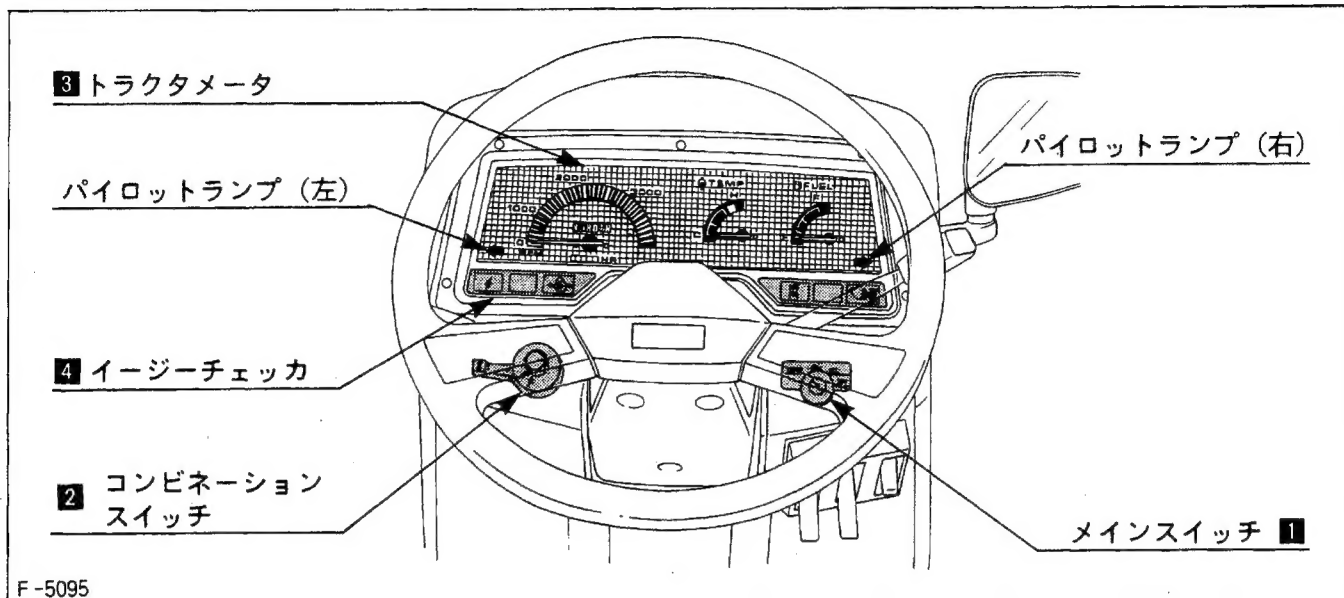
上記の条件を有する自動車で、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特にご注意ください。

- (1) 認定を受けた以外のエンジンを搭載して運行することはできません。
- (2) 認定時の構造を変更(例えば大径車輪やドッキングローダなどを装着)した状態では、運行することはできません。
- (3) エンジン及び車体の封印は外さないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証はできませんのでご注意ください。



# 装置の知識について

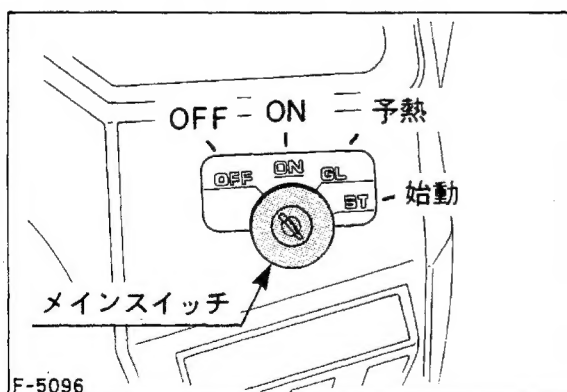
## スイッチとメータの取扱い



F-5095

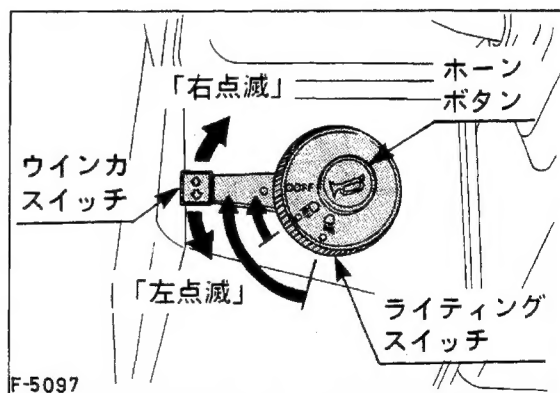
### 1 メインスイッチ

- OFF ..... エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。
- ON ..... エンジン回転中の位置。
- GL(予熱) ..... 燃焼室内を予熱する位置。
- ST(始動) ..... クラッチペダルをいっぱい踏込んで、エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に「ON」に戻ります。



F-5096

### 2 コンビネーションスイッチ



F-5097

#### ◆ライティングスイッチ

OFF ..... ヘッドランプ消灯位置

☉ ..... ヘッドランプ上向き照射位置

☉ ..... ヘッドランプ下向き照射位置

#### ◆ウィンカスイッチ

(1) スwitchを操作すると、ウィンカランプ及び計器盤のパイロットランプが点滅します。

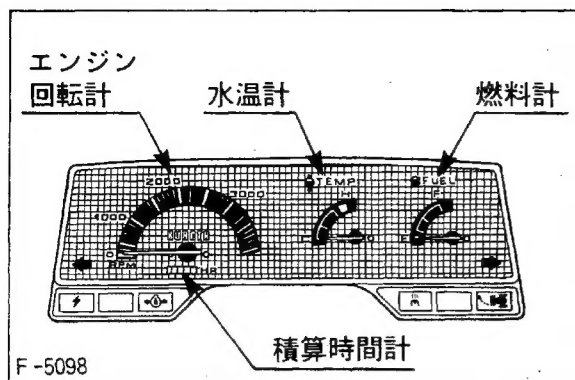
(2) 右折又は左折が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。

#### ◆ホーンボタン

メインスイッチを「ON」にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



### 3 トラクタメータ



#### ◆積算時間計

積算時間計は5桁になっており、初めの4桁は時間、最後の1桁は $\frac{1}{10}$ 時間(6倍すると「分」単位)を示します。

#### ◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を示します。

#### ◆燃料計

メインスイッチ「ON」のとき、燃料の残量を示します。

#### ◆水温計

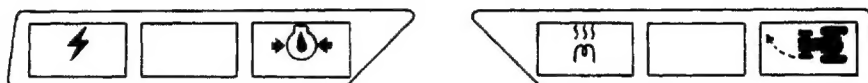
メインスイッチが「ON」のとき、冷却水の温度を示します。「C」は低温、「H」は高温です。

指針が「H」(レッドゾーン)を示すときは、オーバーヒートの状態ですから20ページ「◆オーバーヒートしたときの処置」をご参照のうえ点検してください。

### 4 イージーチェッカ

#### 注意

●日常点検はイージーチェッカのみで済ませないで仕業点検に準じた確実な点検を行なってください。



F-5099



#### バッテリーチャージ警告灯

エンジン回転中、充電系統が異常のとき点灯して警告します。

点灯したままのときは、35ページ「■ファンベルトの点検」をご参照のうえ点検してください。



#### エンジンオイル油圧警告灯

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。

点灯したままのときは、24ページ「4 エンジンオイルの量」をご参照のうえ点検してください。

#### 注意

●ファンベルト及びエンジンオイル量が正常で、警告灯が点灯したままのときは、販売店・農協又は当社内燃機器支店にご相談ください。



#### グローランプ

メインスイッチを「予熱」にすると点灯し、完了すると消灯します。



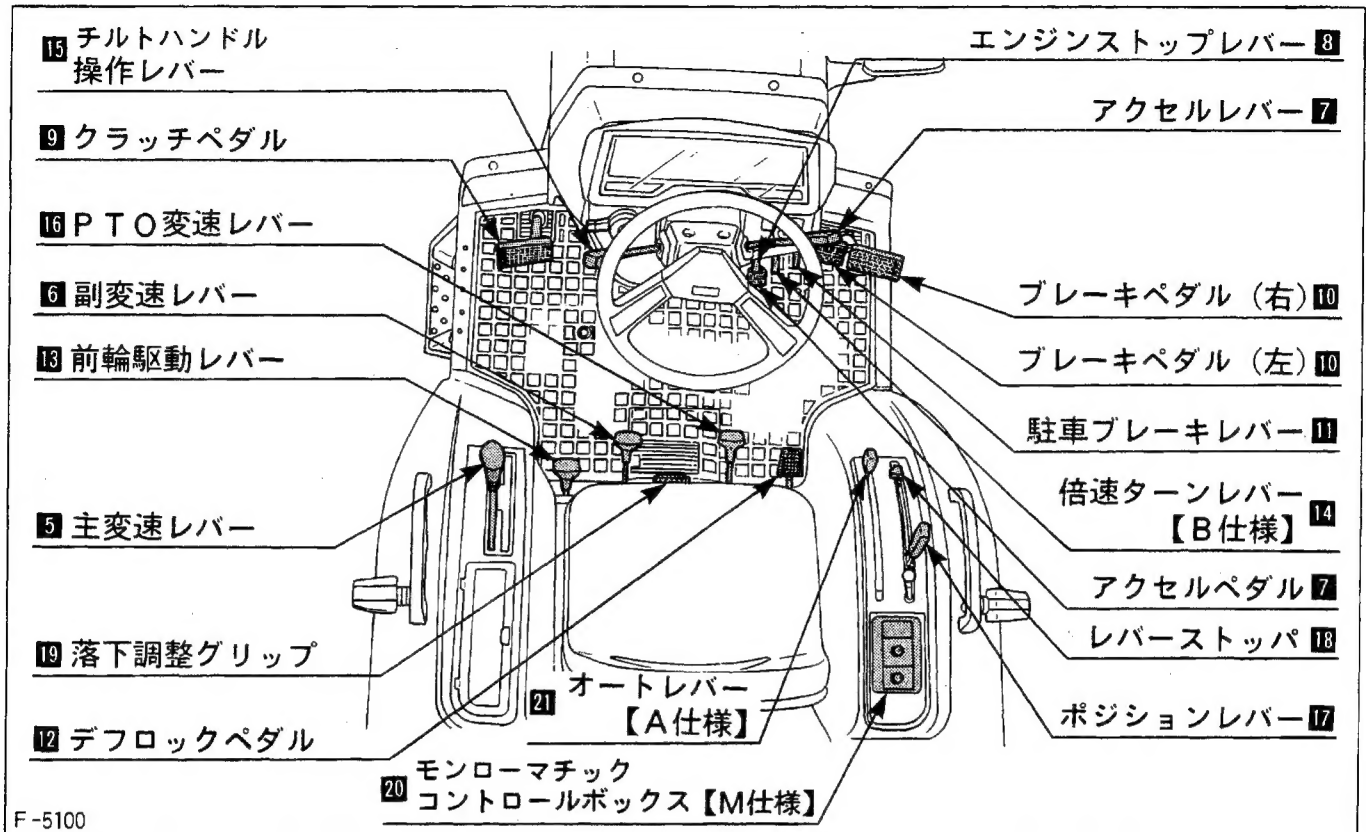
#### 倍速ターン表示灯【B仕様】

前輪駆動レバーが「入」、副変速レバーが「1速」・「2速」又は「C」位置【L仕様】のとき、倍速ターンレバーを「入」にすると点灯します。

#### 注意

●前輪駆動レバーが「切」、又は副変速レバーが「3速」のときは倍速ターンが入らないので点灯しません。

## 運転装置の取扱い



### 5 主変速レバー

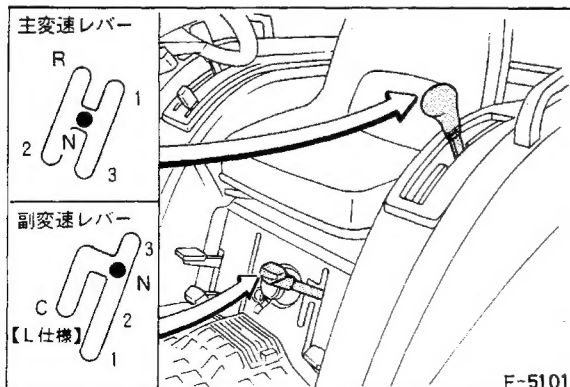
### 6 副変速レバー

2本のレバー操作を組合せることにより、前進9段・後進3段の車速が得られます。

#### 【L仕様】

2本のレバー操作を組合せることにより、前進12段・後進4段の車速が得られます。

(副変速レバーの「C」位置はクリーブ速度になります。)

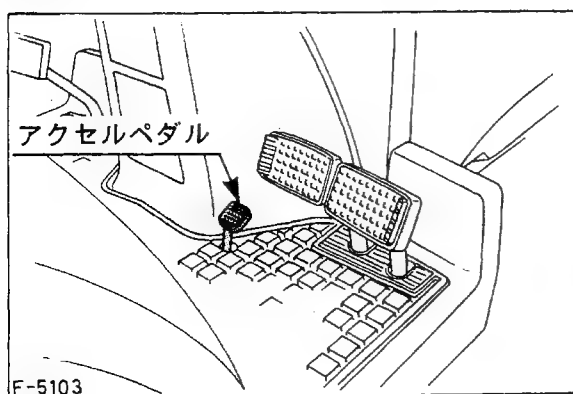
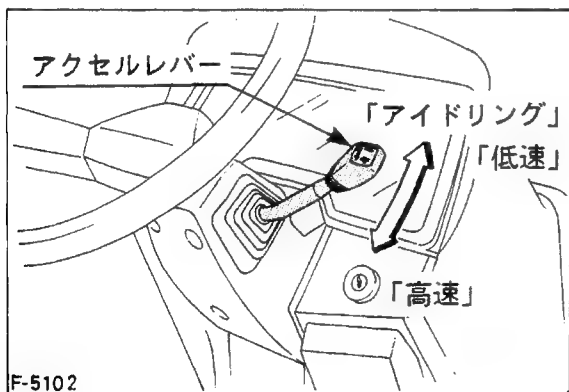


#### 注意

- (1)副変速レバーの操作時、レバー操作が重くなるときがあります。そのときは、クラッチペダルを踏み直し、再度副変速レバーを操作してください。
- (2)また、クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは、いったん主変速レバー又は副変速レバーを「N」(中立)にしてから操作してください。

## 7 アクセルレバーとアクセルペダル

アクセルレバー……主に農作業時に使用します。  
 アクセルペダル……主に道路走行時に使用します。  
 アクセルペダルは、アクセルレバーと連動しており、  
 ペダルを踏込む……エンジン回転が上がります。  
 ペダルから足を離す……アクセルレバーのセット位置まで回転が下がります。

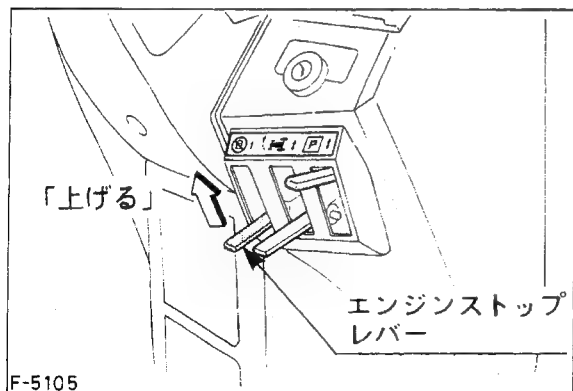


## 8 エンジnstoppレバー(非常用)

メインスイッチを「OFF」にすると、エンジンが自動的に「停止」します。

万一停止しないときは、

- (1) エンジnstoppレバーをいっぱい「上げる」とエンジンが「停止」します。
- (2) 停止後は、必ず「下げて」おいてください。  
 下げ忘れるとエンジンは始動しません。



## 9 クラッチペダル

ペダルを踏込む……クラッチが切れます。  
 ペダルから足を離す……クラッチがつながります。

## 10 ブレーキペダル

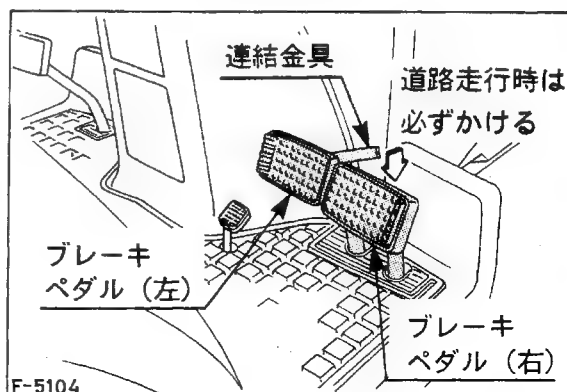
ブレーキは、一般の自動車などと異なり、左右それぞれ独立しており、後輪の片方だけブレーキをかけることができます。

連結金具をかけた状態

(左右同時にブレーキがかかる)……道路走行時。

連結金具を外した状態

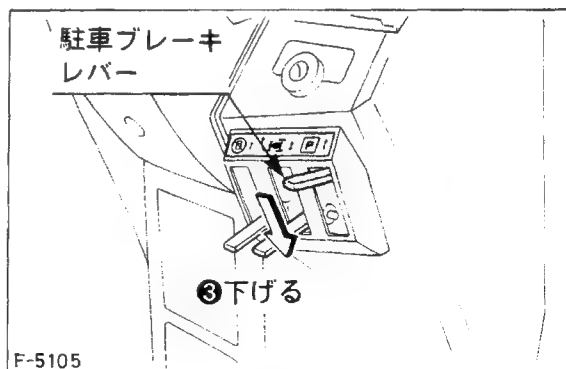
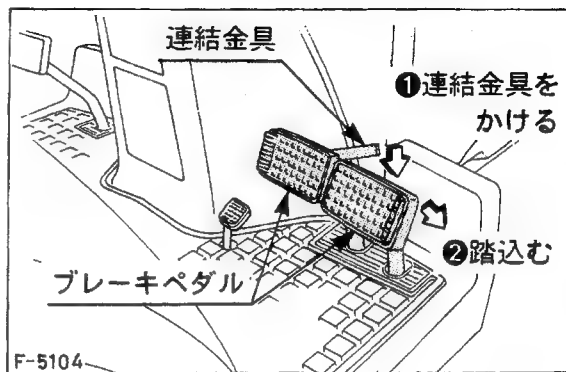
(左右片輪ずつブレーキがかかる)……農作業時。



## 11 駐車ブレーキレバー

ブレーキペダルを左右連結して踏込み、駐車ブレーキレバーを「下げる」とブレーキがかかります。

外すときは、ペダルを踏込めば外れます。

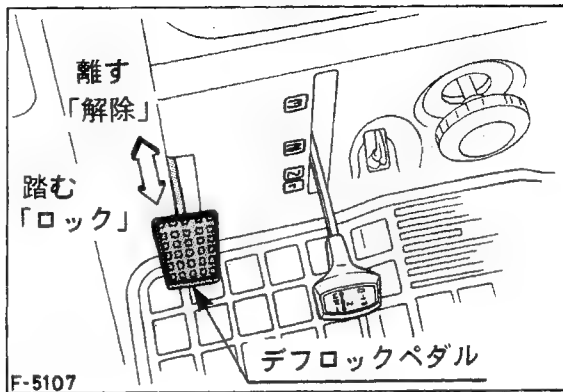


## 12 デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置で、片側の後輪がスリップしたとき、ペダルを踏込めばスリップが防止できます。

ペダルを踏込む………ロックされます。

ペダルから足を離す……自動的にロックが外れます。

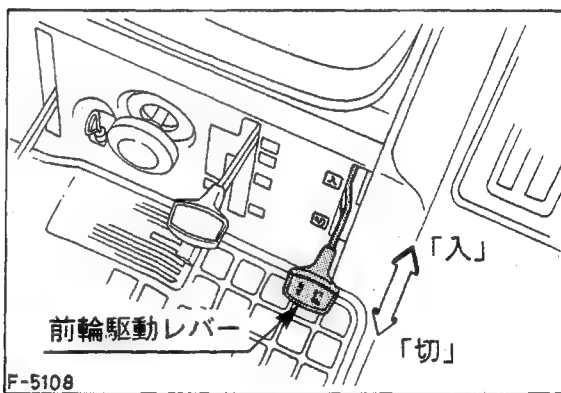


## 13 前輪駆動レバー

前輪駆動を断続するレバーで、クラッチペダルを踏込み、

レバーを上げる……四輪駆動になります。

レバーを下げる……二輪駆動になります。



### 注意

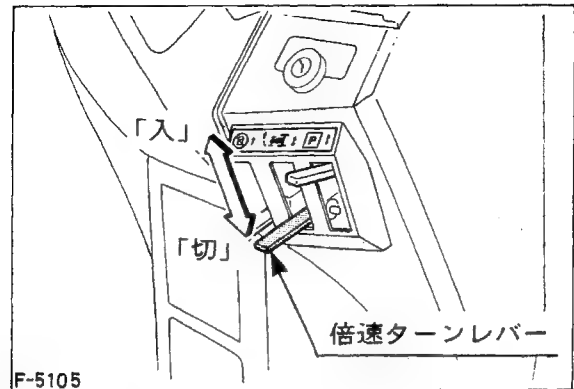
- 前輪駆動レバーは、「入」か「切」の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

## 14 倍速ターンレバー【B仕様】

倍速ターンを断続するレバーで、必ず前輪駆動レバーを「入」にしてから操作してください。

レバーを上限まで上げる……倍速ターンが「入り」ます。

レバーを下限まで下げる……倍速ターンが「切れ」ます。

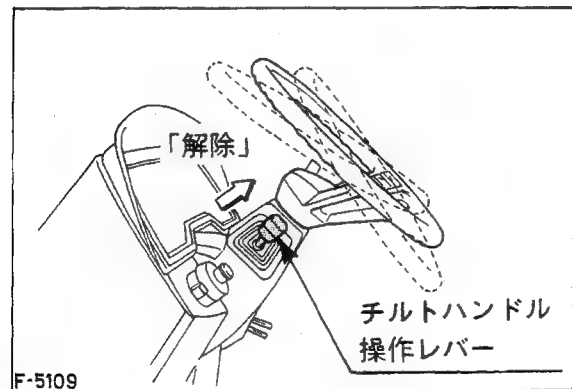


### 注意

- 危険防止のため副変速「3速」の場合は、倍速ターンが入らない構造になっていますので、無理に倍速ターンレバーを操作しないでください。倍速ターンは、副変速「1速」又は「2速」、(「C」【L仕様】)で使用してください。

## 15 チルトハンドル操作レバー

操作レバーでロックを解除すれば、ステアリングハンドルが4段階に調節できます。

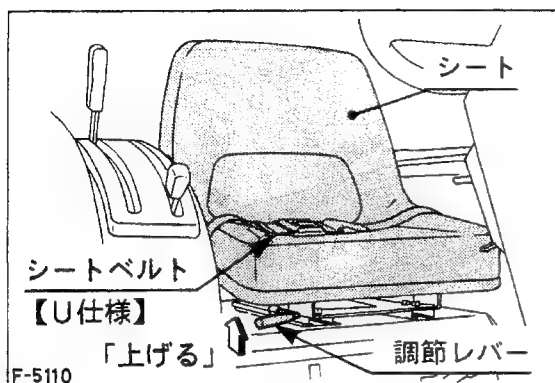


### 注意

- 調節後、ハンドルがロックされていることを確認してください。

## ■シート

- (1)シート下の調節レバーを「上げる」と、前後4段階に調節できます。
- (2)雨のときは、シートを前に倒しておくと座席がぬれません。
- (3)U仕様のみシートベルトは標準装備です。

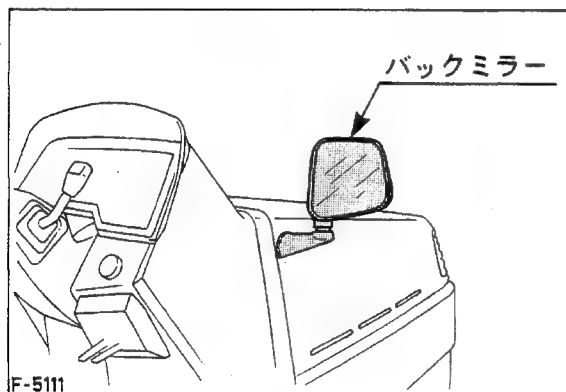


### 注意

- 調節後、シートがロックされていることを確認してください。

## ■バックミラー

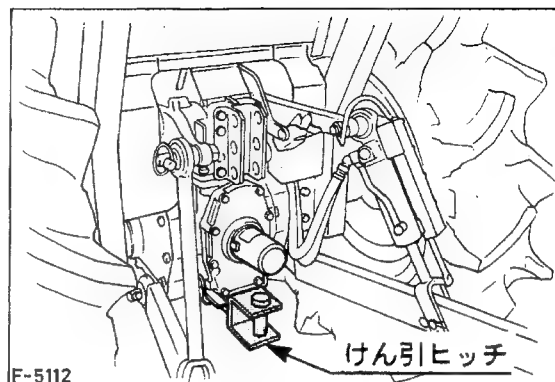
後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。



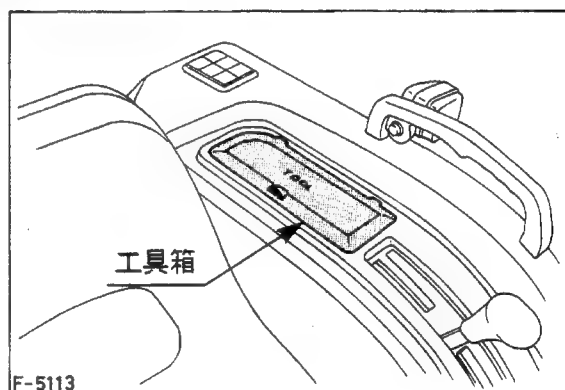
## ■けん引ヒッチ(別途購入品)

けん引するインプルメントは、このトラクタ用に採用したもののみにしてください。

他の物をけん引する場合は、必ず販売店・農協にご相談ください。

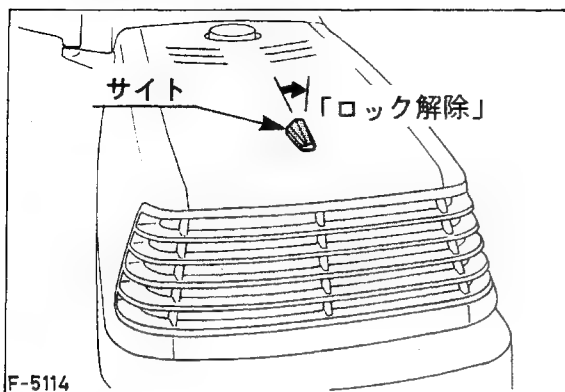


## ■工具箱



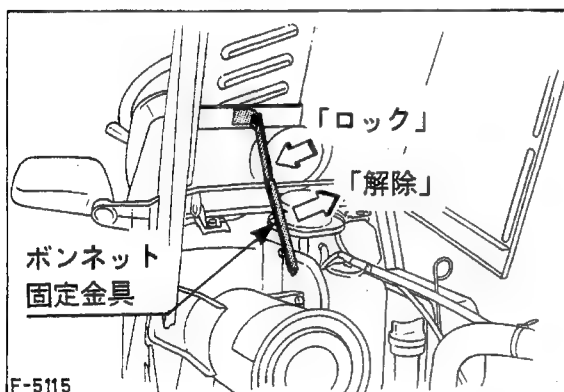
## ■ボンネットの開閉

- (1)ボンネットを開けるときは、サイトを「矢印」の方向に回すとロックが外れ、ボンネットの先端を持上げると開きます。



### 注意

- ボンネットを開き点検・調整するときは、必ずボンネット固定金具が「ロック」されたか確認してから作業をしてください。
- (2)ボンネットを閉めるときは、ボンネット固定金具を手前に引き「解除」してから閉じてください。

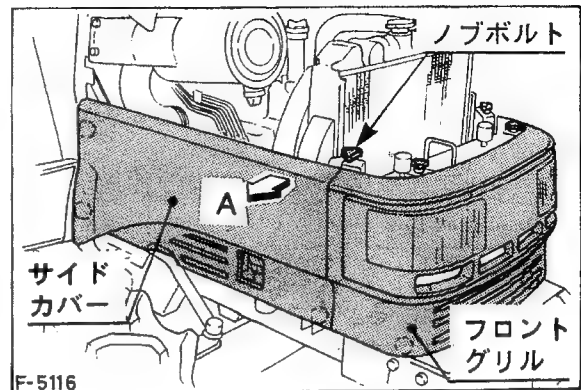


## ■フロントグリル及びサイドカバーの外しかた

- (1)フロントグリルは、ノブボルトをゆるめ、グリル全体を持上げると外れます。

### 注意

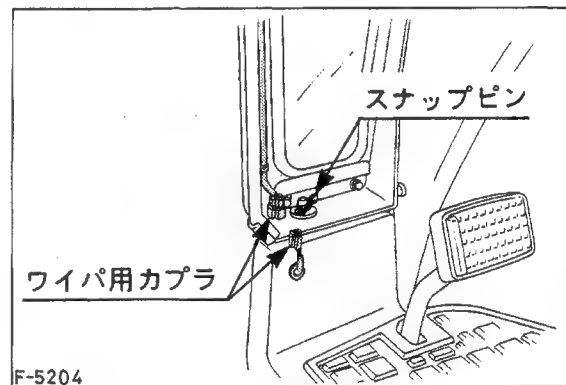
- 必ずヘッドライトの配線カプラを外してから、フロントグリルを外してください。



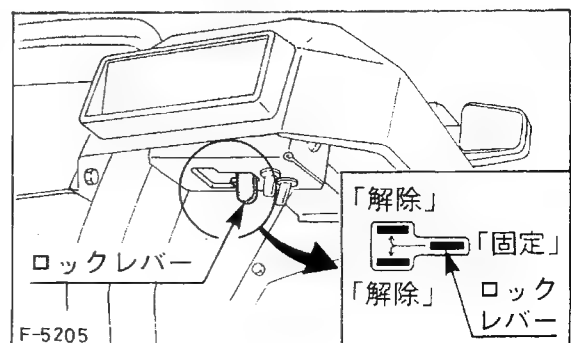
- (2)左右のサイドカバーは、ノブボルトをゆるめカバーのA部を少し手前に引いた後持上げると外れます。

## ■レインガードキャビンの取付け、取外し【U仕様】

- ①ワイパ用カプラを外します。
- ②左右のスナップピンを外します。



- ③左右フェンダ下のロックレバーを「解除」位置にします。

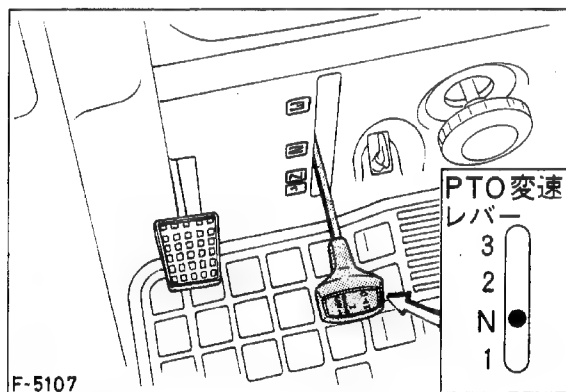


- ④キャビンを持上げて取外してください。
- ⑤取付けは取外し順序の逆に行なってください。

## PTO装置の取扱い

### 16 PTO変速レバー

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度は、レバー操作により3段階に変速できます。

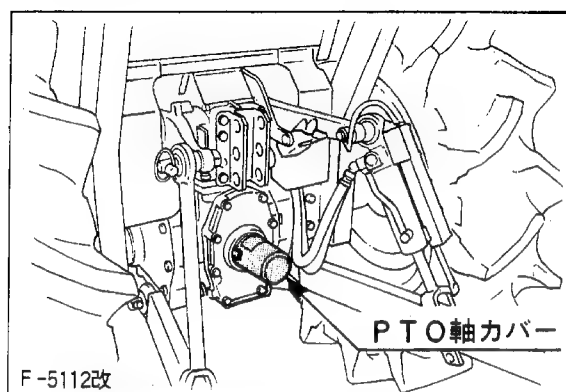


#### 安全ポイント

- 作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。  
低速回転で使用すべき作業機を、高速回転で使用すると非常に危険です。

### PTO軸カバー

(標準付属品箱に入っています。)



#### 安全ポイント

- PTO軸を使わないときは、PTO軸にグリースを塗布した後、カバーを取付けておいてください。  
▶ カバーを取付けないと……  
巻込まれて傷害事故を引起す恐れがあります。

## 作業機昇降装置の取扱い

油圧装置は、エンジン回転中クラッチの断続に関係なく作動します。

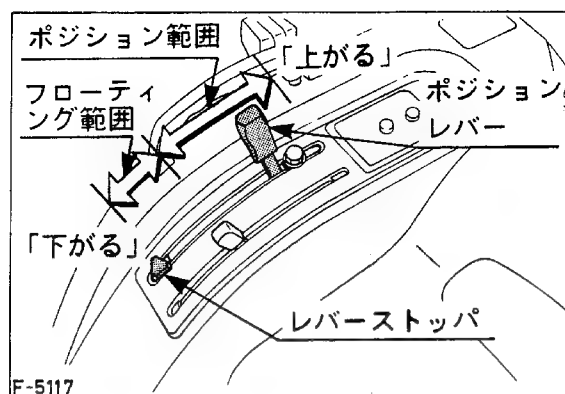
### 17 ポジションレバー

ポジションレバーは、油圧によって作業機を上下させる装置です。

レバーを後方に引く……作業機が上昇します。

レバーを前方に倒す……作業機が下降します。

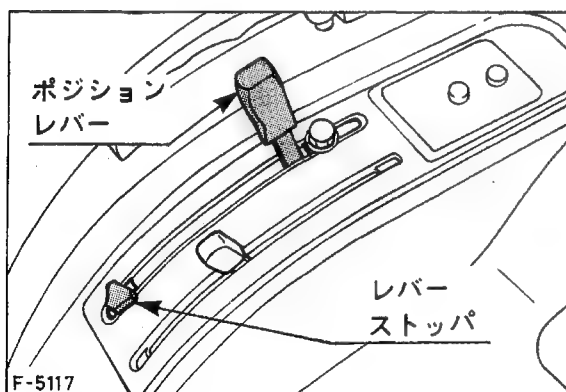
	レバー位置	作業機	作業機の位置
ボ ジ シ ヨ ン 囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では、作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フ ロ ー テ ィ ン グ 囲	下げ位置	下がる	この範囲では、作業機は上がりずいっぱいまで下がります。





## 18 レバーストップパの使いかた

- ① ポジションレバーで、希望する作業機の高さを決めます。
- ② その位置にレバーストップパを固定します。
- ③ ポジションレバーをレバーストップパに当るまで動かすことにより、一定の作業位置が保たれます。  
(レバーストップパは、上げ下げの規制に使用できます。)



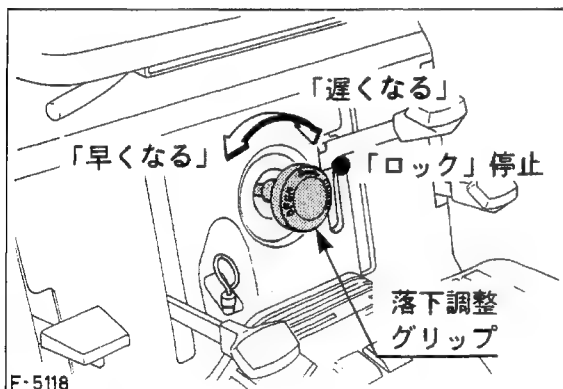
### 注意

- レバーストップパは、レバーガイドの溝へ確実にはめて固定してください。レバーストップパを外すと、作業機持上げ時に油圧リリーフが働きますので、外さないでください。

## 19 作業機落下速度の調整

落下調整グリップを回すことにより調整できます。

落下調整グリップ	落下速度
右に回す (CLOSE)	遅くなる
左に回す (OPEN)	早くなる
右に軽く締込む	ロックされる



### 注意

- グリップは軽く締込むだけで油圧がロックされますから強く締込まないでください。

## 安全ポイント

- ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず落下調整グリップを締込んで、作業機が落下しないようにしてください。  
グリップを締込んだ後、ポジションレバーを「下がる」の方向に動かして、作業機が落下しないことを必ず確認してください。

## マイコンモンローマチック【M仕様】の取扱い

モンローマチックは、マイクロコンピュータで制御しています。

正しく取扱ってすぐれた性能を発揮させてください。

## 20 スイッチの取扱い

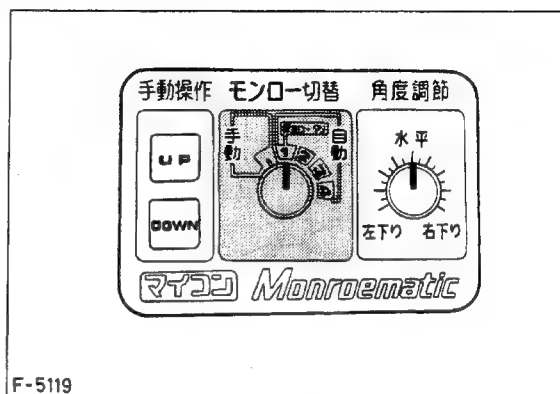
エンジン回転中でないとモンローマチックは作動しません。

### 注意

- スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

### ◆モンローマチック切換えスイッチ

作業に応じて選択するスイッチです。



「自動」…モンローマチックが自動的に作動します。

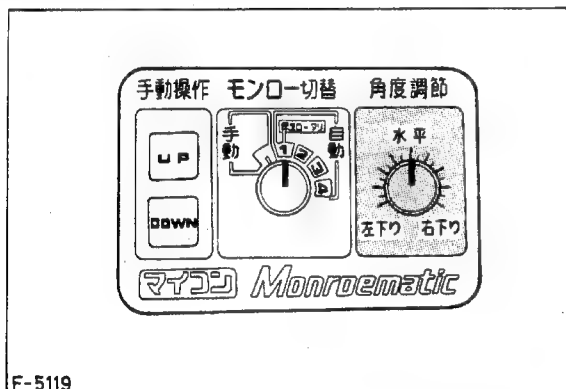
「手動」…モンローマチックが解除されます。

## 安全ポイント

- 道路走行時は必ず「手動」にして走行してください。  
また、落下調整グリップを締込んで作業機の落下を防止してください。

### ◆モンローマチック角度調節ダイヤル

モンローマチック切換えスイッチが「自動」の場合、作業機の姿勢を調節するときに使用します。



F-5119

- (1)ダイヤルを「水平」位置にすると、作業機は水平に保持されます。
- (2)ダイヤルを「左下り」方向に回すと、作業機が左下りに保持されます。
- (3)ダイヤルを「右下り」方向に回すと、作業機が右下りに保持されます。

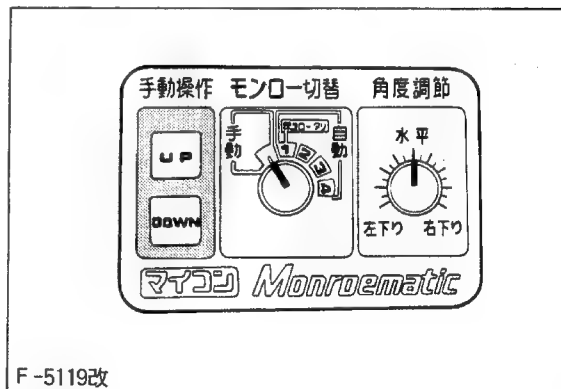
なお、作業機を上端付近まで上げたときは、作業機は車体と平行に保持されます。

### ◆モンローマチック手動スイッチ

モンローマチック切換えスイッチが「手動」の場合、作業機を手動で左右に傾斜させるときに使用します。

#### 注意

- モンローマチック切換えスイッチが「自動」のときは、手動スイッチは操作できません。



F-5119改

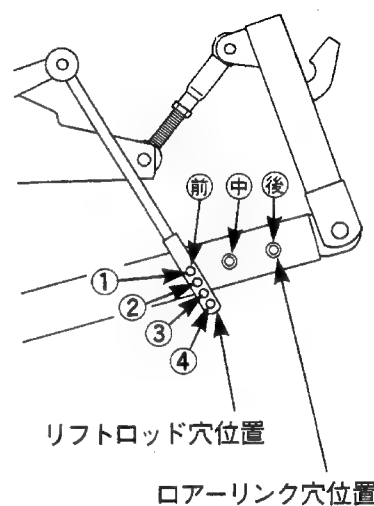
- (1)「UP」のスイッチを押している間、作業機の右側が上がります。
- (2)「DOWN」のスイッチを押している間、作業機の右側が下がります。

### ■モンローマチック切換えスイッチ「自動」時の調整のしかた

モンローマチック切換えスイッチ「自動」1, 2, 3, 4の切換えは、作業機によって定まる3点リンクの取付け状態(ロアーリンク幅及びロアーリンク穴)に応じて選択してください。

モンローマチック 切 換 え ス イ ッ チ		X-20, X-24			X-20H, X-24H		
		リフトロッド 穴位置	ロアーリンク 穴位置	作業機例	リフトロッド 穴位置	ロアーリンク 穴位置	作業機例
自動 1		1	前	クイックヒッチ付きロータリ、代かきロータリ(サターン用Aフレームオート3P)	2	前	クイックヒッチ付きロータリ、代かきロータリ(サターン用Aフレームオート3P)
		1	後	播種機	3	中	播種機
		2	中	プラウ	4	前	プラウ
自動 2		2	前	溝掘機 掘取機	2	前	掘取機
自動 3		3	前	クイックヒッチ無しロータリ	3	前	標準3P
自動 4		3	中	標準3P用 代かきロータリ	—	—	—

F-5119改



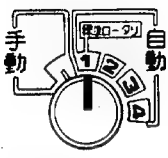
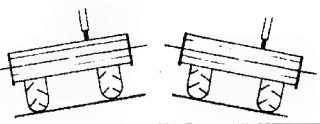

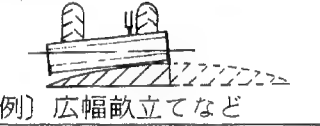
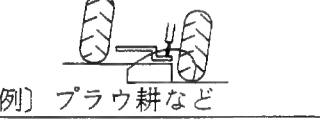
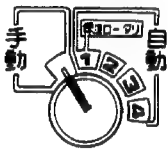
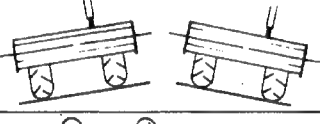



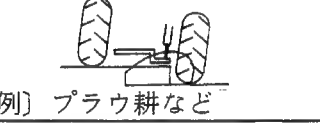
F-5211

良 い 例	リフトロッド	リフトシリンダ	悪 い 例	リフトロッド	リフトシリンダ
	同じ位置の穴			異なる位置の穴	

#### 注意

- リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は、左右対称になるようにしてください。

## ■モンローマチック用スイッチの操作と作業機の動き

モンローマチック 切換えスイッチ	ポジション レバー	角度調節スイッチ または 手動操作スイッチ	作 業 機 の 動 き	備 考
 「自動」位置	作業機 上昇位置	—	本機と 平行 	作業機が上昇すれば本機と平行になります。
	作業位置	角度調節スイッチ	水平  〔例〕ロータリ耕など	作業機が自動水平制御されます。
		左下り  〔例〕広幅畝立てなど	左下り	本機の傾きが変わっても作業機は一定の姿勢(角度)を保ちます。
		右下り  〔例〕プラウ耕など	右下り	本機の傾きが変わっても作業機は一定の姿勢(角度)を保ちます。
 「手動」位置	—	—	本機と 平行 	標準仕様機と同様に作業機は本機と平行です。
		手動操作スイッチ UP 	左下り  〔例〕広幅畝立てなど	本機と一定の角度を保ちます。
		手動操作スイッチ DOWN 	右下り  〔例〕プラウ耕など	本機と一定の角度を保ちます。

### ◆「自動」では次のような作業に効果があります。

(トラクタ本体の傾きにかかわらず、常に作業機を水平に保持、または一定の傾きに保ちます。)

(1)モンローマチック角度調節ダイヤルが「水平」位置の場合

- 水田でのあぜ際耕うん、枕地、凹凸地での均平耕うん。
- 整地板・ドライブハローなどによる均平作業
- 畑での畝立て、畝崩し作業など

(2)モンローマチック角度調節ダイヤルが「水平」以外の場合

- プラウ作業、広幅畝立てなど

### ◆「手動」では次のような作業に効果があります。

- メロンなどの高畝作り
- 作業機の着脱

#### 注意

- (1)「手動」で作業機を傾斜させるとき、作業機を上端に上げると、ジョイント騒音が高くなる場合がありますがこれは故障ではありません。
- (2)チェックチェーンを張りすぎると、モンローマチックでの作業時に3点リンクに無理な力がかかりますので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

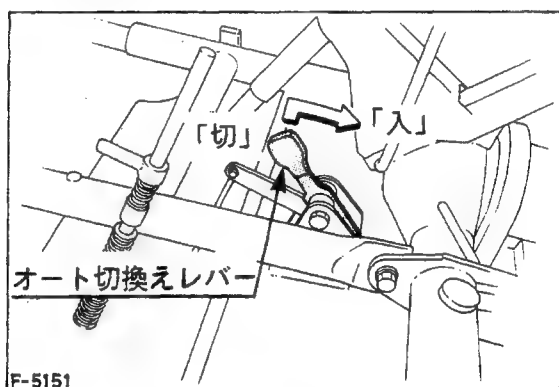
## メカオートロータリ【A仕様】の取扱い

### 2) メカオートの操作方法

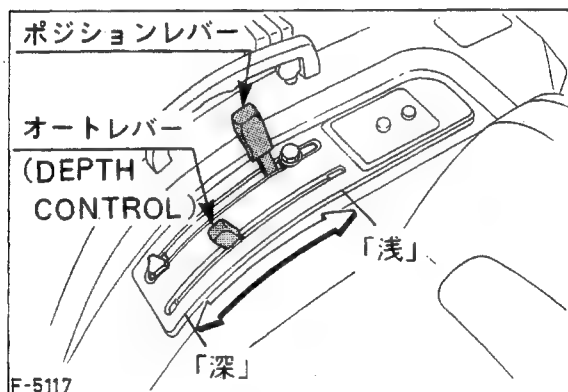
#### 安全ポイント

- 危険防止のためオート切換えレバーを操作する前には、必ずロータリを地面に降ろし、エンジンを停止してください。

(1) オート切換えレバーを「入」にしてください。



(2) 耕深の設定は、座席の右内側のオートレバーで行なってください。



(3) ロータリの上げ下げは、外側のポジションレバーで行なってください。

(4) メカオート作業は、ポジションレバーを最も「下げた」位置で行なってください。

(5) 畝立器装着時などロータリカバーをいっぱいに持上げて作業する場合は、オート切換えレバーを「切」にしてください。メカオートが解除されます。

#### ◆ ロッドの調整 (57ページ参照)

上方のロッドグリップは最上位置に、下方のロッドグリップは接地圧条件に合わせてセットしてください。

#### ◆ 後2輪ハンドルの調節

後2輪ハンドルを時計方向にいっぱいまで回してください。

#### ◆ ロータリの取外しかた (44ページ参照)

#### ◆ オートワイヤの点検・調整 (36ページ参照)

# 上手な運転のしかた

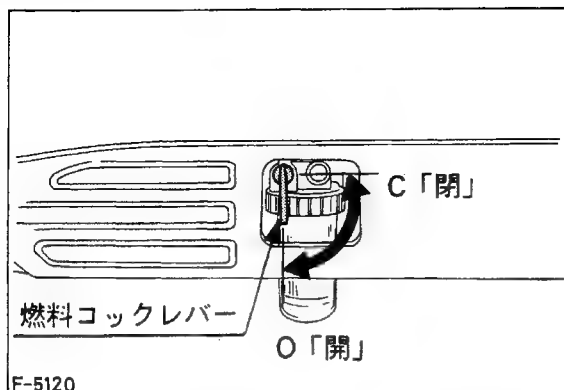
## エンジンの始動と停止

### 安全ポイント

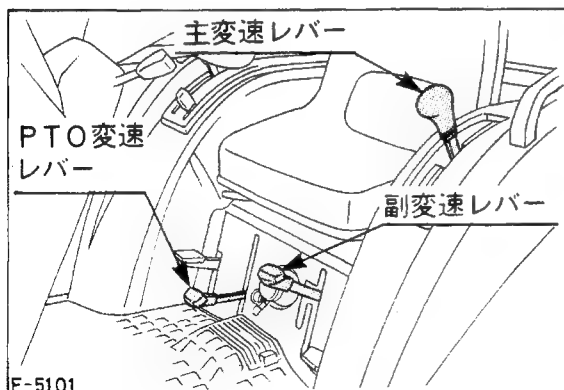
- (1)必ず座席に座って始動してください。  
エンジンの始動と同時にトラクタが動きだし、また、正常な運転ができなくて危険です。
- (2)閉めきった室内やビニールハウス内などで運転する場合は、換気を十分に行なってください。  
排気ガスは、人体に有害です。  
▶換気が不十分であると……  
排気ガス臭のため、気分が悪くなったり、目が痛くなったりすることがあります。

### ■始動のしかた

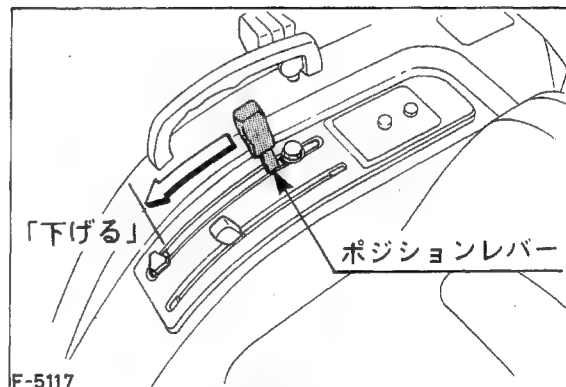
- ①燃料コックをO「開」にします。



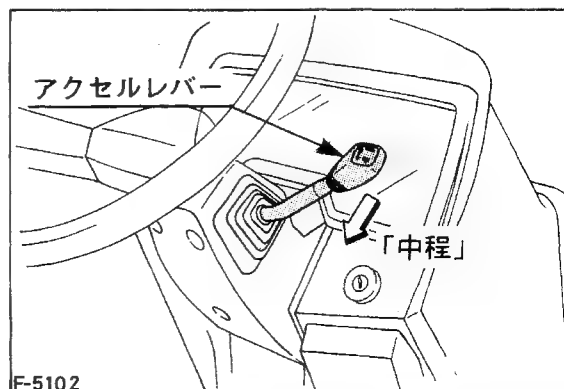
- ②主変速レバー、副変速レバー及びPTO変速レバーを「N」(中立)にします。



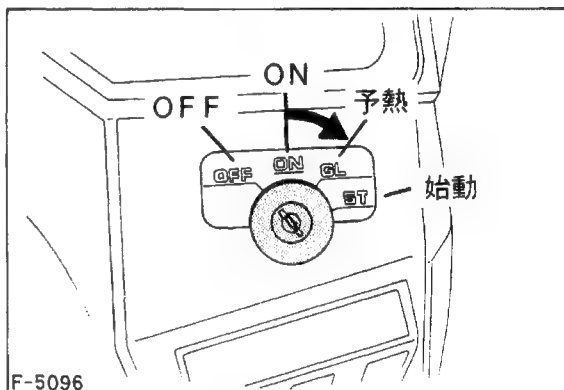
- ③ポジションレバーを「前方に倒し」作業機を下げます。



- ④アクセルレバーを「中程」まで引きます。



- ⑤メインスイッチにキーを差込み、「GL」(予熱)位置に回し、グローランプが消灯すれば予熱完了です。  
但し、外気温が-5℃以下のときは、消灯後も約5秒間予熱してください。
- エンジンが暖まっている場合は、不要です。

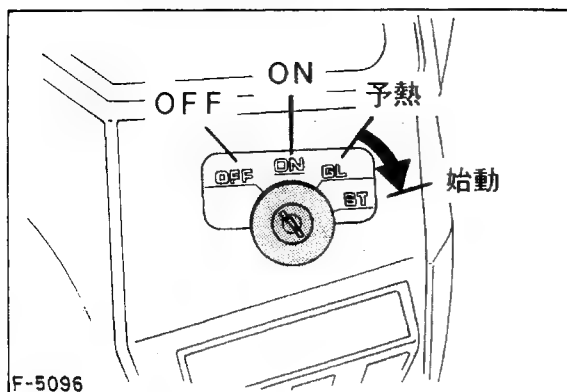


- ⑥クラッチペダルを「踏み込み」ます。

### 注意

- クラッチペダルを踏込まないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

- ⑦キーを「ST」(始動)位置に回します。



#### 注意

- セルモータは、大電流を消費しますので、20秒以上の連続使用は避けてください。

20秒以内に始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

- ⑧エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。自動的に「ON」にもどります。

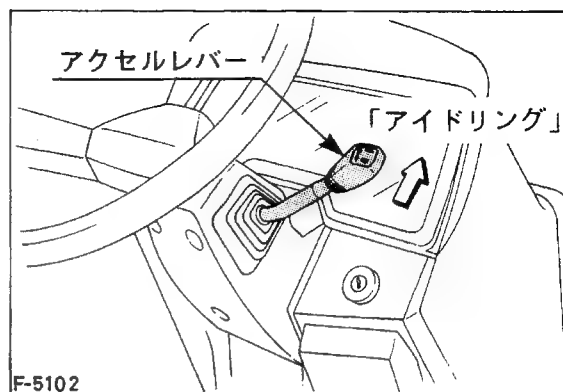
#### 注意

- エンジン回転中は、キーを「始動」位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

- ⑨クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま5分程度暖機運転しましょう。

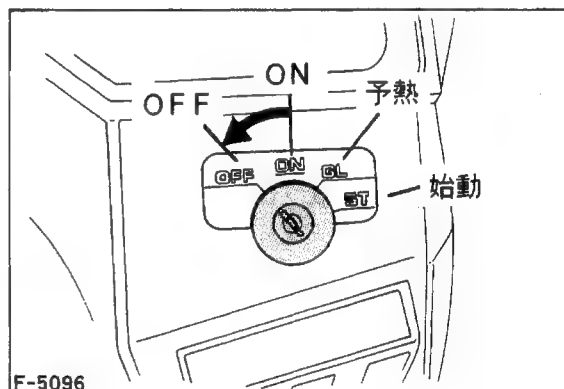
## ■停止のしかた

- ①アクセルレバーをいっぱい前へ「押し」てアイドリング状態にします。



- ②メインスイッチキーを「OFF」位置にすると、エンジンは停止します。

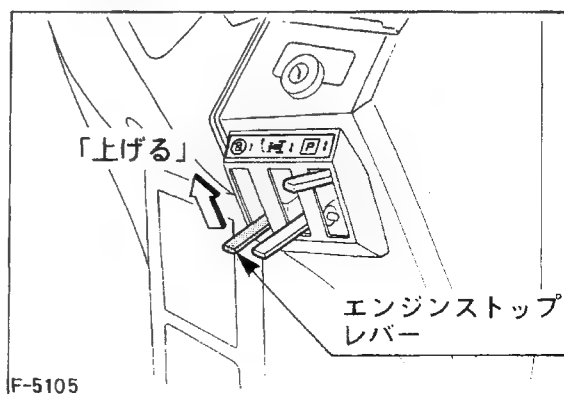
(万一停止しないときは、エンジンストップレバーをいっぱい「上げる」と停止します。)



- ③キーは必ず「抜き」ましょう。

#### 注意

- (1)エンジンストップレバーは、エンジンが完全に停止した後、元の位置まで下げておいてください。エンジンストップレバーを上げた状態では、エンジンは始動しません。



- (2)エンジンが停止して4～8秒後、カチッと音がしますが、これはエンジン停止装置が作動する音です。

## ならし運転と暖機運転

### ■ならし運転について (最初の約60時間)

この期間中は、特に次のことを守ってください。

- (1) 急なスタート、急ブレーキは避けてください。
- (2) フルスピードや無理な負荷をできるだけかけないようにしましょう。
- (3) 作業は、エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
- (4) 悪路や傾斜地では、速度を落としゆっくりと走行しましょう。

### ■暖機運転について

始動後、約5分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

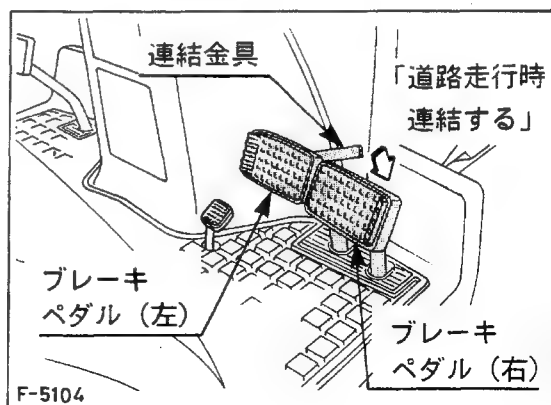
#### 注意

- 暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけましょう。

## 走行運転のしかた

### 安全ポイント

- (1) 道路を走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。  
▶ 連結しないで走行すると……  
ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの傷害事故を引き起こすことがあります。

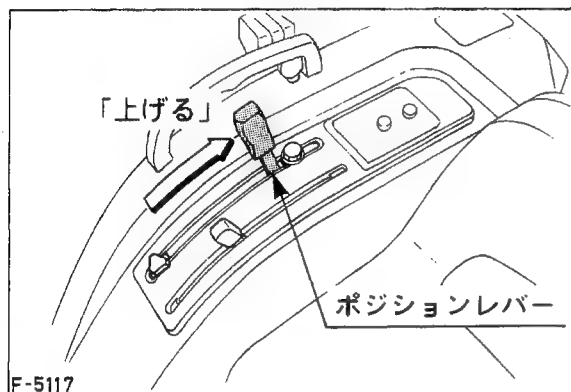


- (2) 道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。  
▶ 解除しないと……  
傷害事故を引き起こすことがあります。
- (3) トラクタを動かす前には、前後左右に注意し、トラクタの近辺に人を近づけないようにしてください。  
▶ 十分注意しないと……  
傷害事故を引き起こすことがあります。
- (4) 道路を走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。



## ■発進・走行のしかた

- ①左右のブレーキペダルは、必ず「連結」しておいてください。
- ②エンジン回転をアイドリングから「中速」回転にします。
- ③ポジションレバーを「後方に引き」作業機を上げます。



- ④クラッチペダルを「踏み込み」、主変速レバー及び副変速レバーを希望する位置に「入れ」ます。

### 注意

- 走行中は、変速することはできません。必ずクラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから、変速操作してください。
- ⑤駐車ブレーキを解除し、クラッチペダルをゆっくり離せば、トラクタが動き始めます。

### 注意

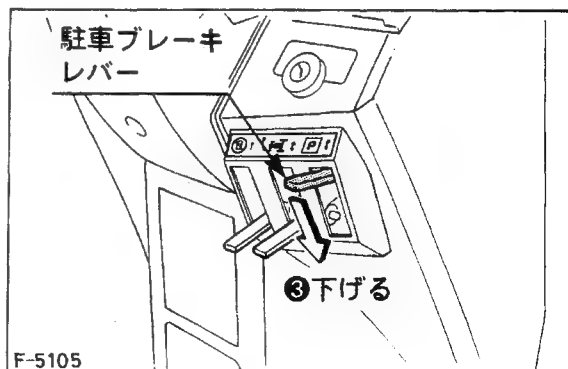
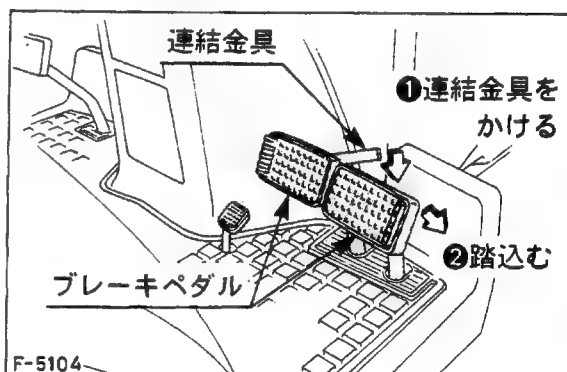
- (1)走行中は、クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。  
足を乗せるとクラッチがすべっている状態になり、摩耗が早くなります。
- (2)クラッチペダルの操作は、切るときは早く、つなぐときはゆっくり操作してください。  
半クラッチ操作は、クラッチの摩耗を早めますので、できるだけ避けてください。

## ■停車のしかた

### 安全ポイント

- (1)トラクタを坂道の途中で止めておく場合は、必ずタイヤに車止めをしておきましょう。
- (2)トラクタを草やワラの上に止めて空吹きをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火する恐れがあります。
- (3)作業を終えてシートをトラクタにかけるときは、マフラやエンジンが十分冷えてからにしてください。

- ①アクセルレバーを前方に押して、エンジン回転をアイドリング状態にします。
- ②クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
- ③トラクタが完全に停止してから、副変速レバー及び主変速レバーを「N」(中立)にします。
- ④作業機を取付けている場合は、ポジションレバーをゆっくり「前方に倒し」作業機を下げます。
- ⑤駐車ブレーキを確実にかけてください。



- ⑥メインスイッチキーを「OFF」にして、エンジンを停止します。

## ■旋回のしかた

旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくり旋回してください。

## ■坂道での運転

- (1)坂道状況に応じた安全なスピードで、走行しましょう。
- (2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
- (3)下り坂ではエンジンプレーキを使いましょう。エンジンプレーキは車速を下げるほどよくききます。

### 安全ポイント

- (1)ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
- (2)坂道では主変速を中立にしたり、クラッチを切ったりしないようにしましょう。
- (3)下り坂では、エンジンプレーキを活用し、クラッチペダルは踏込まないようにしましょう。  
▶これらを守らないと……  
傷害事故を引起すことがあります。

## ■公道走行中の注意

- (1)公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
- (2)夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ライトスイッチを下向き照射にし、対向車の妨害にならないように注意しましょう。
- (3)左右のブレーキペダルは、必ず「連結」しておいてください。
- (4)ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると、「道路運送車両法」に違反することもあるので注意しましょう。
- (5)踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認をしてから、速やかに渡ってください。

### 注意

- 作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯光の色などの制限)において、「走行中は使用しない灯火」とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されています。

### 安全ポイント

- (1)ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
- (2)道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転を心がけましょう。  
▶法規を守らないと……  
交通事故を引起すことがあります。
- (3)運転者のほかは乗せないようにしましょう。  
▶運転者以外の人を乗せると……  
傷害事故を引起すことがあります。
- (4)道路ぎわに溝や傾斜がある農道を走行するときは、特に路肩に注意しましょう。  
▶十分注意しないと……  
転落による傷害事故を引起すことがあります。
- (5)ロータリなど作業機を装着して道路走行すると、トラクタの前部が軽くなって、ハンドルの切れが悪くなり危険です。

## ■トラックへの積込み積降ろし

トラックへの積込みは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」しバックで行なってください。

万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

## ■ほ場への出入り時の注意

- (1)左右のブレーキペダルは、必ず「連結」しておいてください。
- (2)ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。  
アユミ板などを利用してください。
- (3)ほ場への出入りは、あぜと直角に行なってください。
- (4)登り始めは、作業機を下げて進むと、前輪が浮き上がりません。  
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。  
常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
- (5)4WDは、あぜなどバックで上がる時格段に能力を発揮します。

### 安全ポイント

- 傾斜地で作業する場合は、転倒しやすくなりますので、前後左右のバランスに注意して作業してください。

## ■運転中の作動点検

トラクタの運転中は、各部が円滑に作動しているかどうかを、絶えず注意してください。

### ◆オーバーヒートしたときの処置

オーバーヒート(水温計の針が「H」にあるとき)したときは、

- ①作業を中止し、
  - ②エンジンを約5分間アイドリング回転してから、
  - ③エンジンを停止し、安全ポイントに注意して、次の点検・整備をしてください。
- (1)冷却水の量(不足)、及び水もれがないか。
  - (2)防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に、泥やゴミが付着していないか。
  - (3)ファンベルトのゆるみがないか。

### 安全ポイント

- ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、停止後10分以上たって冷えてからにしてください。
- ▶すぐ開けると……  
熱湯によりヤケドすることがあります。

### ◆次の場合には、直ちにエンジンを止めてください。

- (1)回転が急に下降したり上昇したりする。
  - (2)突然、異常な音をたてた。
  - (3)排気色が急に黒くなった。
  - (4)運転中、エンジンオイル油圧警告灯が点灯した。
- 点検整備は、販売店又は農協にご相談のうえ、その指示にしたがってください。

## 上手な装置の使いかた

### ■クリープ速度の使いかた【L仕様】 〔副変速レバー「C」位置（超低速度）〕

クリープ速度は、使用する作業と取扱いかたを誤ると故障の原因になります。

次のことに注意してお使いください。

#### (1)使用できる作業

- ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
- ロータリで、ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
- プランタによる移植作業。
- 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
- 車への積み込み、積降ろしをするとき。

#### (2)使用できない作業（故障の原因になります）

- 湿田での沈没状態から脱出する作業。
- けん引・トレーラ作業。
- フロントローダ作業。
- フロントブレード作業（除雪作業）。
- 土木作業。
- ほ場への出入り。

#### (3)クリープ速度を使用するときは、必ず次のことを守ってください。

- 変速は、クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
- 発進は、必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
- 停止は、必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

#### 注意

- (1)クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので、ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。あまり強く踏むと故障の原因になります。
- (2)クリープ変速では、けん引をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると、故障の原因になります。

### ■前輪駆動の使いかた

前輪駆動は、次のような場合にお使いください。

- (1)傾斜地、湿田、トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
- (2)砂地で作業をする場合。
- (3)固い農場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

#### 注意

- 舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。タイヤの摩耗を早めます。

また、高速走行時に前輪駆動を入れたまま急ブレーキをかけると、思わぬ事故の原因になります。

### ■倍速ターンの使いかた【B仕様】

倍速ターンは、畑、水田などのロータリ耕作業に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してお使いください。

#### 注意

- ローダ、トレーラなど前輪に重荷重がかかる作業やブラウなど速度の速い作業には、使用しないでください。

#### 安全ポイント

- (1)倍速ターンに入れたままではほ場以外を走行すると危険です。ほ場から出る前に必ず倍速ターンを「切」にしてください。
- (2)ほ場内であっても区画整理されていない変形ほ場では、必ず倍速ターンを「切」にしてください。  
▶倍速ターンのまま走行すると……  
傷害事故を引き起こすことがあります。

## ■デフロックの使いかた

デフロックは、次のような場合には非常に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してお使いください。

- (1)農場への出入りやフロントローダ作業時などで、片車輪がスリップして直進できないとき。
- (2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み、スリップして走行できなくなったとき。
- (3)プラウ作業など大きいけん引力を必要とする作業で、車輪がスリップしたとき。

### 注意

- (1)デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてください。
- (2)抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- (3)デフロックを使用しないときは、足をペダルにのせないでください。

### 安全ポイント

- デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。旋回の前に必ず解除してください。

▶入れたまま旋回すると……

傷害事故を引起すことがあります。

## ■けん引ヒッチの使いかた(別途購入品)

### 注意

- けん引作業をする場合は、必ずけん引ヒッチをお使いください。

### 安全ポイント

- (1)けん引作業をする場合は、必ずけん引ヒッチを使用し、トップリック取付け台でけん引しないでください。

▶けん引ヒッチを使わないと……

転倒による傷害事故を引起す恐れがあります。

- (2)3点リンクに取付け、PTO軸からユニバーサルジョイントで駆動するインプルメント(ロータリ、ブロードキャストなど)を使用するときは、外してください。

▶けん引ヒッチを付けたまま作業すると…ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当たって破損し、災害を起す危険があります。

## ■パワーステアリングの取扱い上の注意 【パワーステアリング仕様】

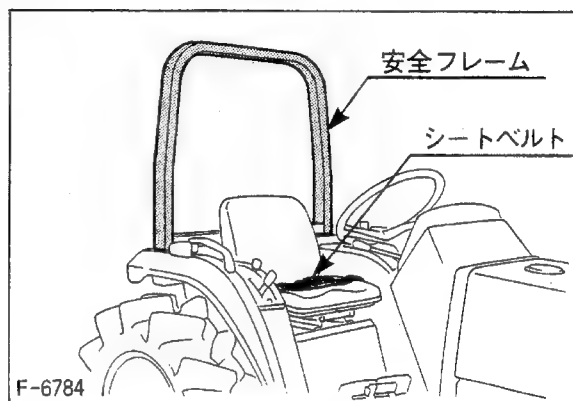
- (1)パワーステアリングは、エンジン運転中だけ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。  
なお、エンジン停止時は、ハンドルの遊びが大きくなりますが、機能上問題はありません。
- (2)ハンドルをいっぱい切ると、安全弁の作動音(リリース音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
- (3)走行しないでハンドルを切るような操作は、タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
- (4)冬期は暖機運転を十分に行なってから使用してください。
- (5)配管などの修理は、ゴミが入らないよう十分清潔にして行なってください。
- (6)ハンドル操作が大変軽くなりますので、道路は慎重に走行してください。

## 安全フレームとシートベルトについて【Y仕様】

Y仕様は安全フレームを標準装備しております。

安全フレームは、万一のときに少しでも被害を軽減するためのものであって、すべての傷害を防げるものではありません。

運転中は、安全フレームと合せ、必ずシートベルトを着用し、常に安全運転を心がけてください。



### 安全ポイント

- トラクタを使用するときは、安全フレームを外して運転しないでください。また、運転中は必ずシートベルトを着用してください。
- ▶シートベルトを着用しないと……  
転倒したときに重大事故を起こすことがあります。

# トラクタ使用前の点検について(仕業点検)

## 作業前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

### 安全ポイント

- 点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

## ■点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日、異常のあった箇所

(2) トラクタの回りを歩いて

- ランプ類の点灯及び汚れ、損傷
- ナンバプレートの汚れ、損傷
- タイヤの空気圧、き裂、損傷、摩耗……※1
- タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- 反射器の汚れ、損傷
- ミッションオイルの量及び汚れ……※2
- 燃料フィルタの水抜き、沈澱物の点検
- PTO軸カバーの取付け
- 冷却水、オイル、燃料漏れの点検
- 前車軸ケースオイルの量……※3

(3) ボンネットを開けて

- エンジンオイルの量及び汚れ……※4
- リザーブタンクの冷却水の量、ラジエータキャップのしまり……※5
- エアークリーナの詰まり……※6
- ファンベルトの張り具合、損傷……※7
- バッテリー、配線、マフラ部の清掃……※8
- 防虫網の清掃

(4) 運転席に座りエンジンを始動して

- 燃料計の作動
- 燃料は十分か、燃料キャップの締付け
- イージーチェッカの点滅具合
- ヘッドランプの作動
- トラクタメータの作動
- ウインカランプの点滅
- ホーンの作動
- バックミラーの写影
- ブレーキペダルの遊び……※9
- クラッチペダルの遊び……※10
- ハンドルの遊び・ガタ……※11
- ポジションレバーによる油圧昇降及び作業機取付ピンの脱落
- 排気ガスの色、異常音……※12

(5) エンジンを始動して、徐行しながら

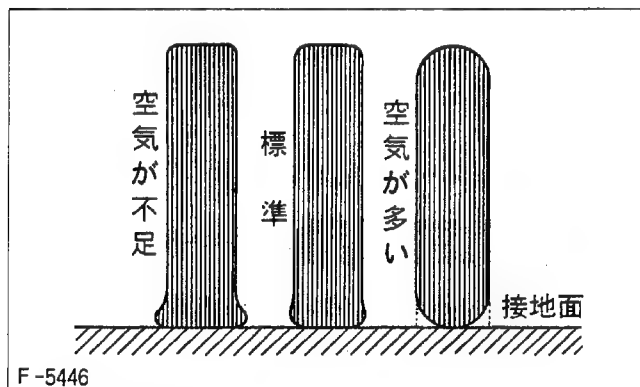
- 水温計の作動
- ブレーキの効き、片効き
- ハンドルの重さ、振れ、取られ

※印は、次に作業要領を説明してあります。

## 作業点検のしかた

### 1 タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。  
外観から判断する目安はつぎの通りです。



#### ◆標準空気圧

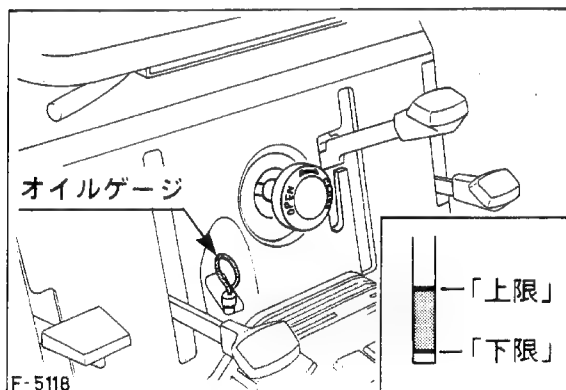
	空気圧(kgf/cm <sup>2</sup> )
前 輪	1.2
後 輪	1.0

#### 注意

- タイヤに表示している空気圧(1.6kgf/cm<sup>2</sup>)にしないで、上記の標準空気圧にしてください。  
後輪の空気圧が高すぎるとタイヤに土の付着が多くなり、作業効率が低下しますので適正な空気圧にしてください。

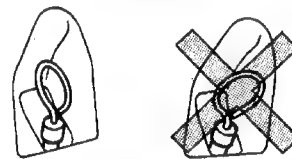
### 2 ミッションオイルの量

- ① オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
- ② 「下限」以下の場合は補給してください。ただし「上限」以上には入れないでください。



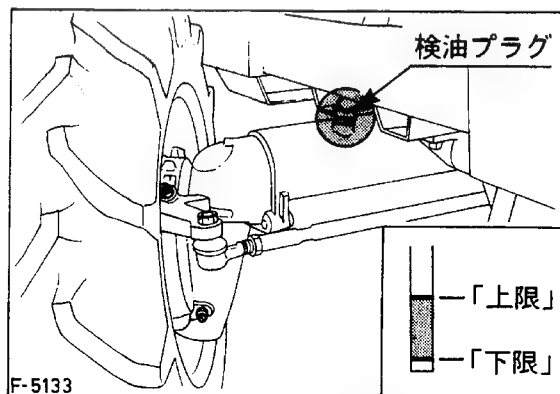
#### 注意

- (1) 点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
- (2) オイルゲージを差込むとき、輪の部分の向きに注意してください。



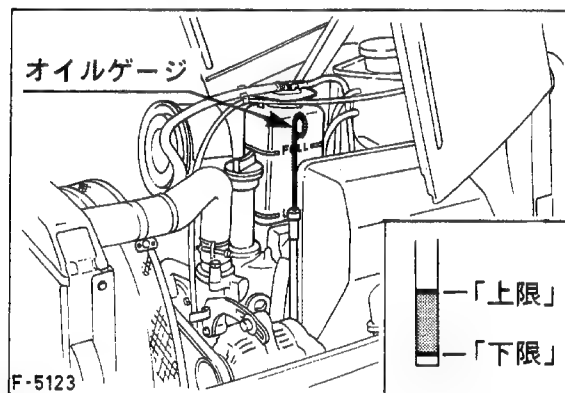
### 3 前車軸ケースオイルの量

- ① 検油プラグを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
- ② 「下限」以下の場合は補給してください。ただし「上限」以上には入れないでください。



### 4 エンジンオイルの量

- ① オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
- ② 「下限」以下の場合は補給してください。ただし「上限」以上には入れないでください。



#### 注意

- オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約3分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

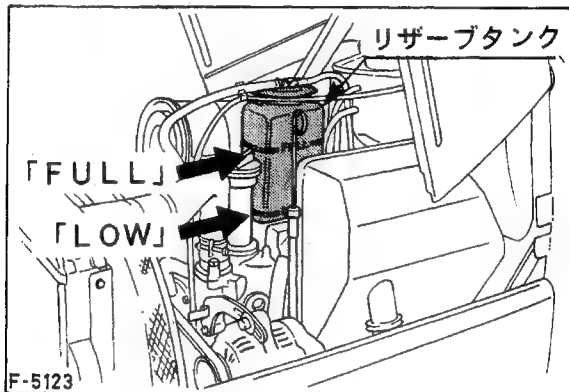


## 5 冷却水の量

ラジエータには、リザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給する構造になっています。

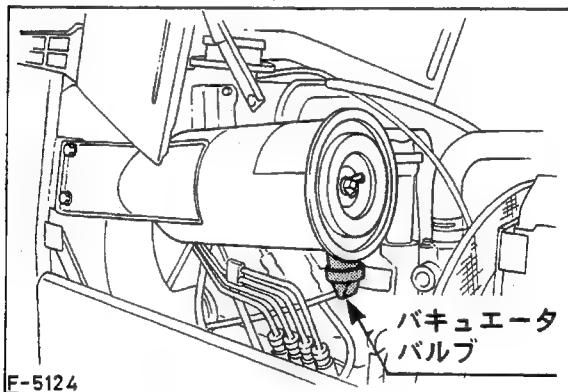
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。「FULLからLOWの範囲」であれば適量です。冷却水が「LOW」以下の場合は、「FULLのレベルのすぐ下」まで補給してください。

「FULL」以上は入れないでください。



## 6 エアークリーナのバキューエータバルブの清掃

バキューエータバルブを取外して、大きなゴミを取除いてください。よごれや水分があるときは、布などできれいにふき取ってください。



## 7 ファンベルトの張り具合

ベルトの中央部を指先で押えて、約7mm程度たわむか確認してください。

## 8 配線及びエンジン周りの清掃

バッテリー、配線、マフラ及びエンジン周辺部にワラクズ、ゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となり危険です。毎日作業前に点検し、きれいに取除いてください。

## 9 ブレーキペダルの遊び

### 安全ポイント

- 左右のブレーキペダルの踏み込み量を、必ず同じ(差が5mm以内)に調整してください。

左右のペダルの遊び量が20～30mmあるか確認してください。

## 10 クラッチペダルの遊び

ペダルの遊び量が20～30mmあるか確認してください。

## 11 ハンドルの遊び

ハンドルの遊びが20～50mmの範囲内にあるか確認してください。

## 12 排気ガスの色

無 色……正常

黒 色……燃料が濃すぎるため不完全燃焼です。

青白色……冷機時アイドリング運転では、青白く見えることがありますが異常ではありません。

# トラクタの簡単な手入れと処置

## 安全ポイント

- 給油及び点検整備するときは、①トラクタを平たんな広い場所に置き、②エンジンを止め、③駐車ブレーキをかける、など十分安全を確認してから行なってください。
- ▶安全を確認せずに点検整備すると……  
傷害事故を引き起こすことがあります。

## 点検箇所について

■定期点検箇所一覧表（専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店・農協・弊社支店又は(株)クボタアグリにご相談ください。）

次の定期点検箇所一覧表に従って、定期点検を実施しましょう。

点 検 項 目		アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参 照 ページ
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年		
ミッションオイルの交換		◎					○							31	
エンジン オイルの 交 換	年間使用時間が 100時間以上の場合	◎	○		○		○		○		○			31	
	年間使用時間が 100時間以内の場合	◎	1 年 ごと									○			
ステアリングギヤボックスのオイル量 【標準ステアリング仕様】		○					○							32	
前車軸ケースのオイル交換		◎					○							32	
エンジンオイルフィルタカートリッジの 交換		◎			○				○					33	
ミッションオイルフィルタカートリッジ の洗浄		◎				○				○				33	
燃料フィルタエレメントの交換									○					33	
冷却水の交換													○	30	
ラジエータ内部の洗浄											○			31	
エアークリーナエレメントの清掃			○		○		○		○		○			33	
エアークリーナエレメントの交換												○ 6回 清掃毎		33	
油圧ホース取付けねじのゆるみ点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			29	
油圧・燃料パイプ締付けバンドのゆるみ 点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			29	
ラジエータホース締付けバンドのゆるみ 点検				○			○			○				29	
燃料パイプの交換													○	29	
ラジエータホースの交換													○	29	
バッテリー液点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			38	
車体各部のボルト, ナットのゆるみ, ピンなどの脱落		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—	
燃料タンクの清掃											○			—	

点 検 項 目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)										購入日から		参 照 ページ
	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
グリースの注入	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			32
ファンベルトの調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			35
クラッチハウジングの水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			34
電気配線の損傷及び接続部のゆるみ											○		39

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行なってください。

## ■給油(水)一覧表

給油(水)項目	容 量 (ℓ)		使 用 オ イ ル
	X-20	X-24	
燃 料	27		クボタディーゼル重油 又はディーゼル軽油
冷却水	3.9		清水又はクボタ不凍液 (50%)
エンジンオイル	4.1 (オイルゲージ上限全量で)		クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30
ミッションオイル	15		クボタ純オイルM80B 又はクボタ純オイルUDT
ステアリングギヤーボックスオイル 【標準ステアリング仕様】	0.2		
前車軸ケース	4		
グリースの注入 ・ クラッチペダル ・ ブレーキペダル ・ ペダル軸受	少 量		シャーシグリース

## ■エンジンの不調と処置

万一エンジンの調子が悪い場合は、次表により診断し、処置をしてください。

現 象	原 因	処 置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない	●燃料タンクを点検し、沈澱している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に、空気や水が混入している。	●パイプ及び締付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ●エアー抜きをする（29ページ参照）
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期はD10W30を使用）
	(4)バッテリーがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリーを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる（特に燃料フィルタの詰まり、空気混入に注意）。
	(2)エアークリーナが目詰まり。	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料切れ	●燃料を補給する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が100℃以上になったため。	●冷却水の量(不足)及び水もれの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●ラジエータの防虫網及びラジエータフィンにゴミの詰まりがないか点検する。

☆原因や処置のしかたがわからない場合は、お買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。

## 燃料について

### 注意

- 燃料計の針が「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。

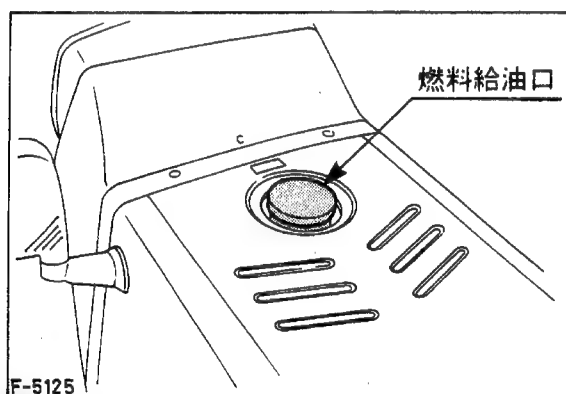
### 燃料

燃料は、「クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油」を使用してください。

ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種 類	ディーゼル軽油の流動点 (℃)
特 1 号	+ 5以下
1 号	- 5以下
2 号	-10以下
3 号	-20以下
特 3 号	-30以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、始動しにくくなります。



### 注意

- (1)燃料中にゴミや砂が混入すると、燃料噴射ポンプが作動不良になりますので、必ずこし網を通して補給してください。
- (2)燃料キャップが締まっているか確認してください。

### エア抜き

燃料のエア抜きは、

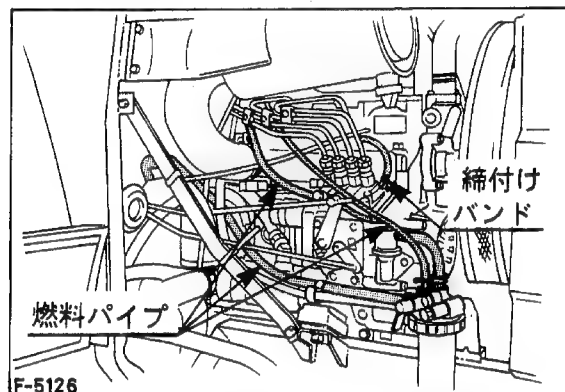
- 燃料フィルタ及び燃料パイプ類を外したとき
  - 燃料切れが起きたとき
  - トラクタを長時間使用しなかったとき
- などに行なう必要があります。

しかし、「ノータッチエア抜きシステム」になっていますので、燃料タンクに燃料を満たし、燃料フィルタのコックを開くと自動的にエアが抜けます。

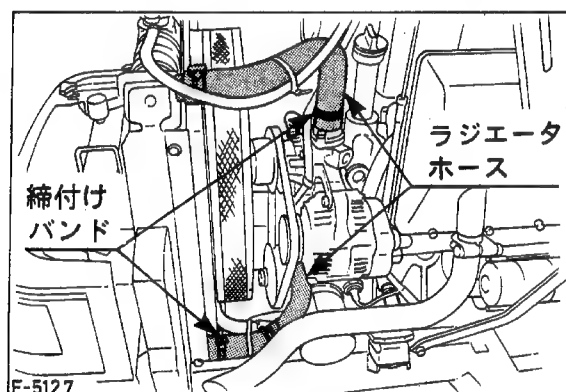
### パイプ類の点検

燃料パイプやラジエータホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンドと共に2年ごと又は傷んだときには新品と交換することが必要です。

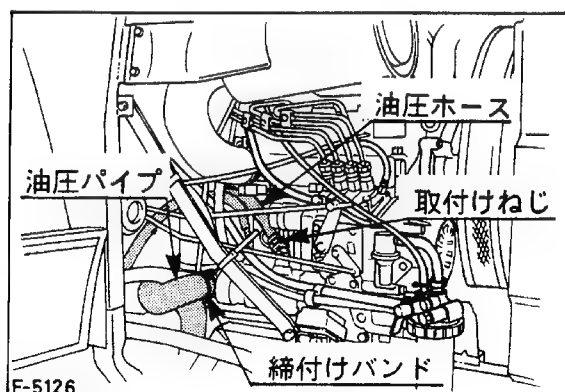
パイプ類や締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか常に注意してください。



F-5126



F-5127



F-5126

### 注意

- パイプ類の交換時にパイプ内や噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると、噴射ポンプ作動不良の原因になります。

## 安全ポイント

- 燃料パイプ、ラジエータホース、油圧ホースの傷みや締付けバンド、取付けねじのゆるみは、必ず点検しましょう。

▶傷みやゆるみがあると……

燃料もれによる火災や傷害事故、熱湯もれによるヤケドなどの事故を引起します。

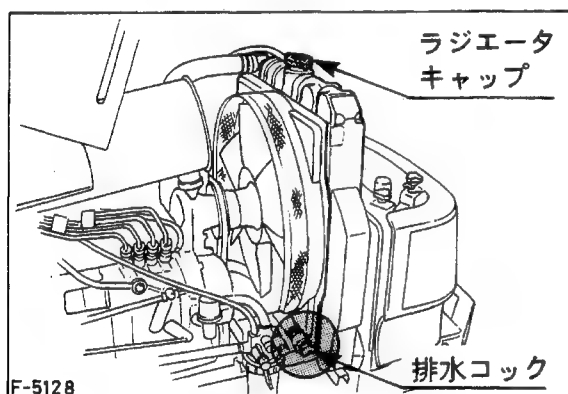
## 冷却水について

### 冷却水の交換

- ①冷却水を抜くときは、排水コックを開くと共にラジエータキャップを外して、冷却水を全部出します。

エンジン内の冷却水も同時に排水します。

リザーブタンクの排水は、ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。



- ②水道の水でラジエータ内を洗浄し、排水コックを閉めオーバフローパイプを取付けます。
- ③ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に締めてください。
- ④エンジンを始動しますと冷却水がエンジン内に送られ、ラジエータ内の冷却水が少し減少しますので、再度エンジンを止めて補水してください。

## 安全ポイント

- ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、停止後10分以上たって冷えてからにしてください。

▶すぐ開けると……

熱湯によりヤケドすることがあります。

## 不凍液の使いかた

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは、必ず不凍液(ロングライフクーラント)をあらかじめ清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は、長期保管する場合は冷却水を完全に排水してください。

[工場出荷時は、不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。]

### 注意

- (1)冷却水には、不凍液

(ロングライフクーラント)を50%入れて、よく水と混ぜ合せてからお使いください。

- (2)不凍液の混合比を誤

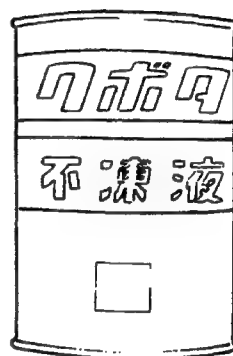
ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバヒートの原因になります。

- (3)不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。

不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。

- (4)クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。

必ず2年で交換してください。

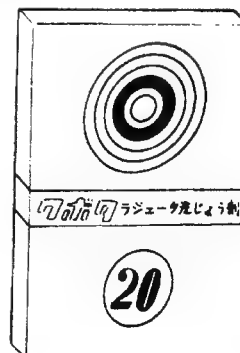


Z-1007

## ラジエータの洗浄

ラジエータ内は、クボタラジエータ洗浄剤No.20を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。

- 500時間運転ごと
- 不凍液を使用するとき
- 不凍液から水だけに変えるときなどに使用してください。



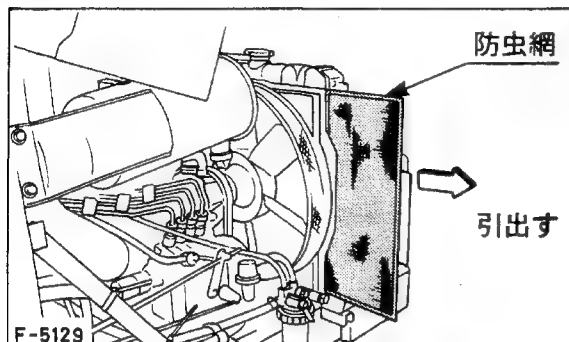
Z-1009

## ■防虫網の清掃

### 安全ポイント

- エンジンには必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業を行なうと、防虫網に草の実やこん虫などが付着し詰まることがありますので、必ず防虫網を清掃してください。



## ■ラジエータコアの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水(圧力水)で流してください。

### 注意

- ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。フィンに傷めラジエータの機能を低下させる原因になります。

## ■ラジエータから水漏れした場合

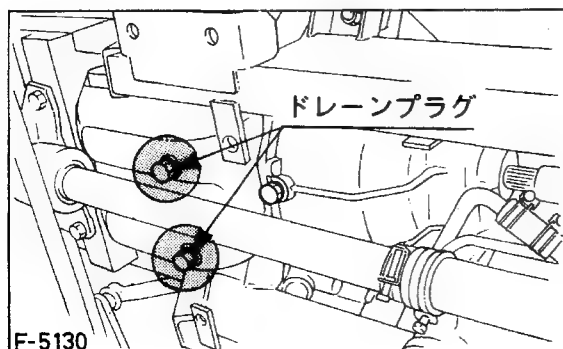
- (1)少しの水漏れの場合は、クボタラジエータセメントNo. 40を使用すれば止まります。
- (2)水漏れが激しい場合は、お買いあげの販売店・農協にご相談ください。

## 給油と注油について

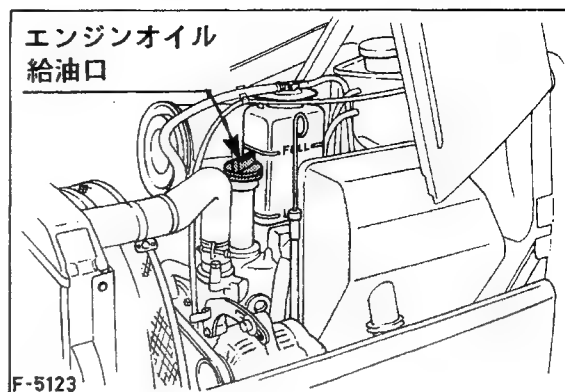
使用するエンジンオイル、ミッションオイル、ギヤオイルは、必ず「クボタ純オイル」を使用してください。(66ページ参照)

## ■エンジンオイルの交換

- ①ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

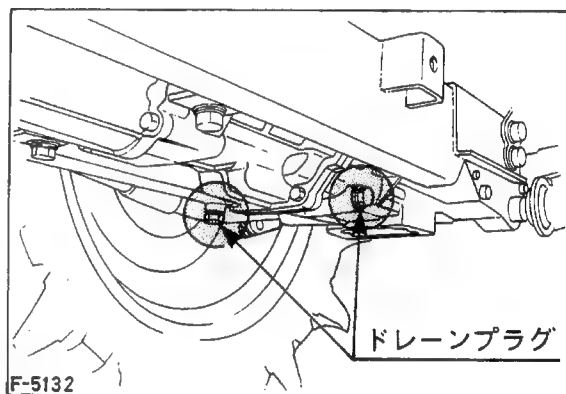


- ②給油口からエンジンオイルを、規定量入れてください。



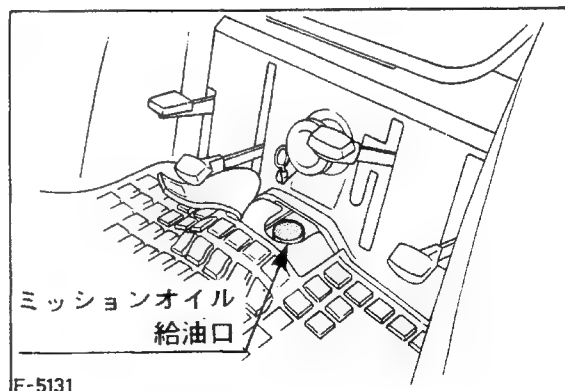
## ■ミッションオイルの交換

- ①ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



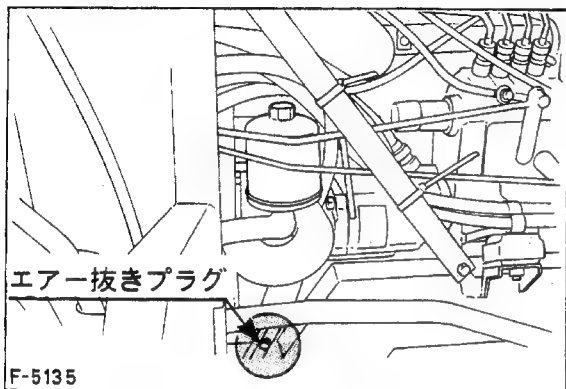
### 注意

- 給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。
- ②給油口からミッションオイル(約15ℓ)を入れてください。





- ③ エアー抜きプラグを外しエアを抜きます。

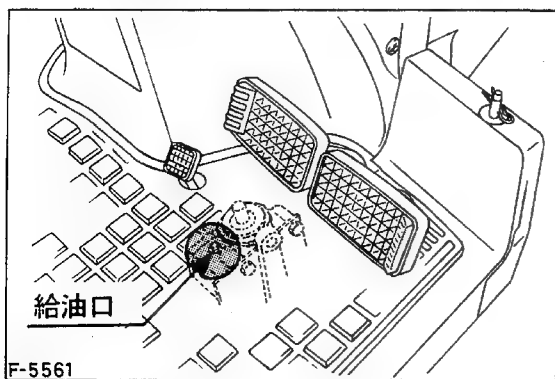


- ④ エア抜きプラグを確実に閉めてください。

## ■ステアリングギヤボックスのオイル量【標準ステアリング仕様】

### ◆オイルの点検

給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。

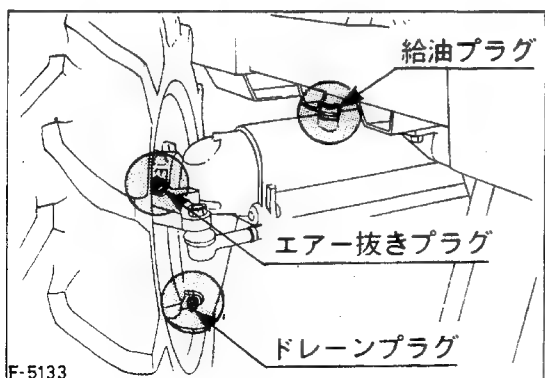


### ◆オイルの補給

不足している場合は、給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

## ■前車軸ケースオイルの交換

- ① ドレインプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。
- ② エア抜きプラグを外し、給油口から新しいオイルを規定量入れてください。
- ③ エア抜きプラグを確実に閉めてください。



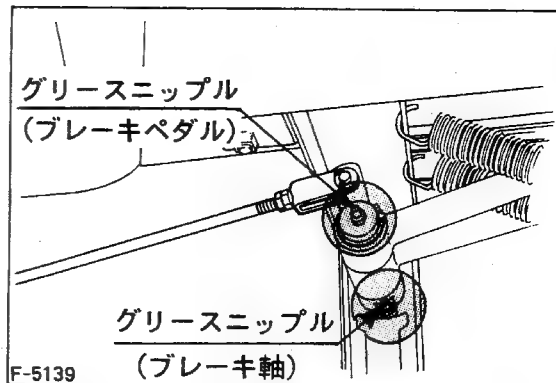
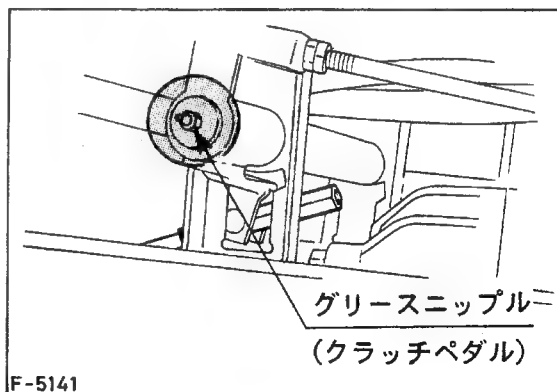
## ■グリースの注入

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などで、泥水の中に入ったときは1日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。

グリースは、「クボタ推奨グリース」を使用してください。(66ページ参照)

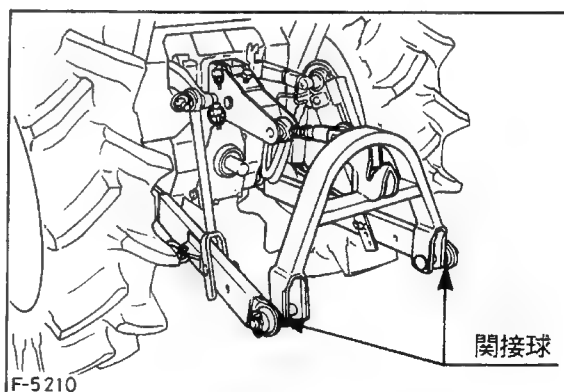
### ◆各部へのグリース注入

シャーシグリースを少量注入します。



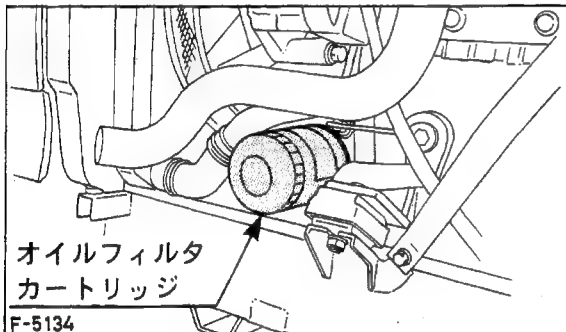
## ■関節球へのグリースの塗布

リフトシリンダ・リフトロッド・ロアーリンク・トップリンクの関節球の球面にシャーシグリースを塗布してください。



## フィルタの交換と洗浄について

### ■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

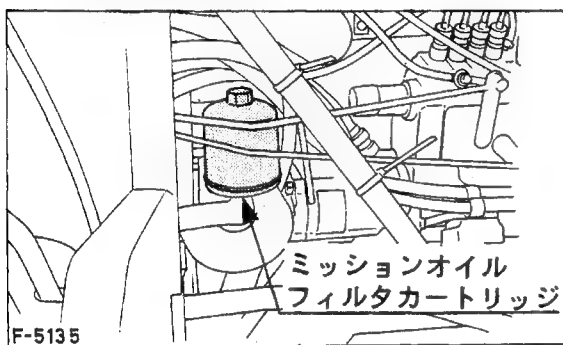


- ① フィルタレンチで取外します。
- ② 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
- ③ エンジンオイルを規定量まで補給します。
- ④ 約5分間運転し、オイルランプの作動に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
- ⑤ 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していればエンジンオイルを補給してください。

### ■ミッションオイルフィルタカートリッジの洗浄

- ① 付属のスパナで取外します。

約1～2回転ゆるめて、1分間程置くと、カートリッジ内のオイルが抜け、周囲を汚さずにカートリッジを取外せます。



- ② ケース内のエレメントを取出し、軽油で洗浄します。
- ③ 取付け時、パッキン面にオイルを薄く塗布してください。
- ④ ケースをねじ込み、シール面にパッキンが接触してから手で確実に締付けます。
- ⑤ 約2分間運転し、作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

#### 注意

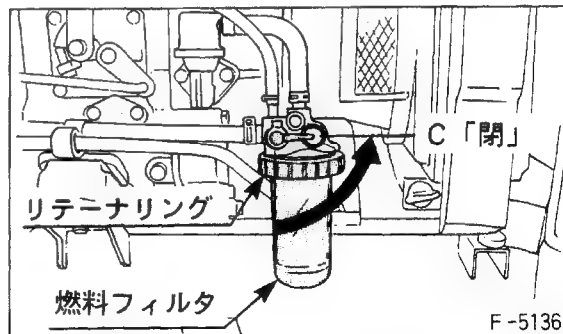
- エレメントを洗浄するときは、金網が損傷しないように注意してください。

### ■燃料フィルタエレメントの交換

- ① 燃料フィルタのコックを閉じてください。
- ② カップ上部のリテーナリングを左に回してカップを外し、カップ内部を軽油で洗浄します。
- ③ 新しいフィルタエレメントと交換します。

#### 注意

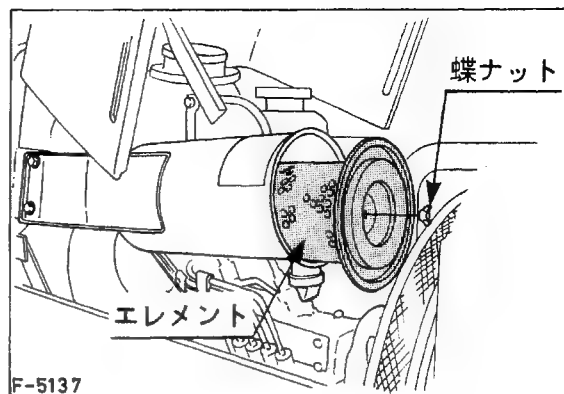
- (1) 組付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
- (2) エレメントを交換後は、必ずエア抜きをしてください。(29ページ参照)



### ■エアークリーナエレメントの清掃と交換

#### ◆エレメントの外しかた

蝶ナットを外し、エレメントを取出します。



#### ◆エレメントの清掃

エレメントの清掃は、エレメントの内側から空気を吹付けるか、又は手で軽く振ってゴミを取除いてください。

#### ◆エレメントの交換

エレメントの交換は、1年間使用後又は6回清掃ごとに交換してください。

#### 注意

- (1) 乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用してはいけません。
- (2) エレメントは、清掃・交換のとき以外はさわらないでください。

## 各部の点検・調整

### ■ブレーキペダルの点検・調整

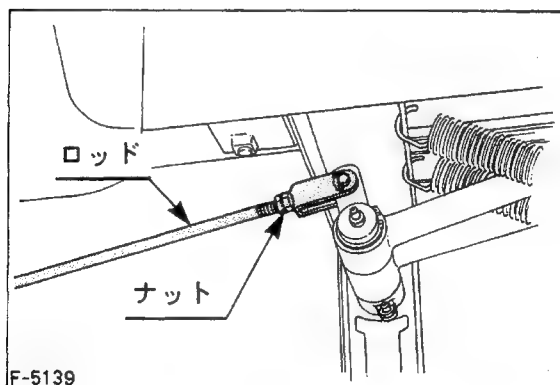
#### 安全ポイント

- (1) ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。  
常に作動状態に注意してください。
- (2) 調整時左右のペダル踏込み量を必ず同じ（差が5mm以内）にしてください。同じでないとブレーキが片ぎきになります。  
▶ ブレーキが片ぎきになると……  
傷害事故を引起すことがあります。

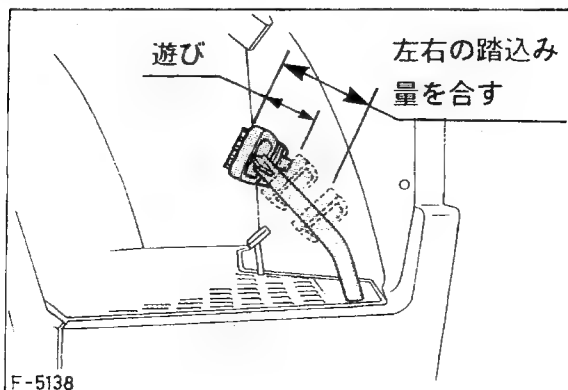
適正遊び量	ペダルで20～30mm
-------	-------------

#### ◆調整方法

- ① 駐車ブレーキを解除します。
- ② ナットをゆるめ、ロッドを回して、ペダル遊び量が左右とも20～30mmになるよう、また左右ブレーキの踏込み量が同じ（差が5mm以内）になるように調整します。
- ③ 調整後はナットを確実に締付けます。
- ④ 駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。



F-5139



F-5138

### ■クラッチペダルの点検・調整

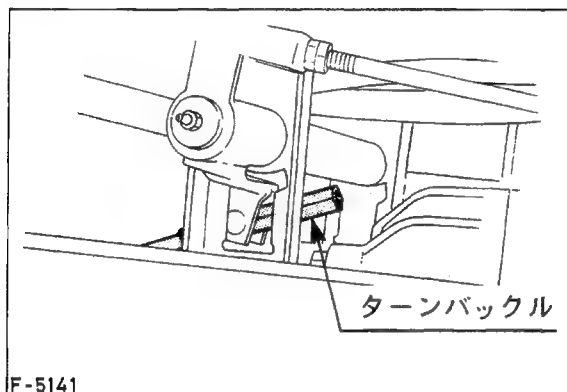
適正遊び量	ペダルで20～30mm
-------	-------------

#### 注意

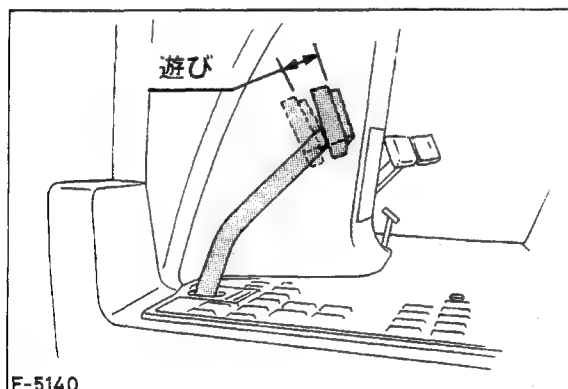
- クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起し損傷につながります。

#### ◆調整方法

ターンバックルを回して、ペダル遊び量を20～30mmになるよう調整します。



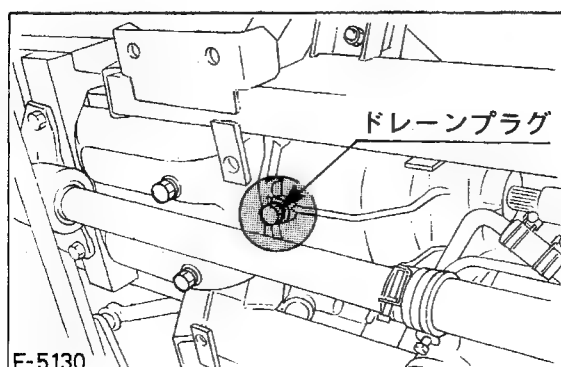
F-5141



F-5140

### ■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨中作業などで、クラッチハウジングに多量の水がかかった場合、又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレンプラグを外し、水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば、完全に抜いて内部をよく乾燥してください。



F-5130

## ■ファンベルトの点検・調整

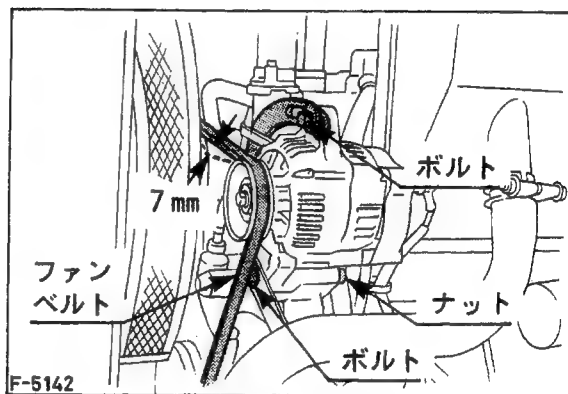
適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で押えて約7mmたわむ程度
--------	-------------------------

### 注意

- ベルトの張りがゆるいと、オーバヒートや充電不足の原因になります。

### ◆調整方法

- ①ダイナモを取付けているナットとボルトをゆるめます。
- ②ダイナモを動かし、ベルトの張りが約7mmたわむ程度に調整します。
- ③調整後は、ナットとボルトを確実に締付けます。
- ④ベルトにき裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



F-5142

## ■ハンドルの点検・調整

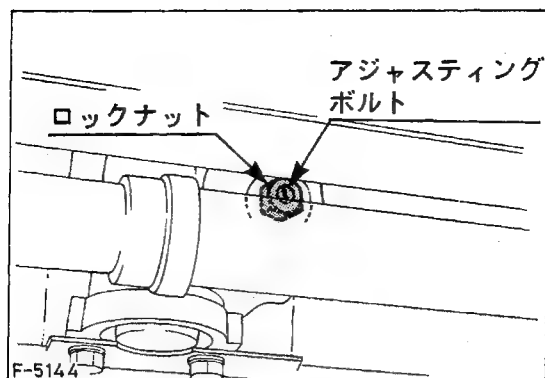
適正遊び量	ハンドルを動かして20～50mm
-------	------------------

### 注意

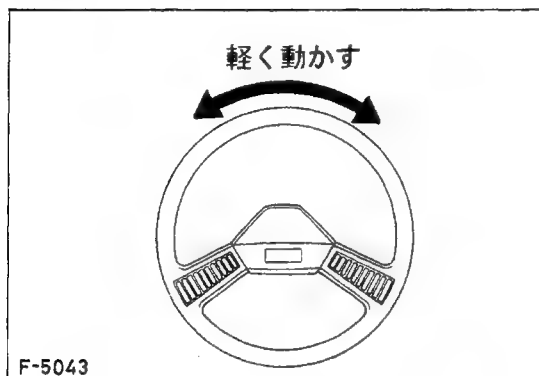
- (1)ハンドルの調整が悪いと、ハンドルが重くなったり、直進性が悪くなったりします。
- (2)パワーステアリング仕様のハンドルの点検・調整は、エンジンを始動して行なってください。

### ◆調整方法

- ①ロックナットをゆるめ、ドライバでアジャスティングボルトを回し、ハンドルの遊びが20～50mmになるよう調整します。
- ②調整後はロックナットを確実に締付けます。



F-5144



F-5043

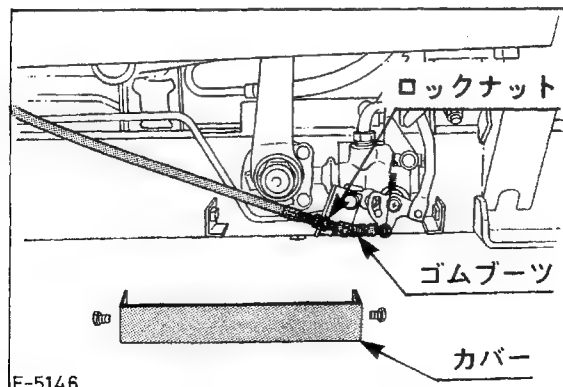
## ■倍速ケーブルの点検・調整【B仕様】

### 注意

- 倍速ターンレバーがスムーズに作動しない場合は、カバーを外し倍速ケーブルの先端を清掃した後、オイルを塗布してから調整してください。

### ◆調整方法

- ①ロックナットをゆるめ、副変速レバーが「N」(中立)のとき、倍速ターンが「入」「切」でき、副変速レバーが「3速」のとき、倍速ターンが入らないよう調整してください。
- ②調整後はロックナットを確実に締付けます。



F-5146

### 注意

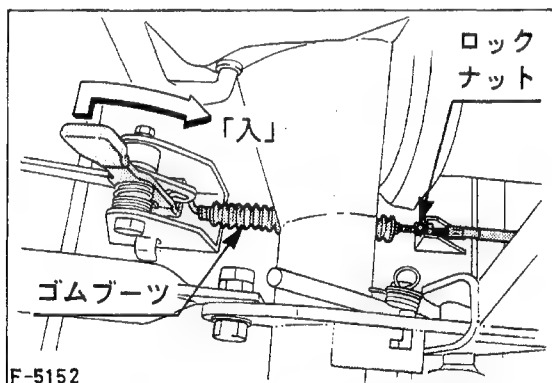
- 倍速ケーブル・ゴムブーツに、き裂・損傷がないか確認してください。

## ■オートワイヤの点検・調整【A仕様】

通常は調整をする必要はありませんが、分解したときなどは下記の要領で調整してください。

### ◆点検要領

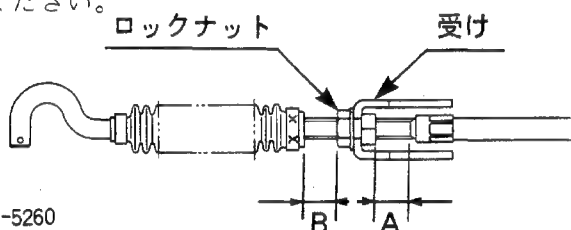
- ①トラクタを水平な場所に置いてください。
- ②ロータリを地面に降ろし、エンジンを停止してください。
- ③オート切換えレバーを「入」にしてください。



- ④エンジンを始動し、5分程度暖機運転してください。
- ⑤オートレバーを「上げ」位置にセットしてください。
- ⑥ポジションレバーでロータリを上げ、エンジンを停止し再び下げてください。
- ⑦このときロータリの爪軸中心の地上高が34～36cmになっているか点検してください。その範囲がない場合は次の要領で調整してください。

### ◆調整方法

- ①ロータリを地面に降ろし、エンジンを停止してください。
- ②ロックナットをゆるめ、ワイヤを受けから外してください。



F-5260

- ③四角ナットを調整後、再び受けに差込み、
- ④ワイヤが回動しないようにワイヤを手でロータリ側へ押し付けながら、ロックナットを締めてください。

ロータリを上げたいとき	A部を長くする
ロータリを下げたいとき	B部を長くする

### 注意

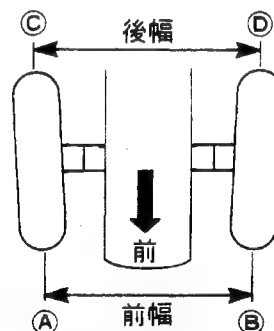
- オートワイヤ・ゴムブーツに、き裂・損傷がないか確認してください。

## ■トーインの点検・調整

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。

### ◆トーインの点検

前輪の前幅(A・B)と後幅(C・D)を測り、 $C \cdot D - A \cdot B = 2 \sim 8 \text{ mm}$ になっているかを調べます。

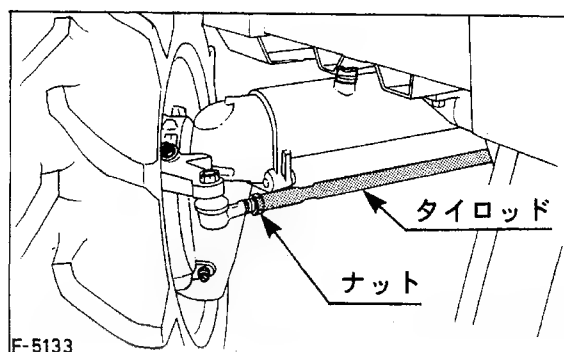


F-3197改

### ◆トーインの調整

左右のナットをゆるめ、タイロッドを回して $C \cdot D - A \cdot B = 2 \sim 8 \text{ mm}$ になるように調整します。

調整後は左右のナットを確実に締付けておいてください。



F-5133

## ■前車軸支持部ガタの点検・調整

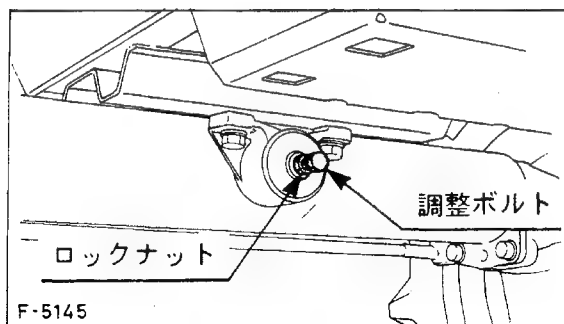
前車軸支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

### ◆支持部ガタの点検

前後方向のガタを点検し、ガタがあれば調整します。

### ◆支持部ガタの調整

ロックナットをゆるめ、調整ボルトを締込み、ガタを調整します。



F-5145

## 輪距の調整

### 安全ポイント

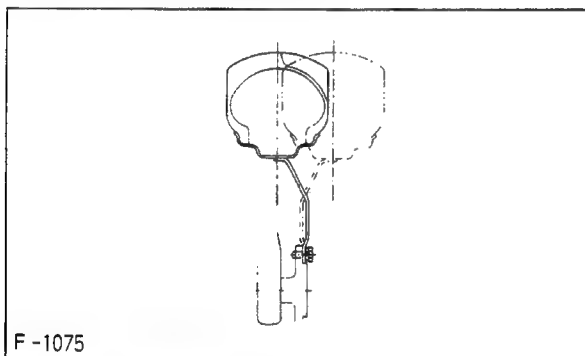
- けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。
- ▶輪距が狭いと……  
転倒による傷害事故を起すことがあります。

### ■前輪調節のしかた

前輪の輪距は変更できません。

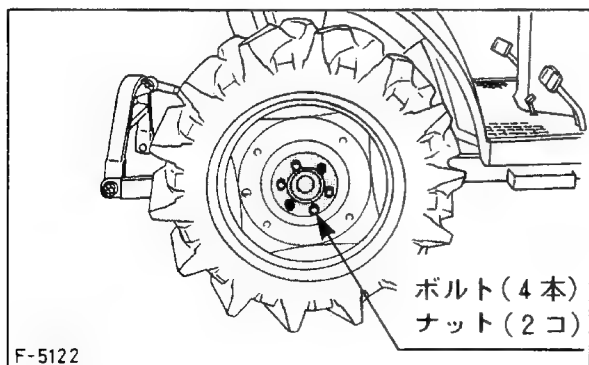
### ■後輪調節のしかた

後輪の輪距は2段階に調節できます。



### ◆後輪の交換

- ①ボルト・ナットをゆるめた後、ジャッキで左右の後輪を浮かします。
- ②ボルト・ナットをはずし、左右のタイヤを入換えます。



- ③交換後はボルト・ナットを確実に締付けてください。

#### 注意

- (1)タイヤは側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
- (2)ストレークは、最小輪距のときだけ取付けられます。
- (3)後輪ウエイトは、すべての輪距で取付けられます。

### ◆パワーアジャストタイヤの調節【T仕様】

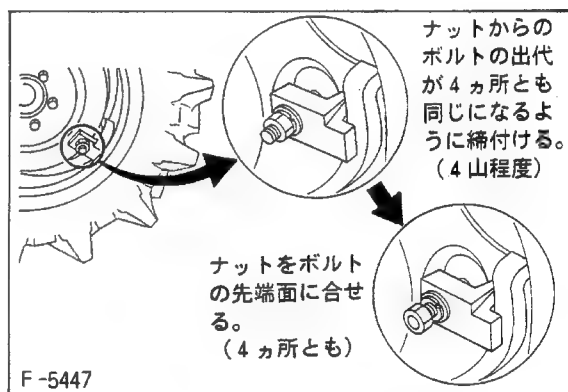
(X-24大径タイヤ仕様には、【T仕様】を採用していません。)

後輪の輪距は4段階に調節できます。

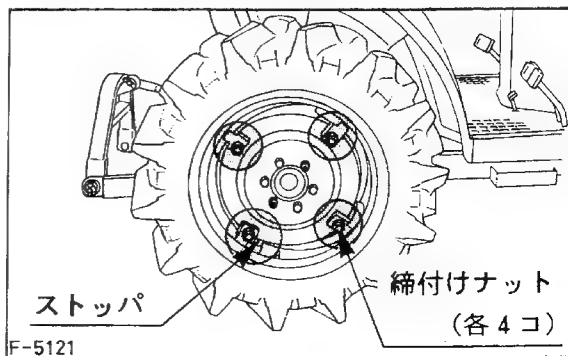
### 安全ポイント

- (1)締付けナットをゆるめる際は、必ずナットをボルトの先端面に合うまでゆるめてください。(4ヵ所とも)  
▶それ以上ゆるめると……  
後輪が外れ、転倒による傷害事故を起すことがあります。
- (2)調節は必ず片輪ずつ行なってください。
- (3)締付けナットからのボルトの出代が4ヵ所とも同じになるように締付けてください。  
▶ボルトの出代が同じでないと……  
ナットがゆるみ、後輪が外れることがあります。

- ①ストoppaを調節したい位置(4段階)に取付けます。
- ②「右(左)」後輪ディスク締付けナットを4ヵ所とも下図のようにゆるめます。



- ③エンジンを始動し、主変速レバーは輪距を広げる場合「2速」、狭くする場合「後進」にし、副変速レバーを「1速」、前輪駆動レバーを必ず「切」にした後、「左(右)」片ブレーキを踏んで、素早くクラッチを離すと後輪「右(左)」の調節ができます。



- ④ 4 コのナットのうち、機体の下方に位置する 1 ～ 2 コを最初に強く締込み、次に他のナットを最初に締込んだナットからのボルトの出代と同じようになるまで仮締めしてください。

- ⑤ 1 ～ 2 速程度で前進・後進を 3 ～ 4 m 間で 3 回繰返してください。

その後、ナットからのボルトの出代が 4 ヲ所とも同じになるように確実に締付けてください。

(F-5447 図 参照)

- ⑥ 作業開始約 1 時間後に 4 コのナットを必ず増締めしてください。(締付けトルク 18 ～ 20 kgf・m)

## 電気系統について

### 安全ポイント

- (1) バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

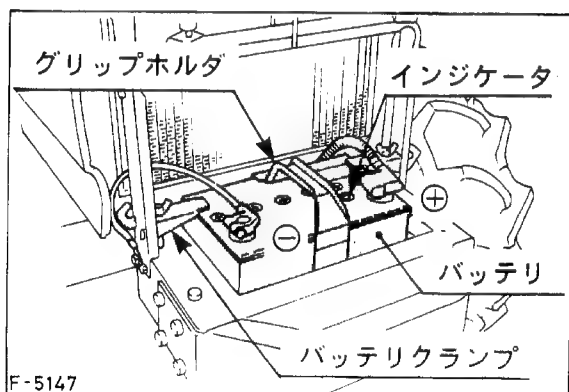
▶ 付着したまま放置すると……

希硫酸によって、ヤケドすることがあります。

- (2) バッテリーの点検及び取外し時には、エンジンを停止し、メインスイッチを「OFF」にしてください。

## ■ バッテリーの取付け、取外し

- ① バッテリー ⊖ コードを外し、左右の取付けボルトをゆるめ、図のようにバッテリークランプを引上げます。
- ② バッテリー ⊕ コードを外し、グリップホルダをゆっくり持ち上げて、バッテリーを取外します。
- ③ 取付けるときは、必ず ⊕ 側から取付けます。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。



F-5147

## ■ バッテリー液の点検

バッテリーは MF (メンテナンスフリー) バッテリーを使用していますので従来品に比べ、液の減り具合がきわめて少なくなっていますが上面にインジケータがあり、その表示状態によって精製水を補給、または補充電してください。

### ◆ インジケータの見方

Ⓐ ……OK です。Ⓑ ……点検してください。

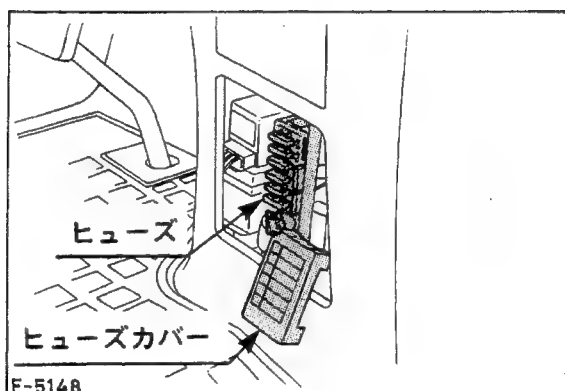
インジケータ表示状態	Ⓐ	電解液比重 電解液量	} 共に良好です。
	Ⓑ	要点検です (点検順序) ①液面が下っている場合精製水を補水し、Ⓐになればそのままご使用ください。Ⓑのままの場合は、6~7Aの普通充電電流で補充電してください。 ②液面が正常な場合 6~7Aの普通充電電流で補充電を行ってください。	

### 注意

- (1) バッテリー液が不足するとバッテリーを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
- (2) バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
- (3) バッテリーコードを接続するときは、⊕ と ⊖ をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリーと電気系統が故障します。
- (4) 充電は、バッテリーの ⊕ を充電器の ⊕ に、バッテリーの ⊖ を充電器の ⊖ にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。  
コードの接続をまちがわないように注意してください。
- (5) 新品のバッテリーと交換する場合には必ず指定した型式 (75D26L-MF) のバッテリーを使用してください。
- (6) バッテリーを外し、再度取付けるときにはバッテリーの ⊕、⊖ のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

## ■ヒューズの交換

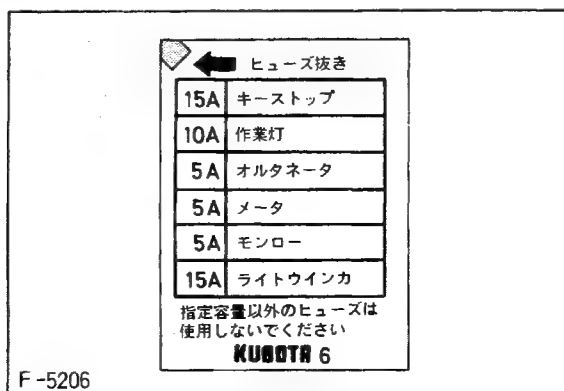
- ① ヒューズカバーを外します。



- ② 切れたヒューズを外します。

ヒューズを外す場合、ヒューズカバーの端部をヒューズの頭に差込み、抜き出します。

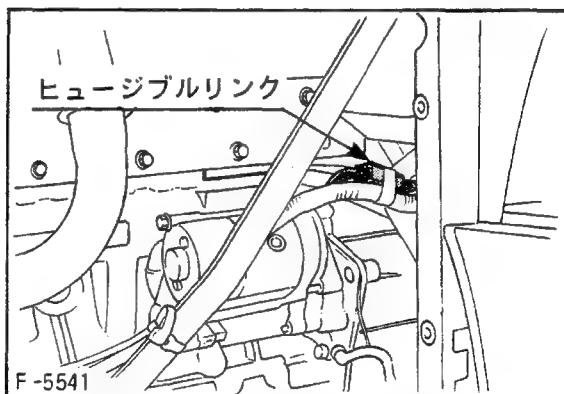
- ③ 同容量のヒューズと取換えます。



### 注意

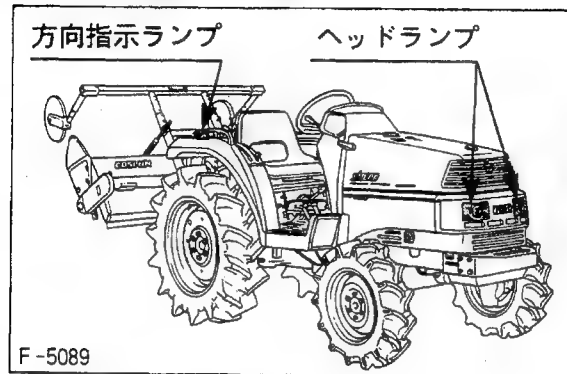
- ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、販売店か農協で点検・修理してください。

## ■ヒューズブルリンクの交換



ヒューズブルリンクは、配線を保護するためのものです。もし切れた場合は、切れた原因を必ず調べてください。また決して代用品を使用せず、純正部品(品番38430-3453-2)を使用してください。

## ■ランプ類の交換

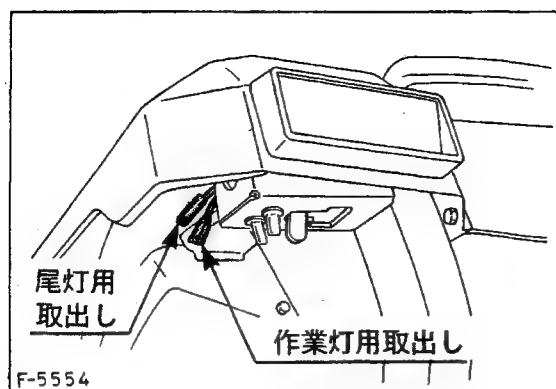


## ■電気配線の点検

配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり、また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)、漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

## ■作業灯の使いかた(別途購入品)

作業灯は純正部品(品番: 99771-91000)を使用してください。



### 注意

- 作業灯電源を他の電源に使用しないでください。どうしても使用したい場合は、販売店・農協・弊社支店又は(株)クボタアグリにご相談ください。



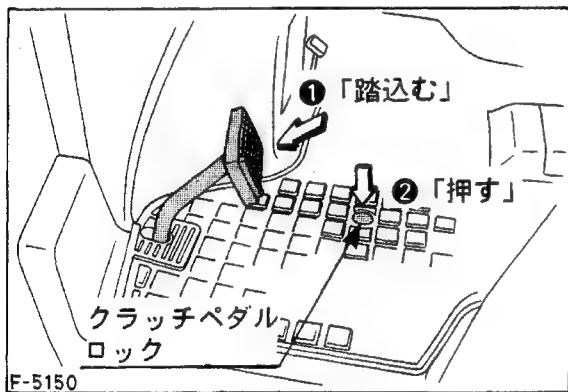
## 長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納しましょう。

- (1)不具合箇所は整備してください。
- (2)エンジンオイルを交換し、2000回転／分程度で10～15分間運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。
- (3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
- (4)車体のさびやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。
- (5)燃料コックをC「閉」にしておいてください。
- (6)冷却水は抜いておいてください。
- (7)クラッチペダルは、クラッチを踏込んだ状態で「クラッチペダルロック」をしてください。  
クラッチ板のさび付きを防止します。

### ◆クラッチ「切」保持の方法

- ①クラッチペダルをいっぱい踏込んでから、「クラッチペダルロック」を手で押下げます。
- ②押下げたまま、クラッチペダルから足を離せば「切」の状態で保持されます。
- ③使用するときには、クラッチペダルをいっぱい踏込めば、ロックが解除されます。



- (8)クラッチハウジング底のドレンプラグを外して、水が浸入していないことを確認してください。
- (9)タイヤの空気圧は、標準より高いめにしてください。
- (10)バッテリーを車体から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
- (11)ウエイトは取外し、作業機は外すか地面に降ろした状態にしてください。
- (12)後輪の前後に車止めをしておいてください。
- (13)各部の配線・バッテリーコード・燃料配管などの、き裂・被覆の破れ、コードクランプの外れは、確実に点検・整備してください。
- (14)格納中バッテリーは、1ヵ月に1回完全充電するようにしましょう。
- (15)格納場所は、雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。

### 安全ポイント

- シートをかける場合は、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。  
▶これを守らないと……  
火災を起す原因になります。

### 注意

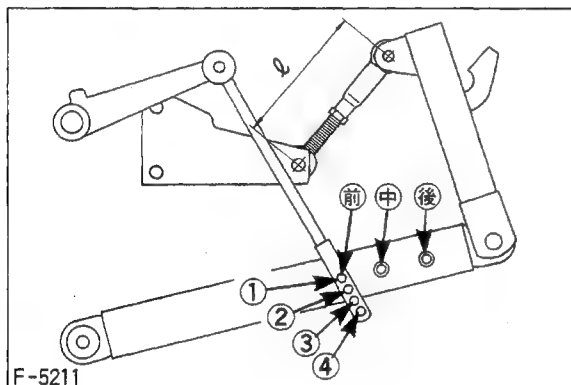
- 洗車するときにはエンジンを止めてください。もしエンジンをかけたまま洗車するときには、エアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入るとエンジンを破損することがあります。

# ロータリ装置の取付けかた

## 取付け前の準備

ロータリを取付ける前には、リフトロッドとローアリンクの取付け穴を①と④の位置にした状態でトップリンクの長さ(ℓ)を調整してください。

【NR仕様】……217.5mm, 【R仕様】……210mm



### 注意

- トップリンクの長さは、標準セット時の寸法を表示しておりますので調整を必要とする場合は、振動や騒音が少なくなるように調整してください。

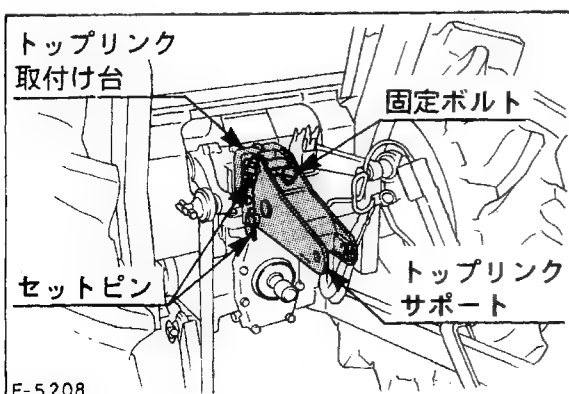
## クイックヒッチ装置の取付け (Aフレームオート3P)

### 取付けかた

- ① トップリンク取付け台の上及び下穴に、トップリンクサポートを合せ、セットピンで取付けます。

【メカオートなし】

- ① トップリンクサポートはトップリンク取付け台の下穴に右側よりセットピンで取付け、次にオートレバーを「上げ」にしたのち、上穴に右側よりセットピンで取付けます。【メカオート付き(A仕様)】

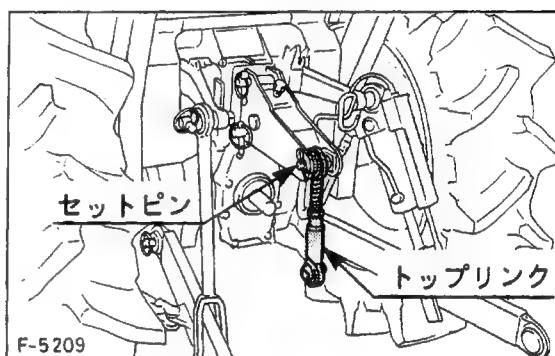


### 注意

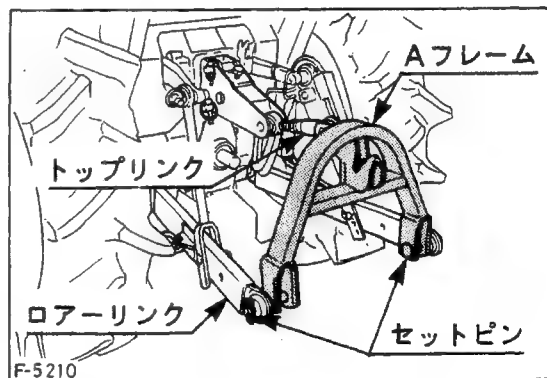
- セットピンを取付けるときは、必ず固定ボルトをゆるめてから行なってください。
- ② トップリンクサポートを取付けたのち、必ず固定ボルトは確実に締付けてください。
- ③ トップリンクをトップリンクサポートにセットピンで取付けます。

### 注意

- トップリンクは図のように径の細い方を必ずトラクタ側に取付けてください。



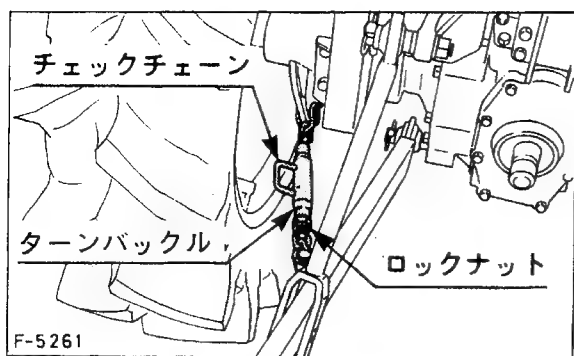
- ④ Aフレームをローアリンク左右にセットピンで取付けたのち、トップリンクをセットしてください。



- ⑤ チェックチェーンを張ります。  
チェックチェーンを左右均等に張り、横振れを防止してください。

### 注意

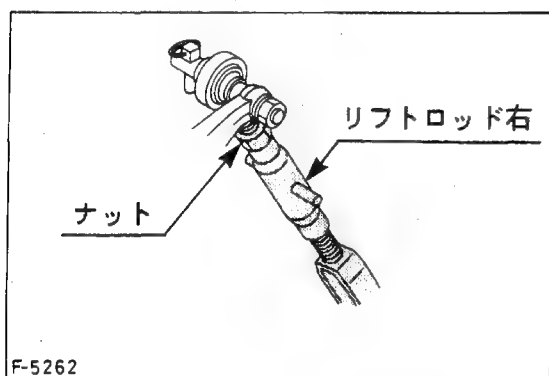
- ポジションレバーを「最下げ」にしてローアリンクを下げた状態で、チェックチェーンが振らつかない程度にターンバックルを手で軽く締め、ロックナットで確実に固定してください。このとき、ターンバックルを強く締めすぎると、ポジションレバーを「下げ」にしてもAフレームが下がらないことがあります。



#### ⑥ リフトロッド(右)を調整します。

【モンローマチックなし】

ポジションレバーで、クイックヒッチ装置を上げ、ローアリンクの高さが、本機の車軸と平行になるようにリフトロッド(右)を回して調整してください。調整後はナットで固定してください。



●モンローマチック付きは、調整不要です。

## ロータリ of 取付け・取外し

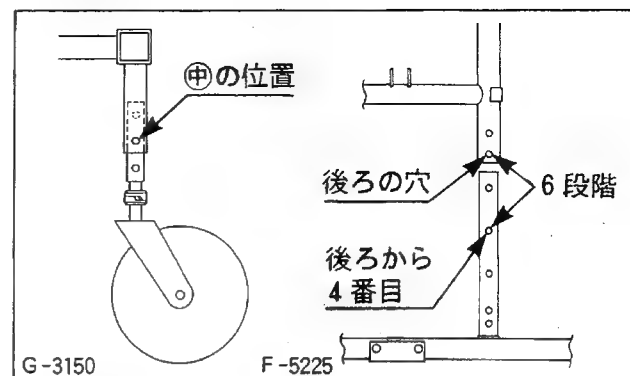
### 安全ポイント

- (1)ロータリの取付け・取外しは、平たんな場所を選び、トラクタとロータリの間立たないようにしましょう。
- (2)PTO変速レバーを必ず「N」(中立)位置にしてください。  
▶もし怠ると……  
傷害事故を引き起こすことがあります。

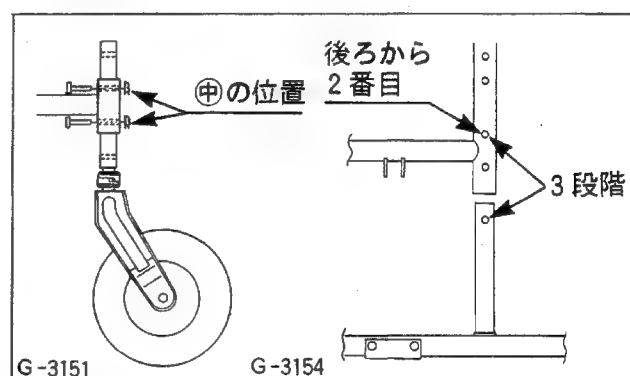
## ロータリ of 取付けかた

- ①後2輪の前後方向、上下方向位置を図のように取付けてください。

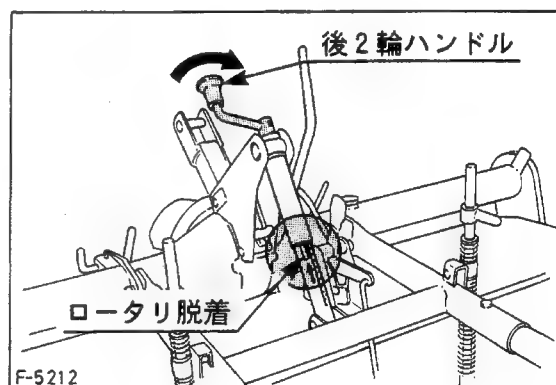
【NR仕様】



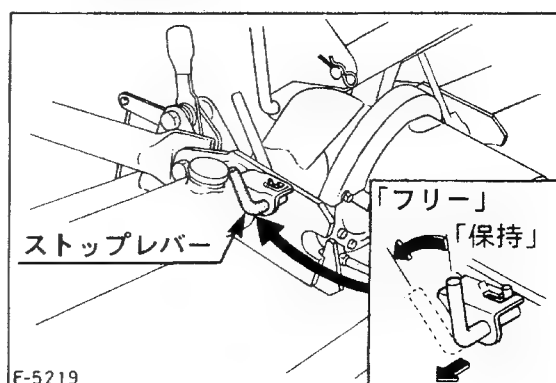
【R仕様】



- ②後2輪ハンドルを反時計方向に回し、「ロータリ脱着」位置に合せてください。



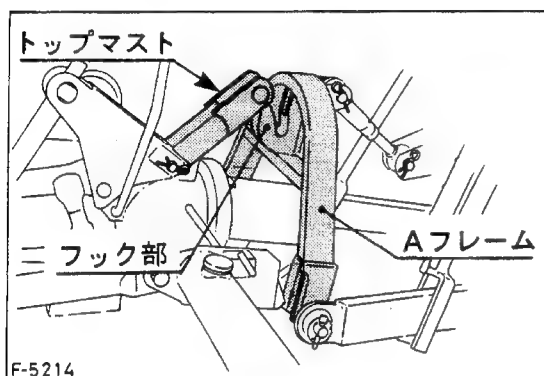
- ③ロータリの前部にある左右のストップレバーを「フリー」位置にセットしてください。



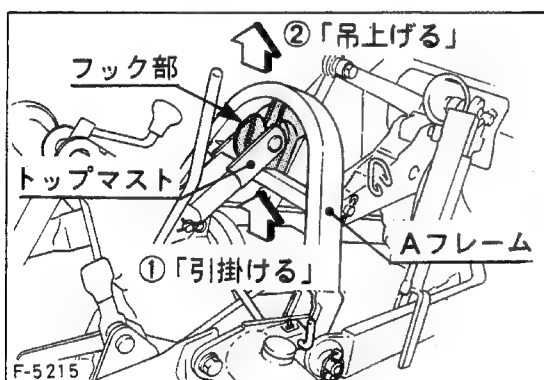
- ④トラクタに乗車しエンジンを始動して、Aフレームのフック部がトップマストの下にくるようにバックします。

### 注意

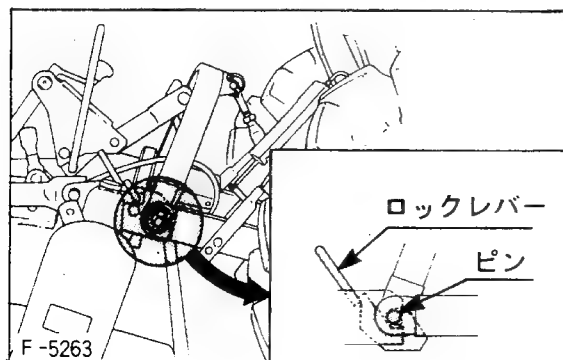
- (1)バックするとき、Aフレームを下げすぎるとローアリンクがロータリカバーに当たるので注意してください。
- (2)トラクタとロータリのセンタが一直線になるようにトラクタをバックしてください。



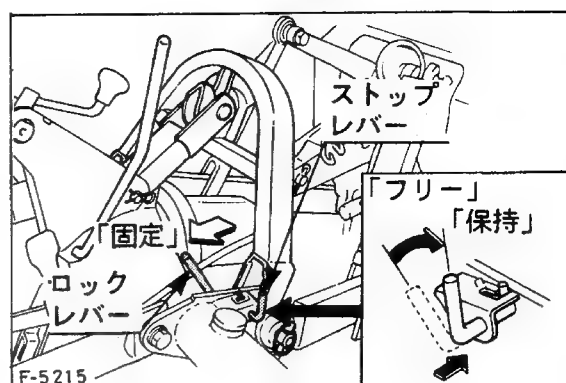
- ⑤ポジションレバーをゆっくり「上げ」方向に操作し、Aフレームのフック部がトップマストに確実に引掛ったことを確認してから、ロータリを吊上げてください。



- ⑥このとき左右のロックレバーのフック部がAフレームのU字部のピンに確実に引掛っているか確認してください。



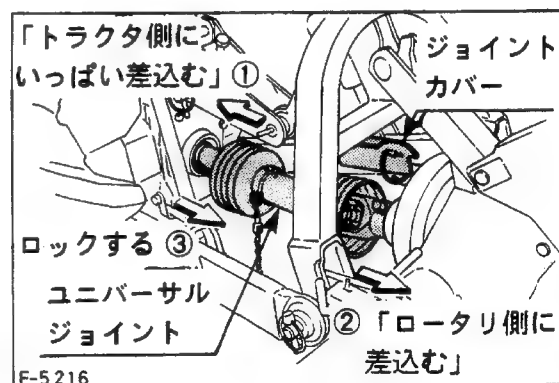
- ⑦Aフレームでロータリを吊り上げると、自動的に左右のロックレバーが固定されます。



- ⑧ロータリを地面に降ろし、エンジンを停止し、左右のストップレバーを「保持」位置にしてください。

- ⑨ユニバーサルジョイントを取付けます。

- ①ジョイントはまずトラクタ側のPTO軸に差込みます。このとき、PTO軸ケースにジョイントが当たるまで、いっぱい差込んでください。
- ②次にロータリ側のジョイントカバーを上げて、ロータリの入力軸にジョイントを差込み、ロックします。
- ③その後、トラクタ側PTO軸にロック位置を通り越して押込んでおいたジョイントを少しずつ引きながらロックしてください。

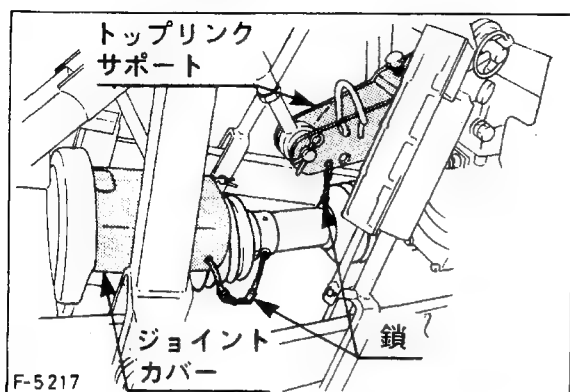


### 注意

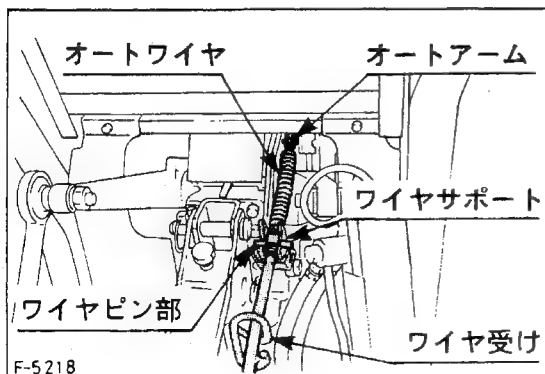
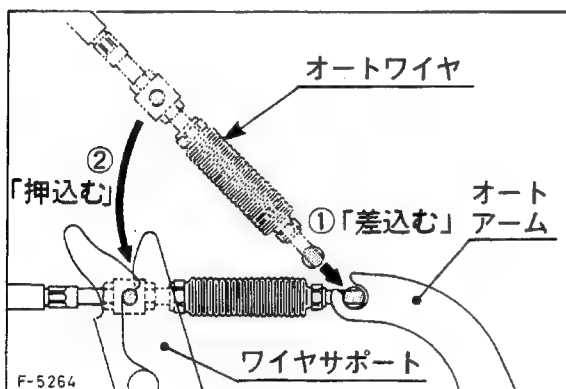
- (1)ユニバーサルジョイントの取付けは、必ずオス側をトラクタ側に、メス側をロータリ側に取付けてください。
- (2)ロックピンが正確に溝にはまったかどうか確認してください。
- ⑩ジョイント両端のロックピンが確実にロックされたことを確認した後、ジョイントカバーを必ず下げておいてください。

# ⑪安全カバー回転止め鎖を取付けます。

トラクタ側の鎖はトップリンクサポートの下部取付け穴に、ロータリ側の鎖はロータリのジョイントカバーの穴に取付けます。



- ⑫エンジンが停止した状態で、メカオートワイヤをセットしてください。【メカオート付き(A仕様)】ワイヤをセットするときは、まずポジションレバーを「上げ」にし、オートレバーを「下げ」にし、
- ①ワイヤ先端をオートアームに差込み、
  - ②ワイヤのピン部をワイヤサポートにセットし、ワイヤをトップリンクサポートのワイヤ受けに巻付け、ポジションレバーを「下げ」に戻します。



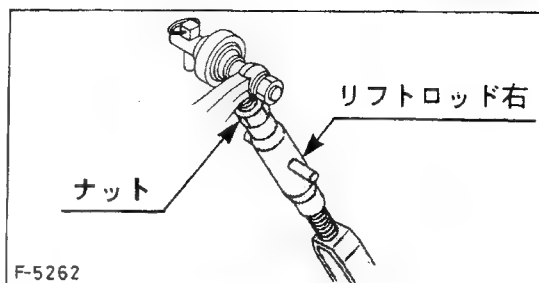
# ⑬チェックチェーンを張ります。

ユニバーサルジョイントが上から見て、一直線になるように、ロータリが振らつかない程度にチェックチェーンを左右均等に張り、ロックナットでロックしてロータリの横振れを防止してください。

# ⑭リフトロッド(右)を調整します。

【モンローマチックなし】

エンジンを始動して、ポジションレバーでロータリを持上げ、ロータリの爪軸が本機の車軸と平行になるように、リフトロッド(右)を回して調整してください。(モンローマチック付きは調整不要)



## ロータリの取外しかた

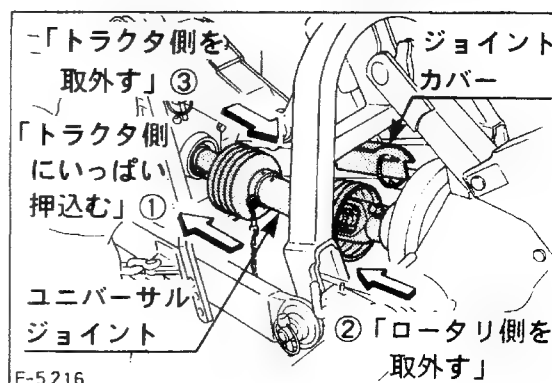
### 安全ポイント

- ロータリを取外す場合ユニバーサルジョイントは、PTO軸又はロータリのピニオン軸に取付けた状態で放置せず、必ず外してください。

▶もし怠ると……

傷害事故を引き起こすことがあります。

- ①モンローマチック切換えスイッチを「手動」位置にします。【モンローマチック付き(M仕様)】
- ②ロータリを上げた状態でエンジンを停止します。
- ③後2輪ハンドルを反時計方向に回し、耕深ラベルの「ロータリ脱着」位置に合せてください。
- ④後2輪の位置をロータリの装着時と同様にしてください。(42ページ参照)
- ⑤ロータリを地面に降ろします。
- ⑥ユニバーサルジョイントは2カ所の鎖を外し、
  - ①トラクタ側ジョイントをロックピンを押しながらPTO軸ケースいっぱいまで押込みます。
  - ②ロータリ側ジョイントのロックピンを押しながら、ロータリ側ジョイントから取外します。
  - ③トラクタ側ジョイントを取外します。



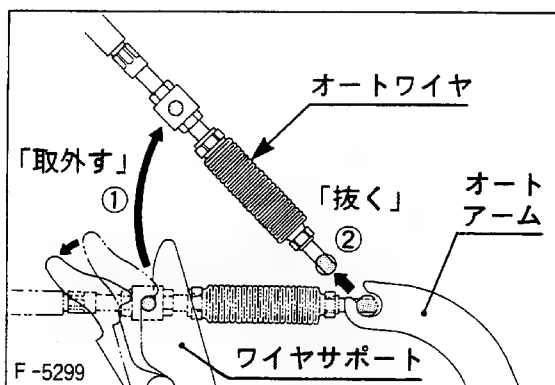
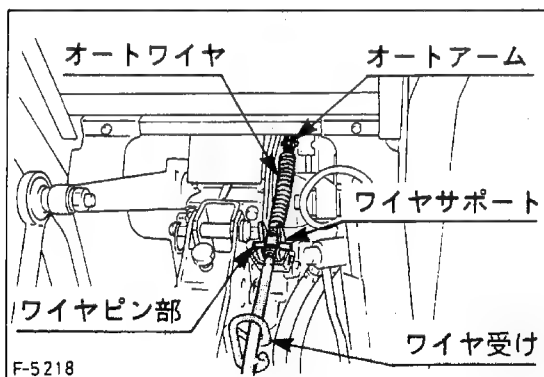
⑦メカオートワイヤを取外します。

【メカオート付き(A仕様)】

メカオートワイヤを取外すときは、まずポジションレバーを「上げ」にし、オートレバーを「下げ」にし、ワイヤをワイヤ受けから外し、

①ワイヤのピン部を、ワイヤサポートから外します。

②ワイヤ先端をオートアームから抜きます。

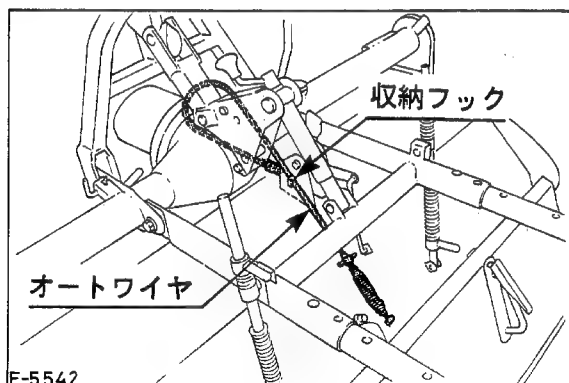


⑧メカオートワイヤを、Aフレームとからまないようにロータリカバー側に収納します。

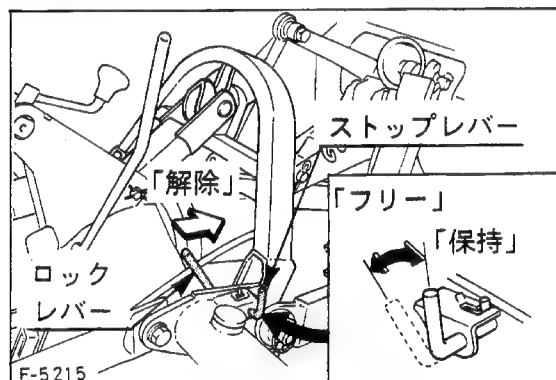
【メカオート付き(A仕様)】

**注意**

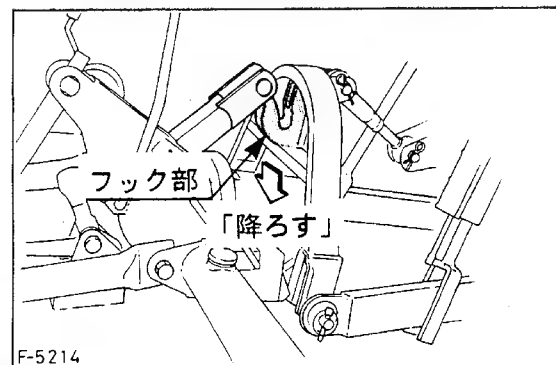
●メカオートワイヤの収納が不完全ですと、ロータリ脱着時にワイヤを損傷する恐れがあります。



⑨左右のストップレバーをいったん「フリー」位置にした後、左右のロックレバーを前方に倒して「解除」位置にしながら、再びストップレバーを「保持」位置に戻しロックします。



⑩トラクタに乗車してエンジンを停止した状態で、ポジションレバーを「下げ」にしてAフレームのフック部が外れる位置まで徐々に降ろします。

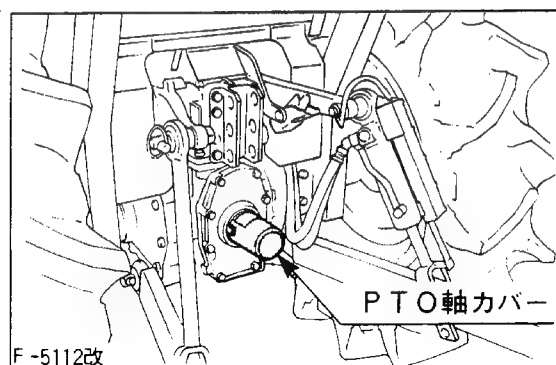


**注意**

- (1)Aフレームが外れにくい場合は、Aフレームの上部を手で軽く押してください。
- (2)Aフレームの上部を手で軽く押しても外れないときは、手動操作スイッチでAフレームのフック部の角度を調整してください。

【モンローマチック付き(M仕様)】

- ⑪エンジンを始動し、トラクタを最低速で静かに前進させロータリを本機より離します。
- ⑫ロータリ装置を外した後はPTO軸にカバーを付けてください。



# ロータリ作業前の点検について(仕業点検)

## 作業前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

### 安全ポイント

- 点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

## 点検は次の順序で実施してください。

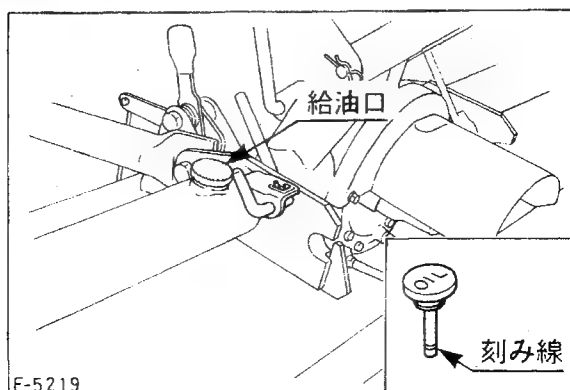
- (1)前日の異常箇所。
- (2)ロータリの点検ポイント
  - 爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
  - ギヤーケースのオイル量【NR仕様】……………※1
  - チェーンケースのオイル量……………※2
  - ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
  - ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態の確認……………※3
  - 油もれ……………※4

※印は、次に作業要領を説明してあります。

## 仕業点検のしかた

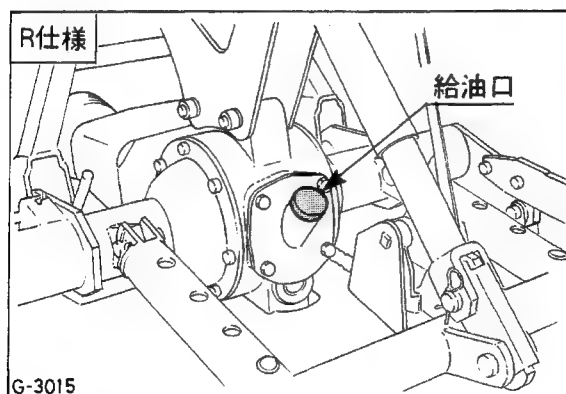
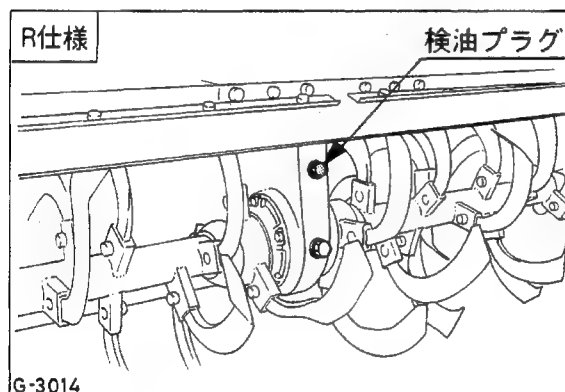
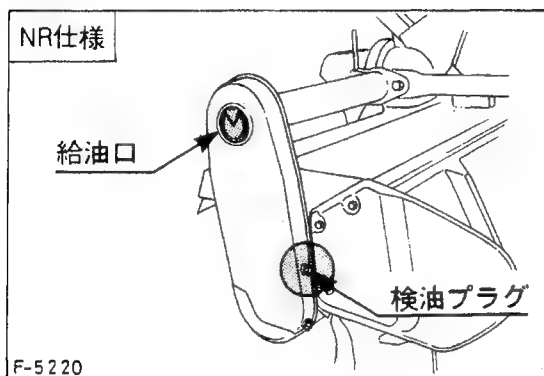
### 1 ギヤーケースのオイル量【NR仕様】

- ①オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「刻み線」までオイルがあるかを調べてください。
- ②「刻み線」以下の場合は補給が必要です。



### 2 チェーンケースのオイル量

- ①検油プラグを外して、オイルが出るかを調べます。
- ②出ない場合は補給が必要ですが、検油口以上には入れないでください。

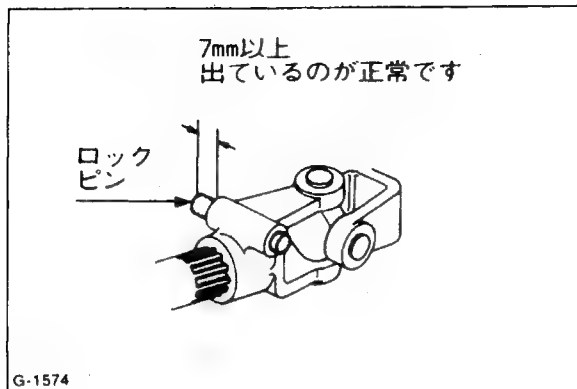


### 注意

- 点検するときは、ロータリをトラクタに装着し、水平な地面に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

### 3 ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態の確認

ロックピンが正確に溝にはまったかどうかの確認は、ピンの頭が7mm以上出ているかどうかを調べてください。



### 4 シールの組換え

整備などの目的でギヤケース、チェーンケースなどを分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴムキャップ、パッキンなどと交換してください。オイルもれの原因となります。



# 上手な作業のしかた

## 適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合わせて車速を決めてください。

次表は、作業のめやすとして参照してください。

変速レバー位置と作業				
副変速	主変速	PTO 変速		
		1 段	2 段	3 段
クリーブ C 【L仕様】	1	超細土耕うん		
	2			
	3	強粘土 (荒起し耕うん) 畝立て		
1	1	水田・畑作 (荒起し) 畝立て		
	2			
	3	水田・畑作 (細土耕うん) 畝立て		
2	1	代かき		
	2			

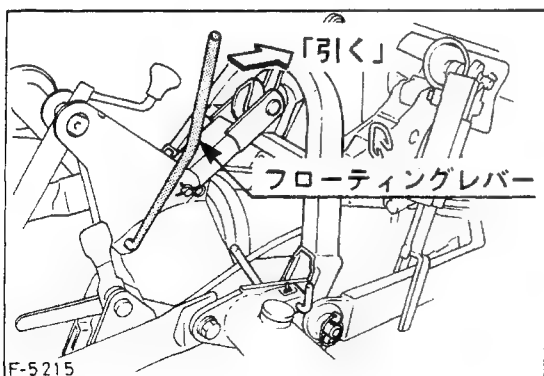
## あぜぎわ耕うんのしかた

後2輪フローティング機構は、簡単な取扱いであぜぎわまで耕うんできる機構です。

次の取扱い要領に従って、正しく使用してください。

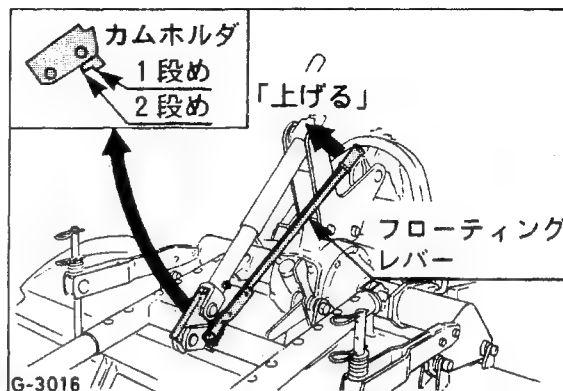
### 【NR仕様】

- ① フローティングレバーを手前に引いて、フローティング状態でロックしてください。



### 【R仕様】

- ① フローティングレバーを上方に押し上げ、レバーがカムホルダに引掛かるようにします。



### 注意

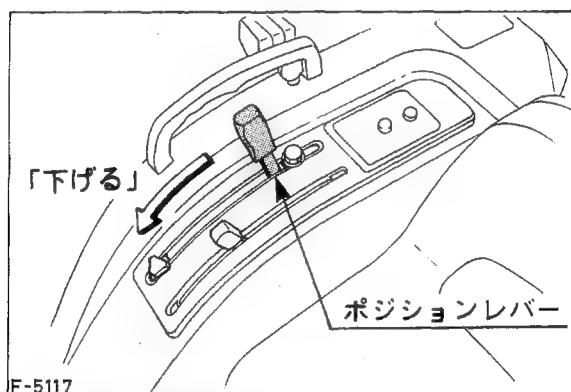
- フローティングレバーを上げてカムホルダに引掛けるとき、引掛かり位置によって、フローティング機構が作用しない場合がありますので、次のように使い分けてください。

浅い耕うん（耕深目盛り 4 以下）の場合	1 段めで 作用します
普通耕うん（耕深目盛り 4 以上）の場合	2 段めで 作用します

一般に、普通耕うん状態では、フローティングレバーを2段めに引掛かるまで上げないと、フローティング機構は作用しません。

- ② 後2輪があぜの上ののるように、トラクタをバックさせます。
- ③ ポジションレバーを操作して、ロータリを下げます。
- ④ このとき後2輪はフローティング状態ですから、ポジションコントロールであらかじめ耕深を定めておき、その位置までポジションレバーを下げ、耕うんを始めます。
- ⑤ 後2輪があぜからほ場に降りるまで耕うんし、ほ場に降りたとき停止します。
- ⑥ ポジションレバーを「上げ」にして、フローティング状態から固定状態に切替えます。

- ⑦次にポジションレバーを「下げ」にすると、標準耕うん状態になり、今までに後2輪で定められていた所定の耕深になりますので、続けて耕うんしてください。



F-5117

### 安全ポイント

- ロータリを本機から取外し、ロータリ単体保管する場合フローティングレバーをジョイント側へ引くとロータリの姿勢が変化し不安定な状態になりますので、ロータリを単体保管する場合は絶対にフローティングレバーを操作しないでください。

▶もし怠ると……

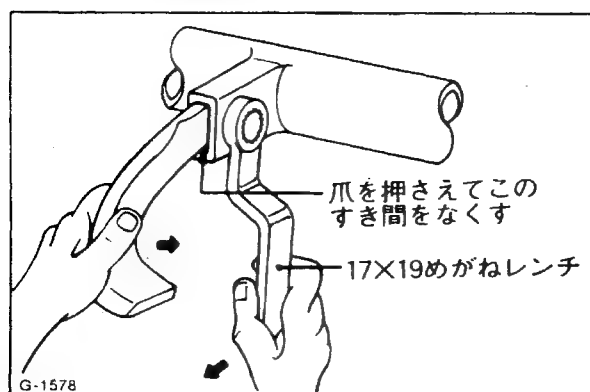
傷害事故を引き起こすことがあります。

## 爪の取付けかた

### 安全ポイント

- 爪の交換及び増締めするときは、
  - ①トラクタを平たんな広い場所に置きます。
  - ②エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けます。
  - ③ロータリの落下を防止する落下調整グリップを右いっぱい軽く締めます。
  - ④爪軸の下に木の台などをし、より安全性を確保してから行なってください。
- ▶もし怠ると……  
傷害事故を引き起こすことがあります。

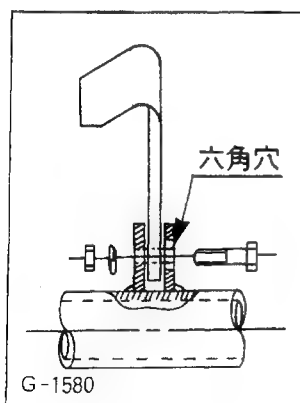
### ■なた爪の場合



G-1578

### 注意

- めがねレンチで、力いっぱい締付けてください。
- (1)ブラケットの六角穴と逆方向に、曲がりがるようにして取付けてください。
- (2)ボルトは六角穴側よりボルトを入れ、反対側よりバネ座金を入れ、ナットで締付けてください。



G-1580

### 【NR仕様】

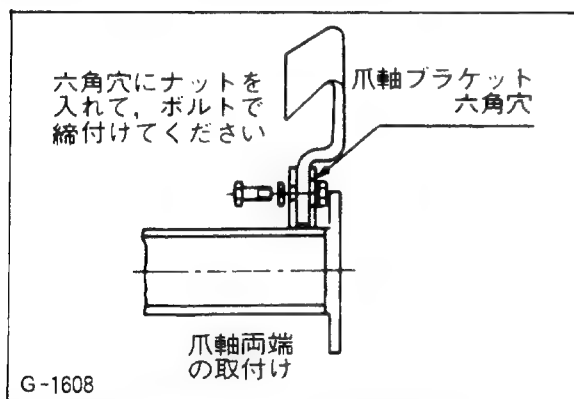
爪軸両端部以外の取付け

### 【R仕様】

傾斜爪軸部以外の取付け

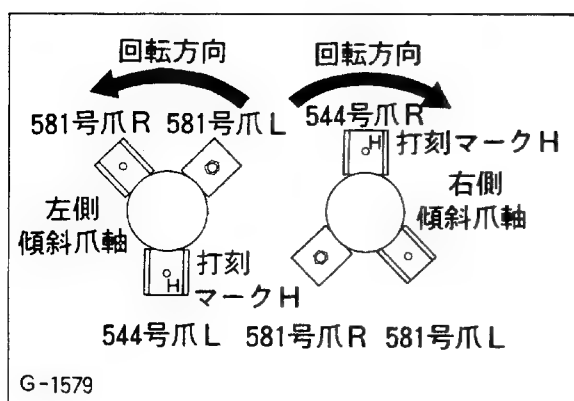
### ◆爪軸両端部の取付け【NR仕様】

爪軸両端に取付ける583号増幅爪(左右各1本)は大きい爪ブラケットに取付けてください。



### ◆傾斜爪軸部の取付け【R仕様】

- (1)「H」の刻印のあるブラケットには、544号爪を内向きに取付けてください。
- (2)他のブラケットには、581号爪を下図の向きに取付けてください。



### ■増幅爪の取付け【R仕様】

サイドカバーを外し、両端の“右”または“左”の刻印のあるブラケットの爪を582号増幅爪に付換えることにより、耕幅がさらに60mm広がります。延長を外した場合も同様に広げることができます。

	品 番
582号増幅爪右	70451-5543-0
582号増幅爪左	70451-5544-0

## 耕うん爪の配列

### ■耕法

作業目的に合わせて、耕うん爪の取付けかたを変えることにより、次のような作業ができます。

耕 法	作 業 目 的
均平耕法	耕起・碎土・代かきなど、耕うん跡を均平にする整地作業
1つ盛り耕法	乾土効果を必要とする水田の耕起・碎土作業
2つ盛り耕法	乾土効果を必要とする水田の耕起・碎土及び畝立て作業

### 安全ポイント

- 爪の交換・爪取付けボルトの点検などは、安全のため、必ずエンジンを止め、落下調整グリップを締込み油圧をロックして、ロータリの落下を防止してから、作業を始めてください。

### 注意

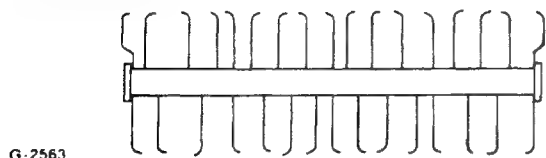
- (1)爪を抜いて作業すると、爪のバランスが狂い、振動や騒音が出ることがありますのでご注意ください。
- (2)耕うん爪はクボタ純正部品を使用してください。

## ① 均平耕法の配列

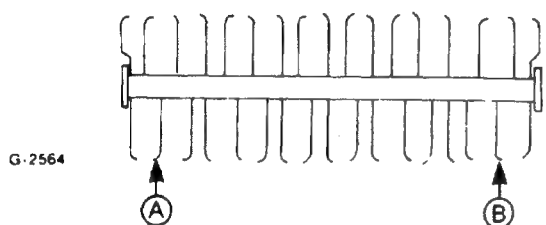
### 注意

- (1) 爪軸両端に取付ける583号増幅爪(左右各1本)は爪ブラケットの白く塗った箇所に取付けてください。【NR1400】
- (2) 爪軸両端に583号増幅爪(左右各1本)を取付けてください。【NR1500・NR1600・NR1700】
- (3) 筋又は盛り上りが発生した場合、(A)と(B)の爪を入替えてください。【NR1500・R13N・R15N】

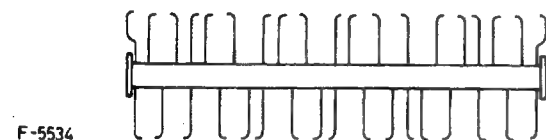
### ◆NR1400



### ◆NR1500



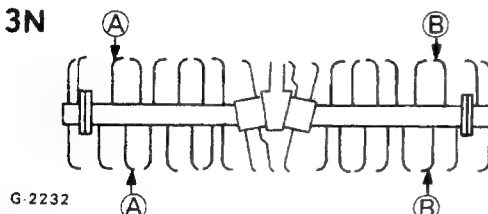
### ◆NR1600



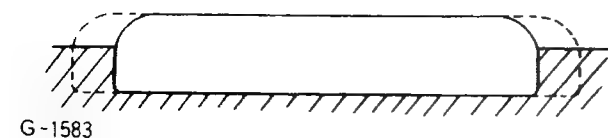
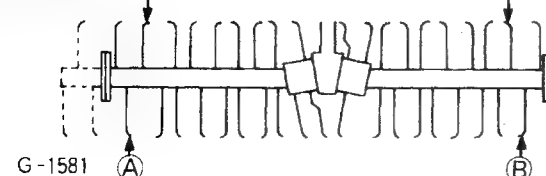
### ◆NR1700



### ◆R13N



### ◆R15N



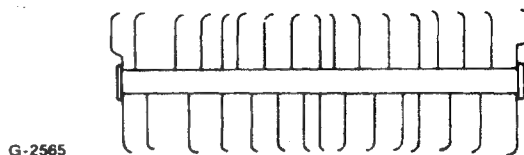
(点線は延長爪軸付きの場合を示す。)

## ② 1つ盛り耕法の配列

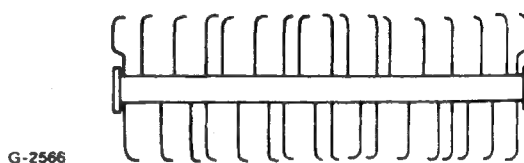
爪軸中央を基準とし他の爪はすべて内向きになるように取付けてください。

このとき、ロータリカバーを上げて、カバーが耕うんした土壤に当たらないようにします。

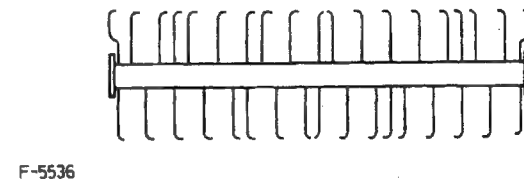
### ◆NR1400



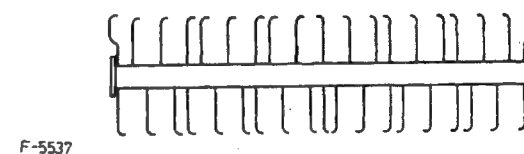
### ◆NR1500



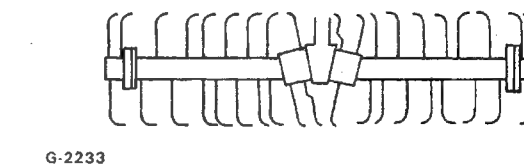
### ◆NR1600



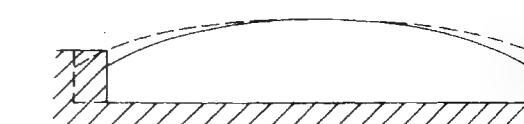
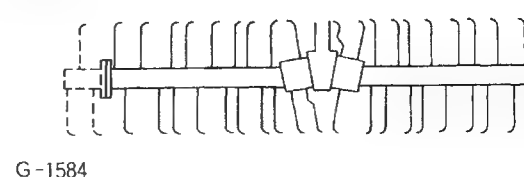
### ◆NR1700



### ◆R13N



### ◆R15N



G-1586

### 3 2つ盛り耕法の配列

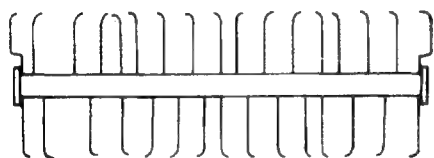
〔畝立て作業(1連畝立て)の配列〕

爪の配列は下図のように取付けてください。

このとき、ロータリカバーを上げて、カバーが耕うんした土壌に当たらないようにします。

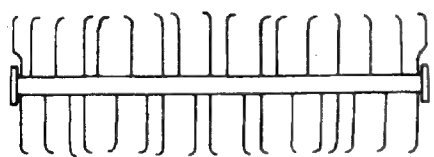
#### ◆NR1400

G-2567



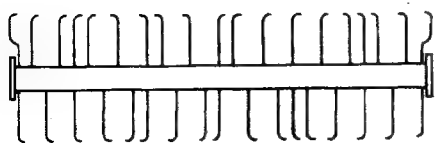
#### ◆NR1500

G-2568



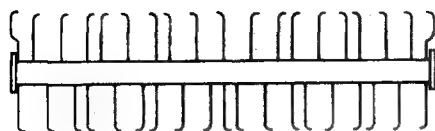
#### ◆NR1600

F-5538



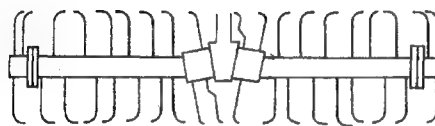
#### ◆NR1700

F-5539



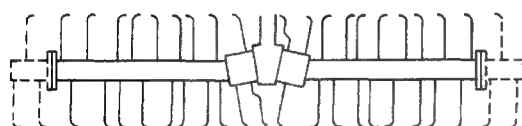
#### ◆R13N

G-2234



#### ◆R15N

G-1587

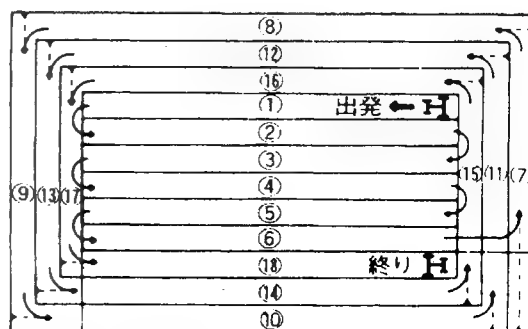


G-1589

## 耕うん方法

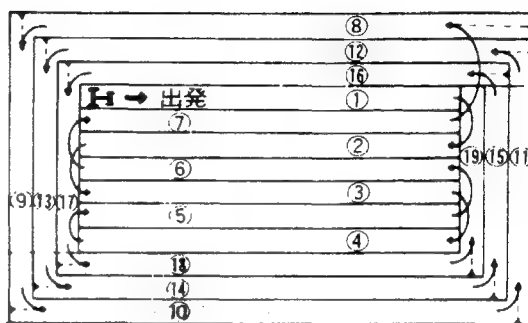
### ■隣接耕うんのしかた

- (1)図の長方形部分1枚が、直進1回で耕うんされる耕作地を示しています。
- (2)図のような順序をとるのは、1度耕うんしたところを後輪タイヤで押えないための最善の方法です。
- (3)従って出発点は、トラクタが最後に外に出る場所によって決まります。
- (4)直進が終って、次の直進に移るまでは、ロータリを上げて旋回してください。
- (5)サイドドライブロータリは、サイドフレーム側があぜぎわになるようにして、あぜぎわ耕うんを行ないます。



G-1591

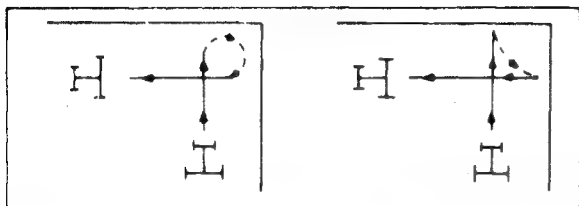
### ■一畝おき耕うんのしかた



G-1592

一畝おき耕うんは、小回りのむづかしい場所に用いる方法で、その他は隣接耕うんと同じです。

## ■トラクタの方向転換のしかた



G-1593

## 普通爪の使用【NR仕様】

標準としては、なた爪を使用しますが、雑草やゴミなどの少ない乾田耕起用として、普通爪を使うと、耕起動力が少なくすみその上碎土がより細くなります。

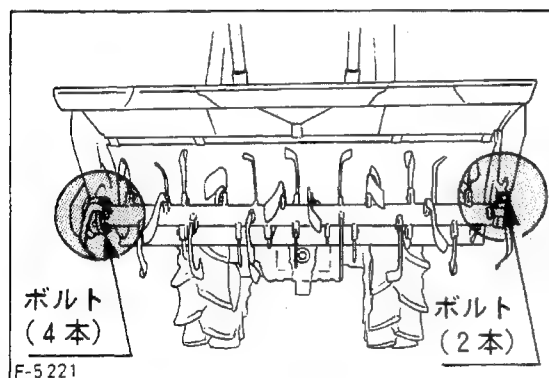
ロータリ形式 普通爪	NR1400	NR1500
518号	30本	32本
514号増幅R, L	—	各1本
94号S増幅R, L	各1本	—

## 爪軸交換のしかた【NR仕様】

作業に応じて他の爪軸を取付け、作業範囲を広げることができます。

### ■交換のしかた

チェーンケース側爪軸取付けボルト(4本)及びサイドフレーム側ベアリングケース取付けボルト(2本)をゆるめ、落下調整グリップを少し左に回し、耕うん爪が水平地面上につくまでゆっくりと降ろした後で、ボルトを外して、爪軸を交換します。



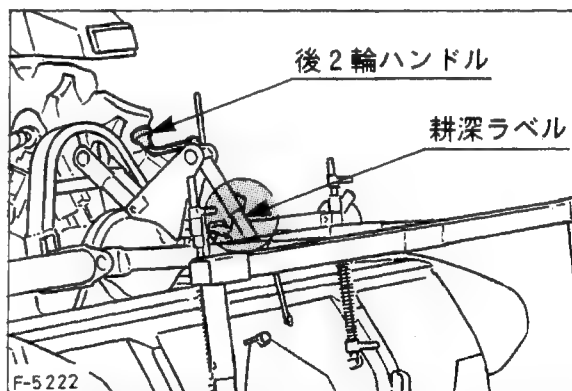
F-5221

### 注意

- 爪軸は、爪軸取付けフランジ「L」の刻印が、チェーンケース側にくるように取付けてください。

## 耕深の調節

後2輪調整ハンドルを回すことにより、耕深を自由に選ぶことができます。また各種作業の耕うん深さ調整の目安として、貼付している耕深ラベルの目盛をご使用ください。



F-5222

## 安全ポイント

- 前進するトラクタに乗らずに歩いて随行しながら耕深調節を操作することは大変危険です。  
トラクタに乗り、座席にすわっている人以外は、絶対に操作しないでください。
- ▶ 運転者以外の人がこのような調節操作をすると……  
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## リヤカバー 2 の調節

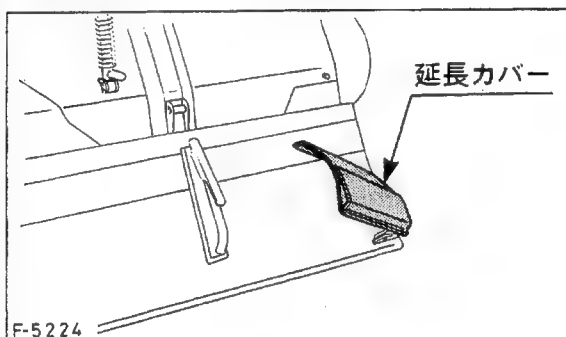
(サイドドライブ仕様【NR仕様】のみ装着できます。)

リヤカバー 2 は、トラクタのA仕様により標準装備です。A仕様以外は、アタッチメントで別途購入して取付けできます。

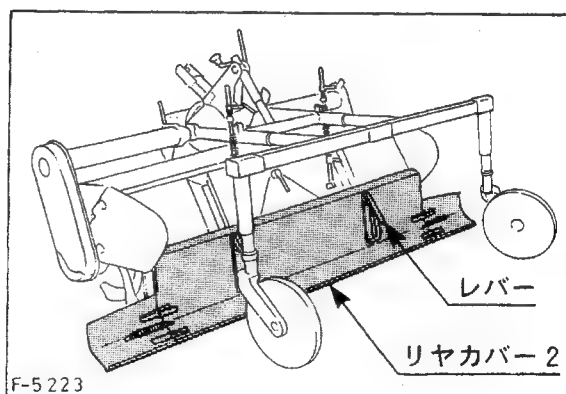
[73ページ「アタッチメント一覧表」(品名：整地板アッシ)参照]

### 安全ポイント

- ほ場以外ではリヤカバー2の延長カバーを折りたたんでください。広げていると接触事故の恐れがあり、危険です。

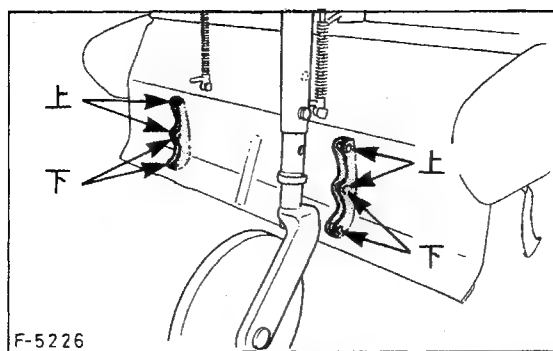


- ①後2輪を一番後ろの位置(8段階：55ページ参照)にしてください。
- ②リヤカバー2は後部カバーの取付ブラケットに取付けてください。レバーを握り取付ブラケットに上方からスライドさせて引掛け、放せば固定されます。



オート耕うん作業には必ずリヤカバー 2 を使用してください。より良い仕上りの作業を行なうことができます。取付けは2段階に調節できますので、下表を参考にしてください。

作業内容	リヤカバー 2 取 付 け 位 置
一般 耕 う ん	上
浅 耕 ・ 代 か き	下



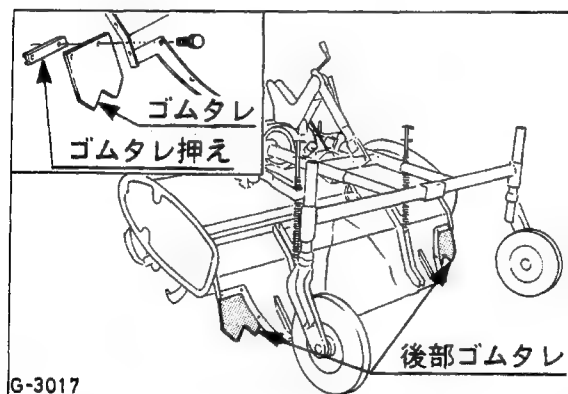
延長カバーは、代かきや整地のときに伸ばして使用してください。

リヤカバー 2 には、代かきや整地をきれいに仕上げる波形補助板がアタッチメントで装着できます。

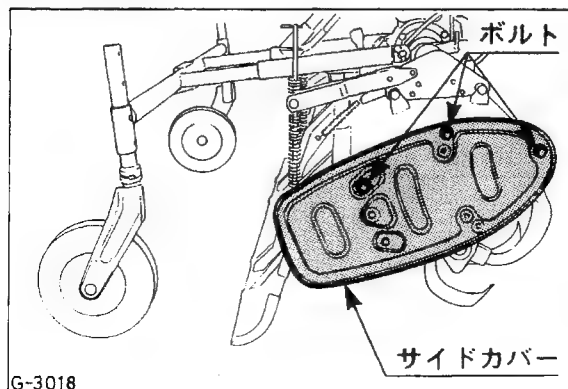
## ロータリカバーの調整【R仕様】

### ■後部ゴムタレ

枕地を少なくする目的で、補助カバーを外される場合は、出荷部品内の後部ゴムタレに付替えてください。



## サイドカバーの調整【R仕様】



石の多いほ場・草地で作業を行なう場合や深耕する場合は、左右のサイドカバーを上へ上げて使用してください。

## 後2輪の調整

作業ごとの後2輪の調整は、87ページの「ロータリ作業の一般的な調整要領」を参考にしてください。

後2輪は前後方向に、

【NR仕様】…… 8段階、【R仕様】…… 4段階

上下方向に、

【NR仕様】…… 3段階、【R仕様】…… 3段階

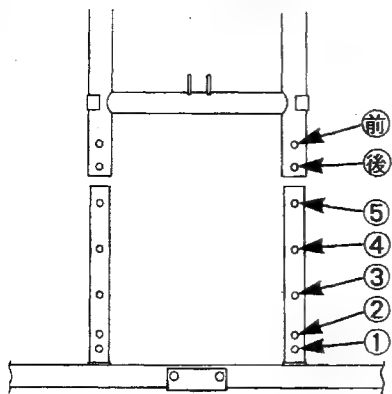
の調整ができますので作業に合わせて調整してください。

### ■前後調整

#### ◆NR仕様

1段階(一番縮めた状態)……L<sub>1</sub>、L<sub>1</sub>-5ロータリ用  
畝立て金具(03畝立器  
用)使用時。

2段階………L02ロータリ用畝立て金具使用時。



F-5225

	組 合 せ
1 段 階	後と①の位置
2 段 階	後と②の位置
3 段 階	前と③の位置
4 段 階	後と③の位置
5 段 階	前と④の位置
6 段 階	後と④の位置
7 段 階	前と⑤の位置
8 段 階	後と⑤の位置

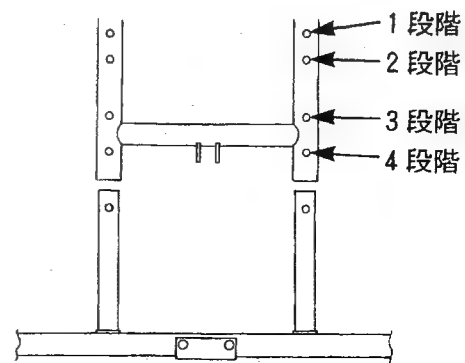
#### ◆R仕様

1段階(一番縮めた状態)……Vカット無しの培土作業時。

2段階……Vカット有りの培土作業時。補助カバー無しで後2輪を使用する場合。

3段階……補助カバー付で後2輪を使用する場合の浅起し作業時。(10cm以下)

4段階……補助カバー付で後2輪を使用する場合の深起し作業時。



G-3154

#### 注意

- 水田(湿田)でトラクタの性能を十分発揮させるため後2輪はロータリカバーに接触しない範囲で接近させて使用してください。



## ■上下調整

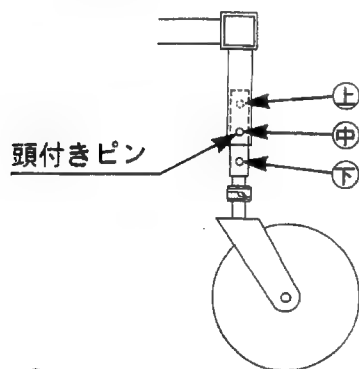
### ◆NR仕様

#### (1)一般耕うんの場合

頭付きピンを④又は⑤の穴に、セットしてください。

#### (2)代かき・湿田耕うんの場合

頭付きピンを④の穴に、セットしてください。



G-3150

### ◆R仕様

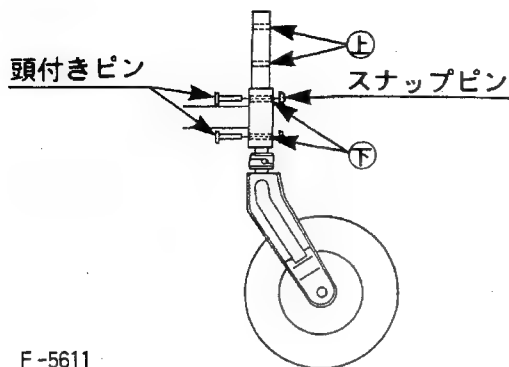
#### (1)一般耕うんの場合

ピンを⑤の穴に、セットしてください。

#### (2)代かき・湿田耕うんの場合

ピンを④の穴に、セットしてください。

(3)ピンは必ず前方より挿入してください。カバーと接触してスナップピンが抜ける恐れがあります。

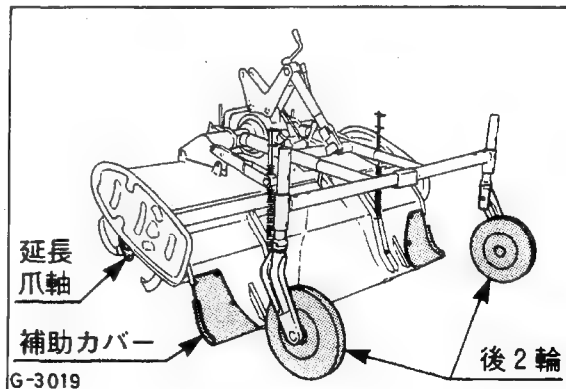


F-5611

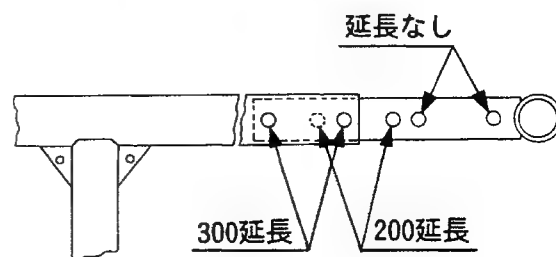
## 後2輪ホルダの調整【R仕様】

### ■左右調整

延長爪軸(200mmまたは300mm)を取付けたときは、それぞれ耕幅に合わせて、後2輪を外側に移動させてください。



G-3019



G-3024

## ロッドの調整

作業ごとのロッドの調整は、87ページの「ロータリ作業の一般的な調整要領」を参考にしてください。

### 安全ポイント

- ロッドの調整は、必ずロータリを地上に降ろし、エンジンを停止してメインスイッチを「OFF」にしてから行なってください。(ロータリを上げた状態での調節は危険です。)

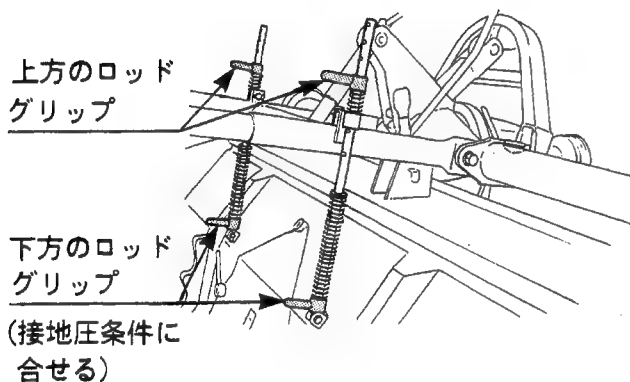
### ■ロッドグリップの位置【NR仕様】

#### ◆上方の位置

- 上方のロッドグリップで、ロッドの長さを調節してください。

#### 【A仕様】

上方のロッドグリップは最上位置にセットしてください。



F-5227

#### ◆下方の位置

下方のロッドグリップは、接地圧条件に合わせてセットしてください。(下から1番目、2番目、…と、セット位置を上方に上げるにつれ、押付力は強くなります。)

- 押付力を強くしますと、均平、整地に効果があります。

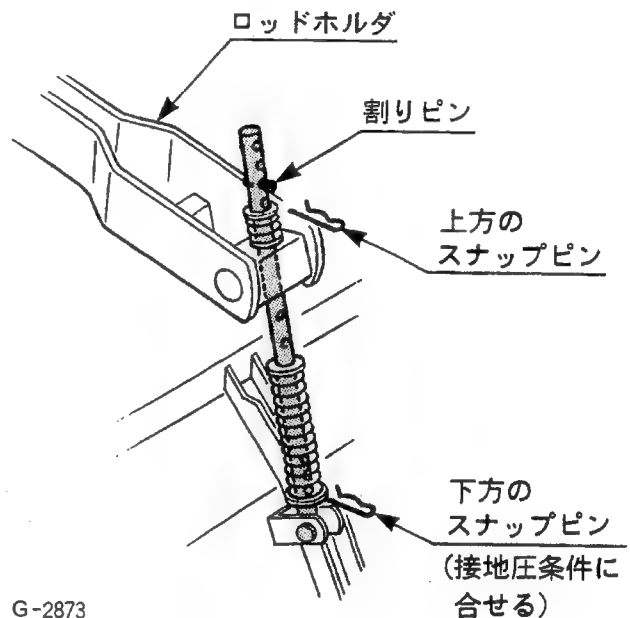
#### 注意

- 泥・ホコリなどの付着でロッドグリップの動きが悪いときは、ロッドグリップに注油してください。

### ■スナップピンの位置【R仕様】

#### ◆上方の位置

- 上方のスナップピンは、上から4段目の穴にセットしてください。



G-2873

#### ◆下方の位置

下方のスナップピンは、接地圧条件に合わせてセットしてください。(下から1番目、2番目…と、セット位置を上方に上げるにつれ、押付力は強くなります。)

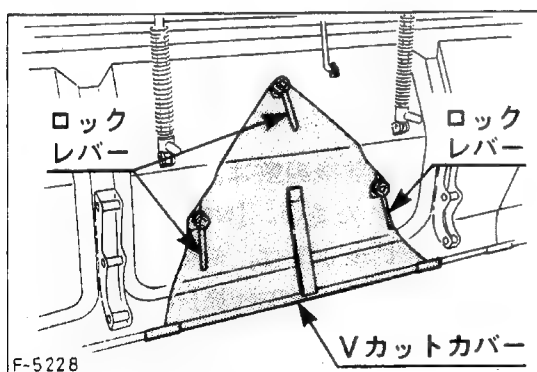
- 押付力を強くしますと、均平、整地に効果があります。

## ロータリ畝立て作業

### ■Vカットカバーの着脱要領 【Vカット仕様】

#### ◆NR仕様

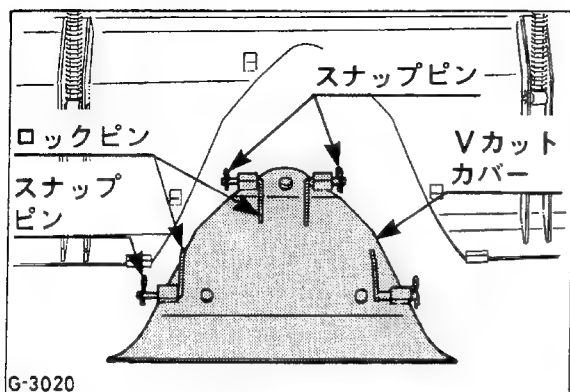
ロックレバーをゆるめると、Vカットカバーが外れます。



#### ◆R仕様

Vカットカバーの装着は、まずロックピンR・L各2本を、ロータリカバー2の取付け部に挿入します。次にロックピンを回転させ、カバーを固定します。最後にスナップピンで抜け止めを行ってください。

取外しは、装着の逆の順序で行なってください。



#### 注意

- スナップピンを付けたままロックピンの操作はしないでください。スナップピンが変形して使用できなくなります。

### ■畝立器の取付け

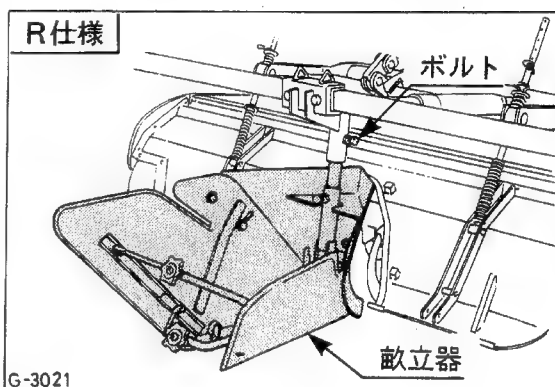
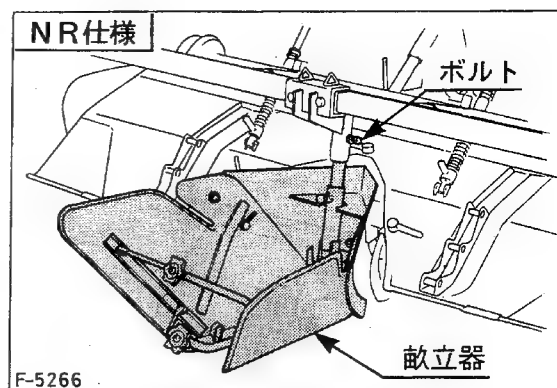
畝立器は、取付けブラケット穴に下から差込み、作業に応じて取付け高さを調節して、ボルトで取付けてください。(畝立器、畝立金具、ボルトは別途購入品です。)

後部カバーとの組合せに二つの方法があります。

#### ◆後部カバーのVカットを使用する場合 【Vカット仕様】

畝の上面が平らに成形されるので植付け畝として使用できます。

- ①爪の配列は外向きにします。
- ②後2輪は取外します。
- ③Vカットカバーを取外します。
- ④畝立器を後部カバーのVカット形状に添わせて取付けてください。



- ⑤後部カバー押えバネをフリーにするか、又は少し縮めて後部カバーを軽く地面に接触させてください。

#### 注意

- 後2輪ホルダのセットは、前後調整の2段階の位置で使用してください。【R仕様】(55ページ参照)

## ◆後部カバーの下側から取付ける場合 【標準カバー仕様】

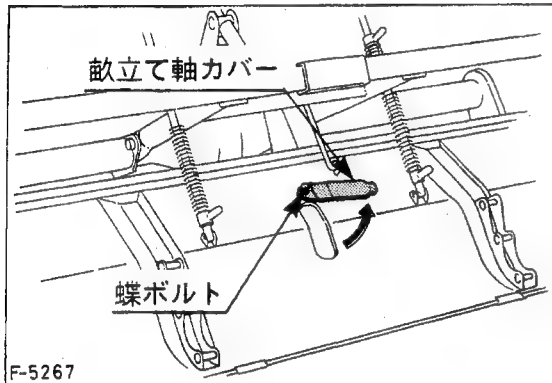
排水用畝などを立てるときに簡便です。

①爪の配列は外向きにします。

②後2輪は取外します。

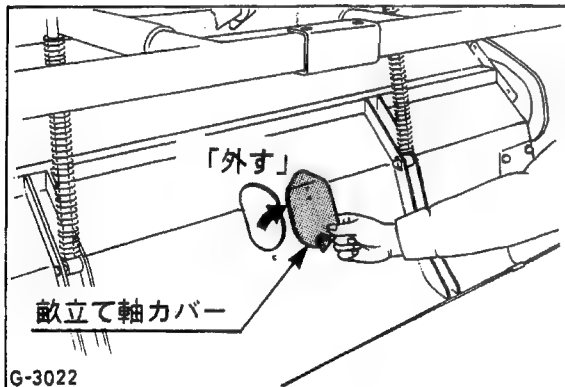
### 【NR仕様】

③蝶ボルトをゆるめて後部カバーの畝立て軸カバーを回し、再度蝶ボルトを締めて固定します。

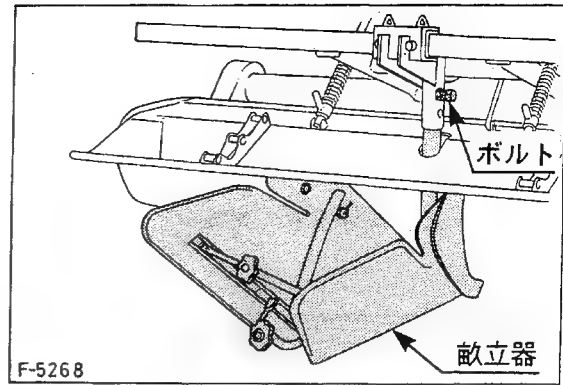


### 【R仕様】

③後部カバーの畝立て軸カバーを取外して、紛失しないように工具箱に入れておきます。



④後部カバーの下側から畝立器を取付けます。



### 【注意】

(1)後2輪ホルダの前後調整は、55ページ「■前後調整」を参照してください。【NR仕様】

(2)後2輪ホルダのセットは、前後調整の1番縮めた状態にしてください。【R仕様】(55ページ参照)

(3)オート切換えレバーを必ず「切」にしてください。

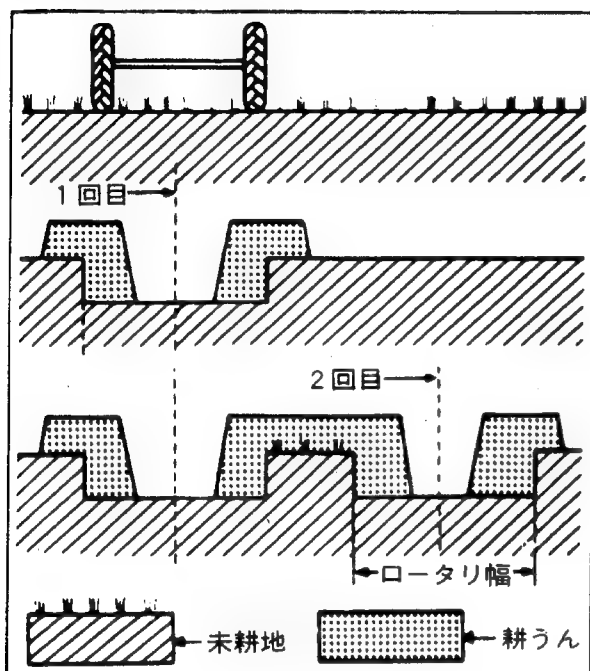
【A仕様】

## ■作業方法

### ◆有心畝立て法(一畝おき畝立て法)

この方法は最も能率的ですが、一畝おき全面耕うん畝立て法と同じく、耕うん幅によって畝幅が制限されます。

- ①畝立器を取付けて、
- ②一畝おき耕うんをします。

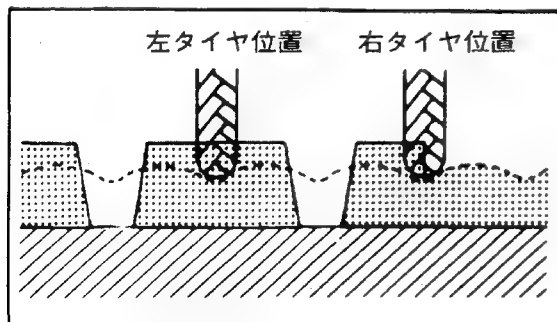


### ◆全面耕うん後の畝立て法

この方法は、畝幅を自由に選ぶことができ、土塊が均一で細い畝もできます。

- ①まず、ロータリで全面耕うんを行ってから、
- ②畝立器を取付けて畝立て作業をします。

この場合は、畝立てをするほ場全部を荒起した後、爪を外向きに付け直してから、畝立て作業を行なうと美しく仕上がります。

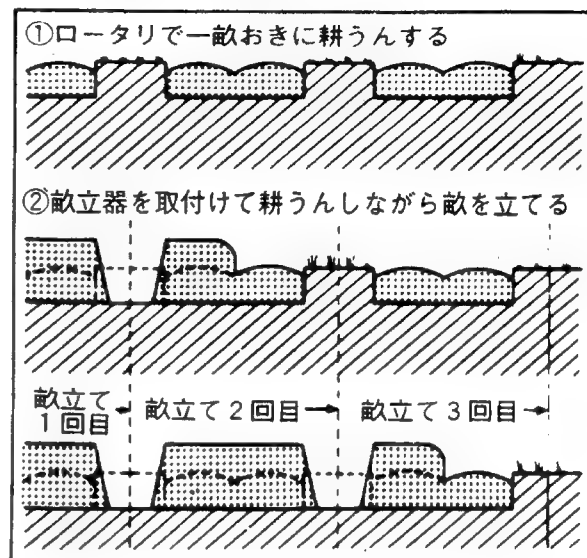


### ◆無心畝立て法

#### (一畝おき全面耕うん畝立て法)

この方法は、全面耕うん後の畝立て法に比べて能率的です。しかし、耕うん幅によって畝幅が制限されます。

- ①畝立器を取付けて、残しておいた部分を耕うんしながら、畝立て作業をします。



以上はほんの一例です。地方によって条件が異なりますから、土地条件に合った方法をお考えください。

#### 注意

- 耕うん状態のままで、無理にハンドルを切って旋回すると、爪を曲げたり、後2輪やチェーンケースを破損する原因になりますから注意してください。

# ロータリの簡単な手入れと処置

## 安全ポイント

- 給油及び点検整備するときは、①トラクタを平たんな広い場所に置き、②エンジンを止め、③駐車ブレーキをかけ、ロータリの落下を防止する落下調整グリップを右いばいに軽く締込んで、④更に爪軸の下に木の台などをし、十分安全を確認してから行なってください。
- ▶安全を確認せずに点検整備すると……  
傷害事故を引起すことがあります。

## 点検箇所について

### ■定期点検箇所一覧表（専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。）

次の定期点検箇所一覧表に従って、定期点検を実施しましょう。

点 検 項 目	アワーメータの表示時間						参照ページ
	50	100	150	200	250	300	
ギヤーケースの油量点検【NR仕様】	○	○	○	○	○	○	46
チェーンケースの油量点検	○	○	○	○	○	○	46
ギヤーケースのオイル交換【NR仕様】…… ※1	◎					○	61
チェーンケースのオイル交換…………… ※2	◎					○	62
グリースの注入…………… ※3							
・ユニバーサルジョイント	○	○	○	○	○	○	62
・後2輪(2ヵ所)							
・内管(後2輪調整ネジ部)							

※印は、次に作業要領を説明してあります。

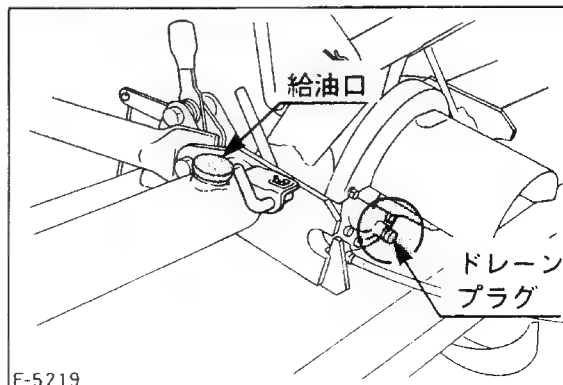
◎印は、ならし運転時の50時間使用後に必ず行なってください。

## 給油と注油について

使用するギヤーオイルは、必ず「クボタ純オイル」を使用してください。(66ページ参照)

### 1 ギヤーケースのオイル交換 (2.1ℓ【NR1400】、2.2ℓ【NR1500】 2.3ℓ【NR1600】、2.4ℓ【NR1700】)

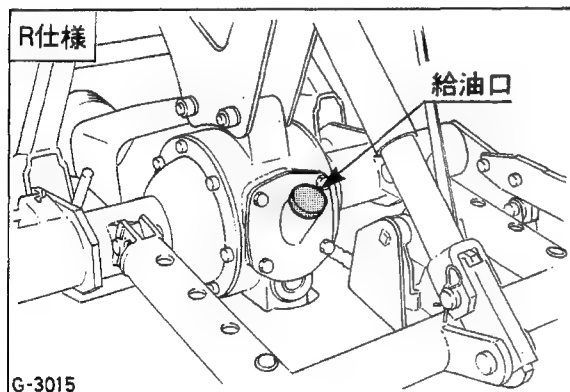
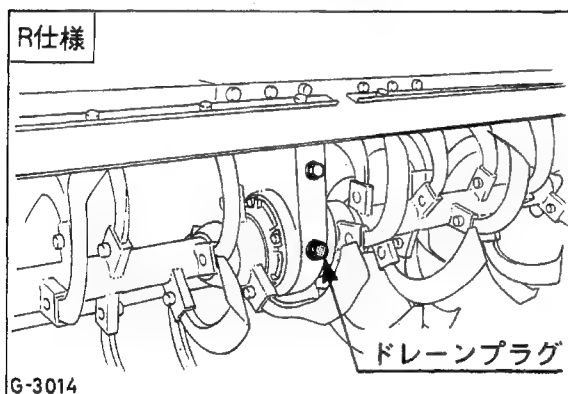
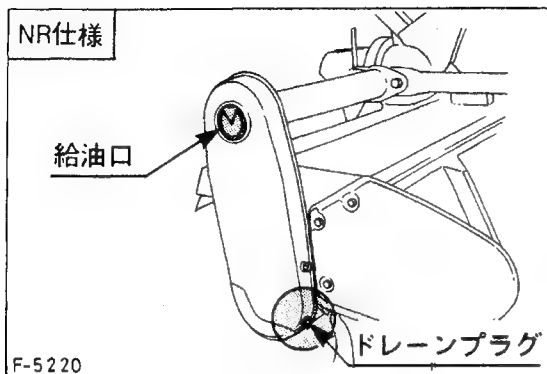
- ①ドレーンプラグを外してオイルを出します。
- ②ギヤーオイルを給油口から、規定量まで入れてください。



F-5219

## 2 チェーンケースのオイル交換 (1.5ℓ【NR仕様】、2.0ℓ【R仕様】)

- ① ドレインプラグを外してオイルを出します。
- ② ギヤーオイルを給油口から、規定量まで入れてください。



## 3 グリースの注入

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などで泥水の中に入ったときは1日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。

グリースは、「クボタ推奨グリース」を使用してください。(66ページ参照)

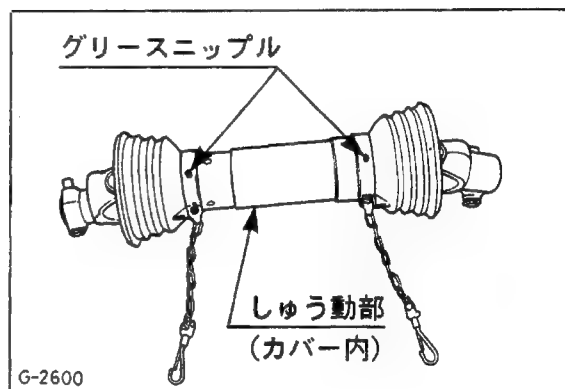
### ◆ユニバーサルジョイント

しゅう動部及びグリースニップルに、ベアリンググリースを適量注入してください。

又、しゅう動部はジョイントのオス・メス部を切離して補給してください。

#### 注意

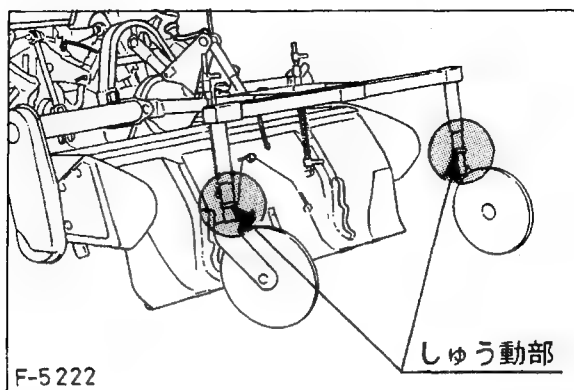
- PTO軸・ロータリ側の軸にも薄く塗布してください。



## ◆後2輪(2カ所)

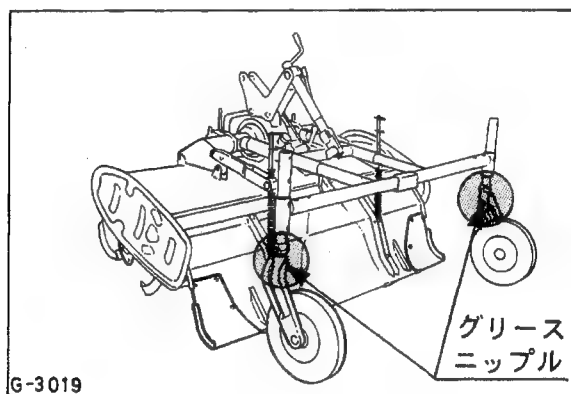
【NR仕様】

シャーシグリースを適量塗布します。



【R仕様】

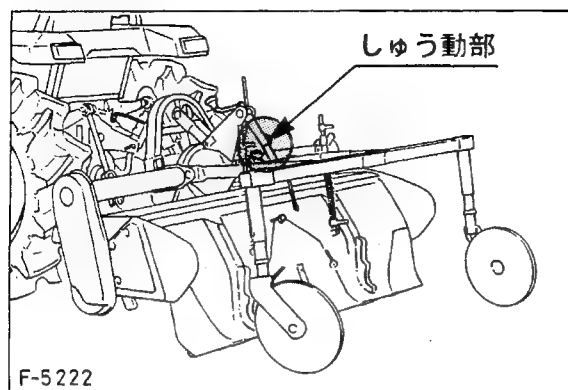
シャーシグリースを適量注入します。



## ◆内管(後2輪調整ネジ部)

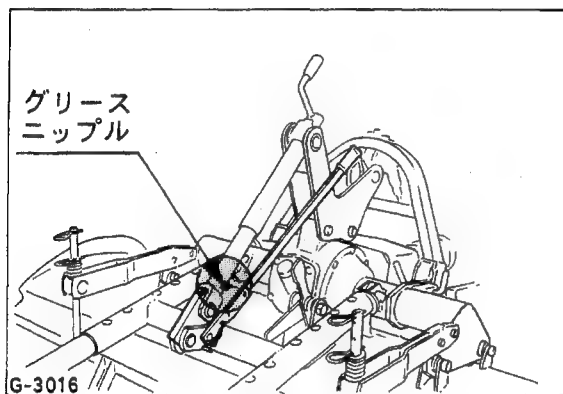
【NR仕様】

シャーシグリースを適量塗布します。



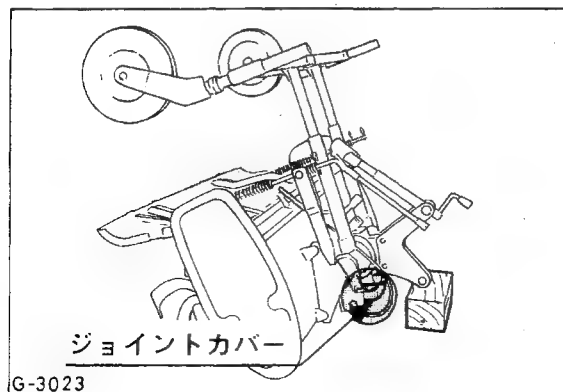
【R仕様】

シャーシグリースを適量注入します。



## ロータリ保管時の注意

トラクタから取外して、ロータリを後輪を上にして前倒しにして保管する場合は、ジョイントカバーが損傷しないように注意してください。



## 注意

- NR仕様の場合は、泥よけカバーを必ず取外してから行なってください。



# 付表

## 主要諸元

### ■トラクタの主要諸元

(倍速・クリープ・Aフレームオート3P・パワーステアリング・モンローマチック・メカオート付)

形 式		X-20	X-20 大径タイヤ仕様	X-24	X-24 大径タイヤ仕様
駆 動 方 式		四輪駆動			
機 体 寸 法	全 長(mm)	2790			
	全 幅(mm)	1160	1220	1220	1220
	全 高(mm)	1380	1400	1400	1410
	軸 距(mm)	1450			
	輪 前 輪(mm)	950			
	距 後 輪(mm)	920, 1040( T仕様875～1075)	950, 1070( T仕様910～1110)	950, 1070( T仕様910～1110)	950, 1070
最低地上高(mm)		300	320	320	320
重 量(kg)		805	825	825	835
エ ン ジ ン	名 称	クボタ V1305		クボタ V1405	
	形 式	水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル (New TVCS)			
	総排気量(cc)	1335		1422	
	出力/回転速度 (PS/rpm)	20/2600		24/2600	
	使 用 燃 料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油			
	燃料タンク容量(ℓ)	27			
	始 動 方 式	セルモータ式 (スーパーグローブプラグ付)			
	バ ッ テ リ	75D26L-MF			
タイ ヤ	前 輪	6-14 2PR			
	後 輪	8.3R-22 4PR [ラジアルタイヤ]	9.5R-22 4PR [ラジアルタイヤ]	9.5R-22 4PR [ラジアルタイヤ]	9.5R-24 4PR [ラジアルタイヤ]
車 体	クラッチ方式	乾式単板 (シングル)			
	制 動 装 置	一系統左右独立 (連結装置付), 湿式ディスクブレーキ (機械式)			
	かじ取り方式	ボールスクリュ式 (インテグラルパワーステアリング)			
	差 動 方 式	2ピニオンかさ歯車式 (デフロック付)			
	変 速 方 式	コンスタントメッシュ			
変 速 段 数 (段)		前進12, 後進 4			
走 行 速 度 (km/h)	前進	0.44～13.60	0.45～13.80	0.45～13.80	0.47～14.52
	後進	0.60～9.75	0.64～10.00	0.64～10.00	0.67～10.52
最小旋回半径 (ブレーキ使用時)(m)		1.9			
P T O	回転/エンジン 速度/回転速度 (rpm)	554, 802, 1182/2600			
	軸 寸 法 (mm)	JIS 35			
作 業 機	制 御 方 式	ポジションコントロール			
	装 着 方 式	3点リンク JIS O形			

## ロータリ装置の主要諸元

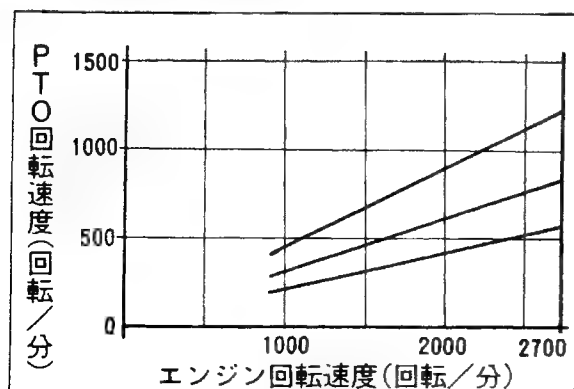
ロータリ装置別		サイドドライブ仕様				センタドライブ仕様	
形 式		NR1400	NR1500	NR1600	NR1700	R13N	R15N
全 長(mm)		1090 (尾輪付)				1300	
全 幅(mm)		1550	1650	1750	1850	1590[1390]	1590
駆 動 方 式		サイドドライブ				センタドライブ	
装 着 方 式		Aフレームオート3P					
耕 う ん 幅(mm)		1400	1500	1600	1700	1480[1280]	1480
爪 本 数(本)		32	34	36	38	38	
重 量(kg)		180	188	196	204	203	198
耕うん爪の種類		581号 R,L各15本 583号 R,L各1本	581号 R,L各16本 583号 R,L各1本	581号 R,L各17本 583号 R,L各1本	581号 R,L各18本 583号 R,L各1本	581号 R,L各18本 544号 R,L各1本	
爪 軸 回転速度 (rpm)	変速形式	X-20, 24					
	1 段	174				161	
	2 段	252				232	
	3 段	371				343	

[ ] 内は延長部を取外した寸法

## 走行速度表(km/h)

副変速 レバー	主変速 レバー	X-20		X-20 大径タイヤ仕様		X-24		X-24 大径タイヤ仕様	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	1	1.20		1.22		1.22		1.28	
	2	1.75	1.71	1.78	1.75	1.78	1.75	1.87	1.84
	3	2.38		2.41		2.41		2.54	
2	1	3.25		3.30		3.30		3.47	
	2	4.76	4.62	4.83	4.74	4.83	4.74	5.08	4.99
	3	6.45		6.54		6.54		6.88	
3	1	6.88		6.98		6.98		7.34	
	2	10.05	9.75	10.20	10.00	10.20	10.00	10.73	10.52
	3	13.60		13.80		13.80		14.52	
C 【L仕様】	1	0.44		0.45		0.45		0.47	
	2	0.65	0.60	0.65	0.64	0.65	0.64	0.68	0.67
	3	0.87		0.88		0.88		0.93	

## PTO回転速度表



## 標準付属品

品 名	数量/台	備 考	品 名	数量/台	備 考
ドライバ	1	+, - 差換え式	プライヤ	1	
10-12スパナ	1		取扱説明書	1	
14-17スパナ	1		サービスブック	1	
19-22スパナ	1		納入品安全説明書	1	
24-27スパナ	1		安全注意ポスタ	1	
17-24メガネレンチ	1		PTO軸カバー	1	

## 推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

### ■エンジンオイル・ミッションオイル

メ ー カ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤオイル S A E 90
日 本 石 油	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30	クボタ純オイルM80B 又は クボタ純オイルUDT	クボタ純オイルM90
コ ス モ 石 油			
共 同 石 油			
昭 和 シ ェ ル 石 油			

寒冷地用としてミッションオイルにクボタ純オイルUDTをおすすめします。

### ■グリース

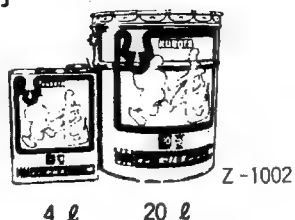
メ ー カ	グ リ ー ス
	シャ ー シ グ リ ー ス
日 本 石 油	エピノックグリース A P Na 2
コ ス モ 石 油	ダイナマックス E P Na 2
共 同 石 油	リゾニックスグリース E P Na 2
昭 和 シ ェ ル 石 油	レチナックス C D
モ ー ビ ル 石 油	プレックス 47
エ ッ ソ 石 油	シャ ー シ グ リ ー ス L
出 光 興 産	シャ ー シ グ リ ー ス
三 菱 石 油	シャ ー シ グ リ ー ス Na 2
ゼ ネ ラ ル 石 油	シャ ー シ グ リ ー ス Na 2
キ グ ナ ス 石 油	シャ ー シ グ リ ー ス Na 2

オイルは **クボタ純オイル** をお使いください。

●オイルはトラクタの開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

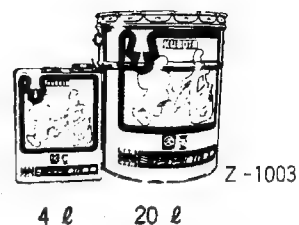
■エンジンには、  
**クボタ純オイル**

ディーゼルエンジン用  
D 30, 又は D 10W30,



■トラクタ本体には、  
**クボタ純オイル**

ミッション用  
M80 B  
又は, UDT

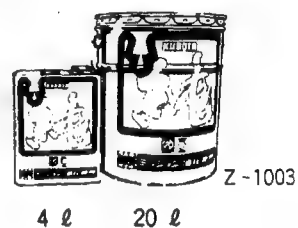


■グリースアップには、  
**クボタスペアグリース**



■ロータリなどには、  
**クボタ純オイル**

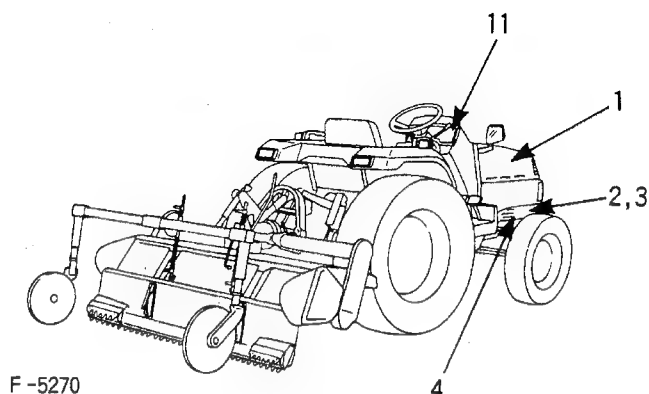
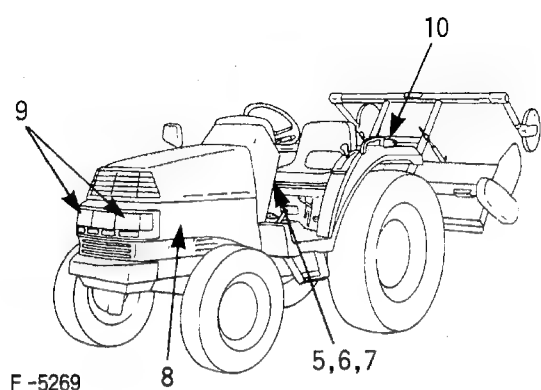
ミッション用  
M90

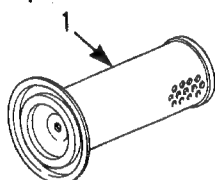
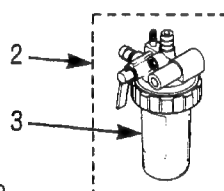
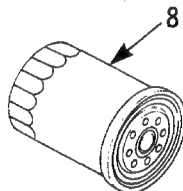
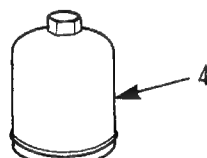
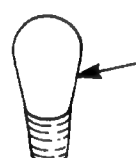
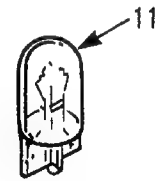
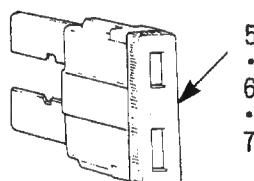


いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。

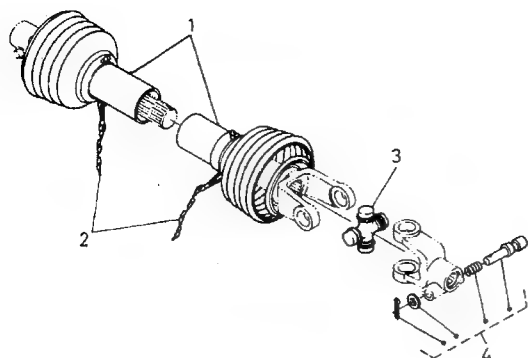
お買い求めは、販売店・農協又はコスモ石油・日本石油・共同石油・昭和シェル  
石油のスタンドにご用命ください。

# 主な消耗部品一覧表



エアークリーナ エレメント  F-5271	燃料フィルタ  F-5272	エンジンオイルフィルタ カートリッジ  F-4756
油圧オイルフィルタ カートリッジ  F-5273	電球  9 (ヘッドライト) 10 (ウインカ) F-4759	イージーチェッカ用ランプ バッテリチャージランプ エンジンオイルランプ グローランプ 倍速ターンランプ 方向指示パイロットランプ パネル内スモールランプ 共通  F-5086
ヒューズ  5 6 7 F-4757		

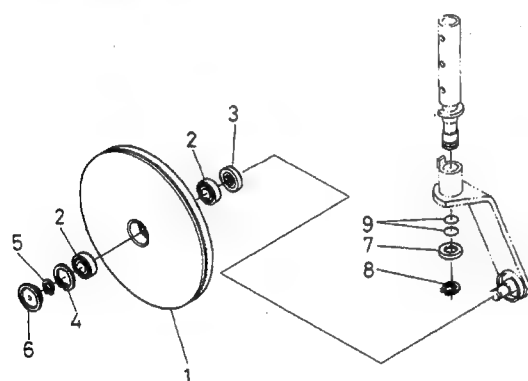
図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エアークリーナエレメントアッシ	15741-1108-0	7	ヒューズ 5 A	37410-5552-0
2	フューエルフィルタアッシ	16271-4301-0	8	オイルフィルタカートリッジアッシ	16271-3209-0
3	エレメントアッシ	16271-4356-0	9	デンキュウ	37410-5453-0
4	オイルフィルタカートリッジアッシ	37410-3852-0	10	デンキュウ	37410-5272-0
5	ヒューズ 10 A	36730-7555-0	11	ランプ	38240-3147-0
6	ヒューズ 15 A	35820-7556-0			



F-5526

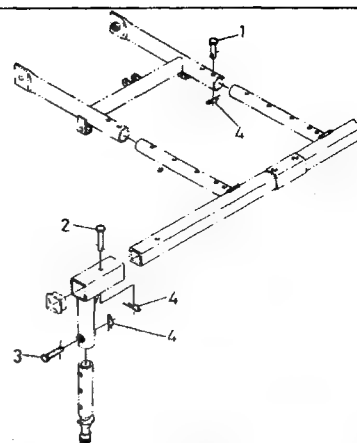
図番	品名	品番	個数
1	プロテクティブカバー	79105-0587-0	1
2	チェーンアッシ	79105-0588-0	2
3	スパイダーアッシ	79105-0584-0	2
4	ノックピンアッシ	79105-0589-0	2

## ■NR仕様



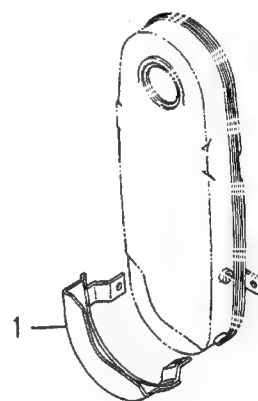
F-5527

図番	品名	品番	個数
1	後2輪	79105-3551-0	1
2	ボールベアリング	08131-06004	2
3	車軸シール	41011-1552-0	1
4	穴サークリップ	04611-00420	1
5	軸サークリップ	04612-00200	1
6	キャップ	70451-5746-0	1
7	ストッパ	79105-3548-0	1
8	軸サークリップ	04612-50280	1
9	Oリング	04811-10250	2



F-5528

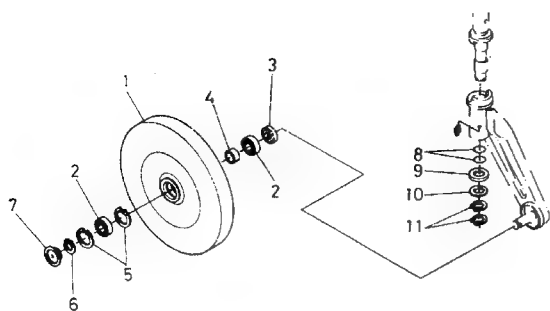
図番	品名	品番	個数
1	頭付きピン	05122-51260	2
2	頭付きピン	05122-51270	2
3	頭付きピン	05122-51260	2
4	スナップピン	05516-51200	6



F-5529

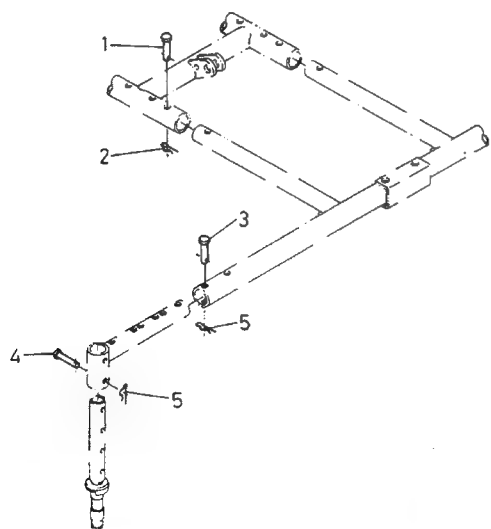
図番	品名	品番	個数
1	ホゴカバー	79105-3215-0	1

# R仕様



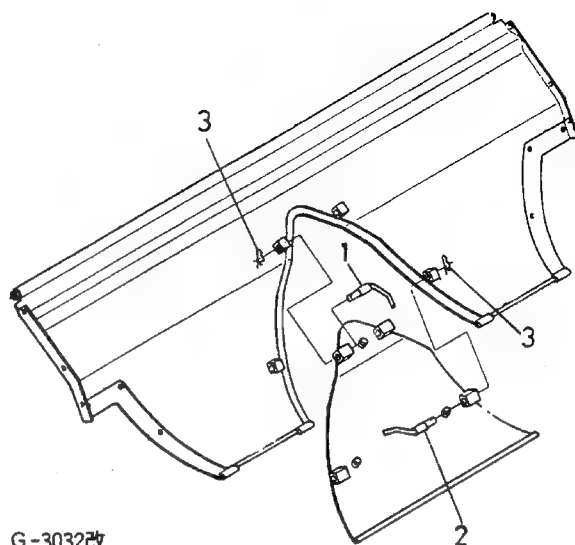
G-3027

図番	品 名	品 番	個数
1	後 2 輪	70451-7744-0	1
2	ボールベアリング	08131-06004	2
3	オイルシール	70451-5748-0	1
4	カラー	70451-5745-0	1
5	穴サークリップ	04611-00420	2
6	軸サークリップ	04612-00200	1
7	キャップ	70451-5746-0	1
8	Ｏリング	04811-07220	2
9	サークリップカバー	70435-5748-0	1
10	シム0.5	70451-5747-0	2
11	軸サークリップ	04612-00220	2



G-3025

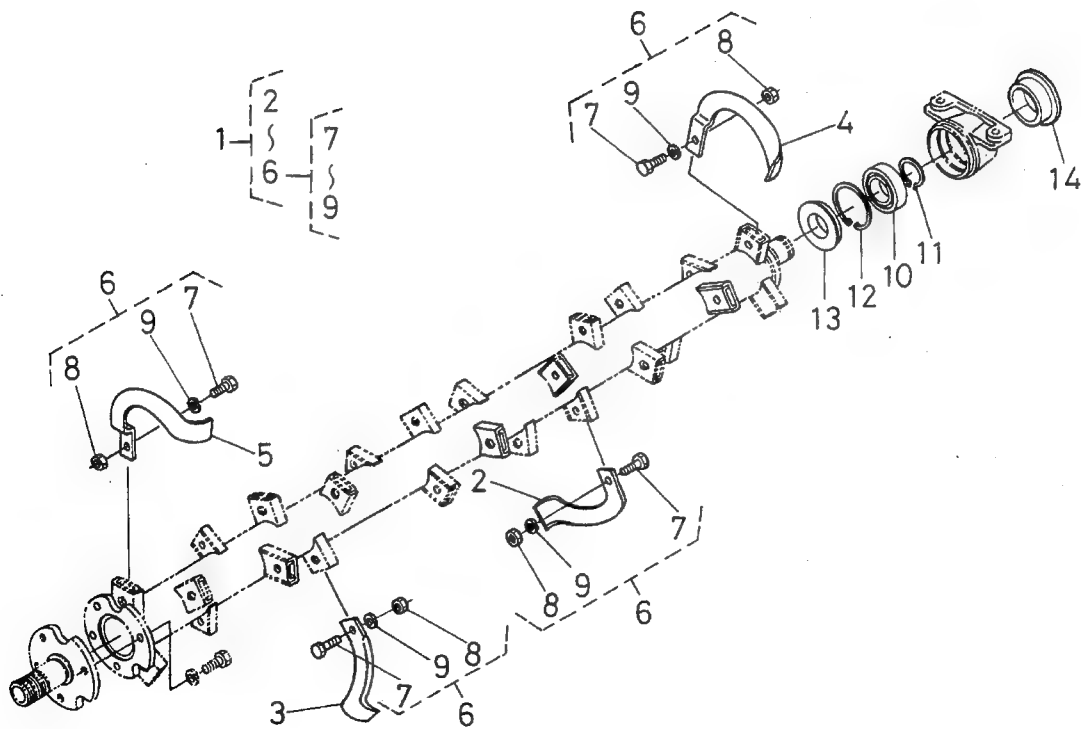
図番	品 名	品 番	個数
1	頭付きピン	05122-51660	2
2	スナップピン	05515-51600	2
3	頭付きピン	05122-51460	4
4	頭付きピン	05122-51060	4
5	スナップピン	70404-5618-0	8



G-3032改

図番	品 名	品 番	個数
1	ロックカナグ L	70404-5622-0	2
2	ロックカナグ R	70404-5623-0	2
3	スナップピン	70404-5618-0	4

# ■NR仕様

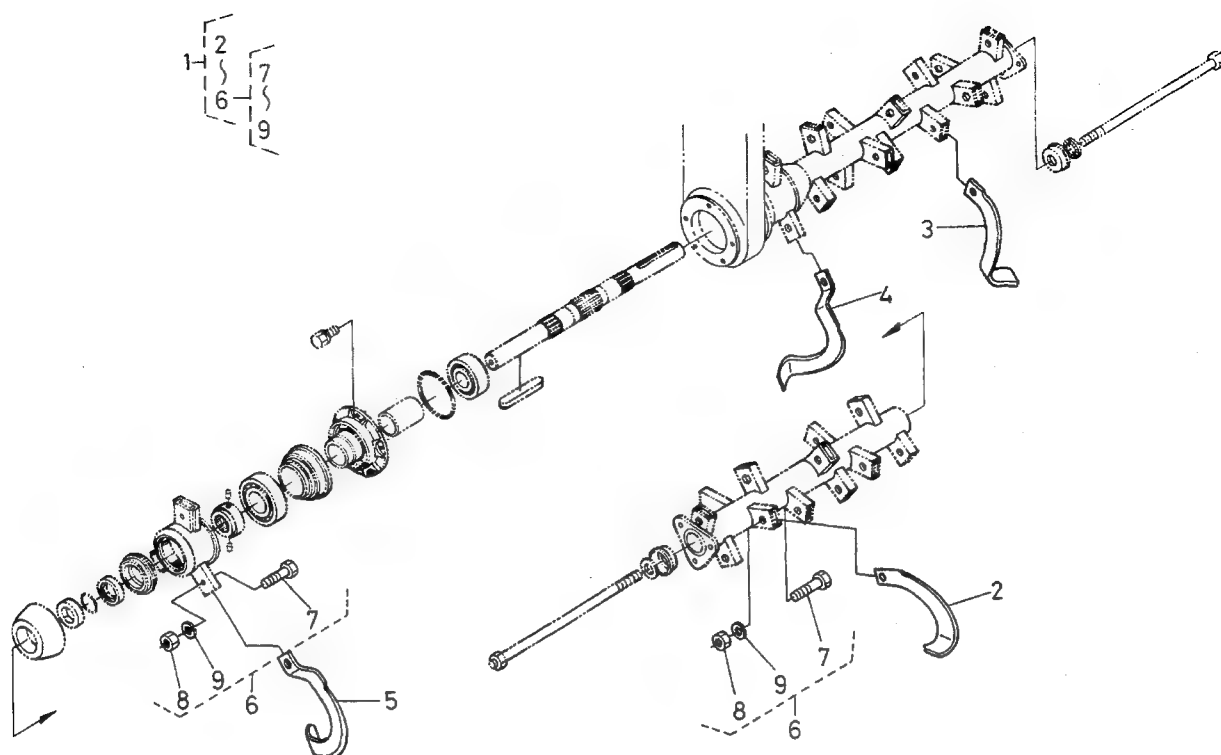


F-5531

図番	品 番	品 名	数 量				備 考
			NR1400	NR1500	NR1600	NR1700	
1	79105-5540-0	なた爪 アッシ 32	1	—	—	—	②～⑨
1	70461-5540-0	なた爪 アッシ	—	1	—	—	②～⑨
1	70466-5540-0	なた爪 アッシ 36	—	—	1	—	
1	70471-5540-0	なた爪 アッシ	—	—	—	1	
2	70451-5541-0	581号 なた爪 右	15	16	17	18	
3	70451-5542-0	581号 なた爪 左	15	16	17	18	
4	70461-5543-0	583号 増幅爪 右	1	1	1	1	
5	70461-5544-0	583号 増幅爪 左	1	1	1	1	
6	70461-5555-0	爪取付け部品 1	32	34	36	38	⑦～⑨
7	32142-5595-0	ボルト	32	34	36	38	
8	64135-9519-0	爪取付け ナット	32	34	36	38	
9	04512-50100	バネ 座金	32	34	36	38	
10	08101-06207	ボール ベアリング	1	1	1	1	
11	04612-00350	ジク サークリップ	1	1	1	1	
12	04611-00720	アナ サークリップ	1	1	1	1	
13	79105-3265-0	オイルシール	1	1	1	1	
14	55314-2243-0	ローラキャップ	1	1	1	1	



# R仕様



G-3026

図番	品 番	品 名	数 量		備 考
			R13N	R15N	
1	70325-5740-0	なた爪 アッシ	1	1	②～⑨
2	70451-5541-0	581号 なた爪 右	18	18	
3	70451-5542-0	581号 なた爪 左	18	18	
4	70325-5587-0	544号 変形爪 右	1	1	
5	70325-5588-0	544号 変形爪 左	1	1	
6	70461-5555-0	爪取付け部品 1	38	38	⑦～⑨
7	32142-5595-0	ボルト	38	38	
8	64135-9519-0	爪取付け ナット	38	38	
9	04512-50100	バネ 座金	38	38	

# アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	X-20	X-20 大径タイヤ 仕様	X-24	X-24 大径タイヤ 仕様
補助車輪	96023-08400	ストレーク取付台 アッシ	・片側にストレーク5枚 取付け用 ・8.3-22用	P15, P20, P 30の何れかを 5組/台	○			
	96023-07100	P15反転ストレーク アッシ	・シュー幅15cmピン式 ・構成はR, L各1個	上記の 水田車輪 取付台アッシ ・8.3-22用	○			
	96023-07200	P20反転ストレーク アッシ	・シュー幅20cmピン式 ・構成はR, L各1個					
	96023-07300	P30反転ストレーク アッシ	・シュー幅30cmピン式 ・構成はR, L各1個					
	99752-21000	ストレーク取付台 アッシ	・片側にストレーク5枚 取付け用 ・9.5-22用	P18, P20, P25, P30の何れかを 5組/台		○	○	
	99762-21002	ストレーク取付台 アッシ	・片側にストレーク6枚 取付け用 ・9.5-24用	P18, P20, P25, P30の何れかを 6組/台				○
	99746-25000	P18反転ストレーク アッシ	・シュー幅18cmピン式 ・構成はR, L各1個	上記の 水田車輪 取付台アッシ ・9.5-22用 ・9.5-24用		○	○	○
	99446-25000	P20反転ストレーク アッシ	・シュー幅20cmプレート式 ・構成はR, L各1個					
	99576-26900	P25反転ストレーク アッシ	・シュー幅25cmプレート式 ・構成はR, L各1個					
	99516-27900	P30反転ストレーク アッシ	・シュー幅30cmプレート式 ・構成はR, L各1個					
ウエイト	99801-18000	フロントウエイト アッシ	28kg		○	○	○	○
	99261-15110	後輪ウエイト	28kg					
その他	96397-15100	洗車ポンプアッシ			○	○	○	○
	99771-91000	作業灯アッシ	12V/25W 1個					
	99803-93000	油圧取出しキット						
	99801-21000	トップリンクアッシ	B7200用トップリンク					
	99903-85001	安全フレーム2 (SF-X24)	2柱式	Y仕様には標準で採用しています。				
	99803-84000	安全フレーム	4柱式					
	99803-87000	強力日除け	折りたたみ式					
	99803-85000	レインガードキャビン	強化ガラス, ワイパ付					
	99803-86000	クリヤウインドアッシ						
	99803-75000	延長ヒッチアッシ			○	○	○	○
	37410-99610	クリーブキットアッシ	サービス部品採用		○	○	○	○
	37410-99710	メカオートキットアッシ (サイド)	サービス部品採用【NR仕様】		○	○	○	○
	37410-99810	メカオートキットアッシ (センタ)	サービス部品採用【R仕様】		○	○	○	○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適 応 形 式							
					NR1400		NR1500		NR1600		NR1700	
					標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY
耕 う ろ ん	79105- 55400	なた爪アッシ 32	581号R・L各15本 583号R・L各1本	・爪取付け部品 アッシを含む	○	○						
	70461- 55400	なた爪アッシ	581号R・L各16本 583号R・L各1本				○	○				
	70466- 55400	なた爪アッシ36	581号R・L各17本 583号R・L各1本						○	○		
	70471- 55400	なた爪アッシ	581号R・L各18本 583号R・L各1本								○	○
	70461- 55550	爪取付け部品1	ボルト・ナット・ バネ座金 各1個	—	○ 32	○ 32	○ 34	○ 34	○ 36	○ 36	○ 38	○ 38
整 地	99812- 41000	くし付整地板 1400	—	—	○	○						
	99802- 41000	くし付整地板 1500	—	—			○	○				
	99802- 46000	くし付整地板 1600	—	—					○	○		
	99802- 47000	くし付整地板 1700	—	—							○	○
	99902- 61000	整地板アッシ 1400	—	NR-A,AY仕 様には標準で 採用していま す。 (リヤカバー-2)	○	○						
	99802- 61000	整地板アッシ 1500	—				○	○				
	99902- 62000	整地板アッシ 1600	—						○	○		
	99802- 62000	整地板アッシ 1700	—								○	○
	99812- 43000	波形補助板アッシ 1400	—	整地板アッシ 1400	○	○						
	99802- 43000	波形補助板アッシ 1500	—	整地板アッシ 1500			○	○				
	99802- 44000	波形補助板アッシ 1600	—	整地板アッシ 1600					○	○		
	99802- 45000	波形補助板アッシ 1700	—	整地板アッシ 1700							○	○
	99752- 42700	代かきセットⅡ	・本体整地幅145cm ・延長左右各60cm	フロントウエイト アッシ (99801-18000)	○	○						
	99762- 42700	代かきセットⅢ	・本体整地幅165cm ・延長左右各60cm				○	○	○	○		
	99772- 42700	代かきセットⅣ	・本体整地幅185cm ・延長左右各60cm								○	○
	99772- 44700	延長代かき 整地板	・延長幅 左右各20cm	代かきセット Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○

・○印下の数字は1台分のセット個数です。

・V……Vカット，A……メカオート・リヤカバー2付き，Y……波形補助板付き

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適 応 形 式							
					NR1400		NR1500		NR1600		NR1700	
					標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY
畝 立 て	99042-13700	4号畝立器 (03)	・溝幅12cm ・底板無 ・羽根長さ85.4cm	※7号 畝立て金具 (99042-17700)	○	○	○	○	○	○	○	○
	99042-14700	5号畝立器 (03)	・溝幅13.5cm ・底板無 ・羽根長さ86.5cm		○	○	○	○	○	○	○	○
	99042-11700	7号畝立器 (03)	・溝幅21cm ・底板無 ・羽根長さ92cm		○	○	○	○	○	○	○	○
	99022-13700	Vカット4号畝立器 (03)	・溝幅12cm ・底板無 ・羽根長さ85.4cm	※印はどちら でも装着可能 (選択使用)		○		○		○		○
	99022-14700	Vカット5号畝立器 (03)	・溝幅13.5cm ・底板無 ・羽根長さ86.5cm			○		○		○		○
	99022-11700	Vカット7号畝立器 (03)	・溝幅21cm ・底板無 ・羽根長さ92cm			○		○		○		○
	99042-17700	7号畝立て金具 (03)	—	フロントウエイト アッシ (99801-18000)	○	○	○	○	○	○	○	○
	99742-17700	Vカット用 畝立て金具アッシ	—			○		○		○		○
	99802-71000	片培土機アッ シ	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○
マ ル チ	99061-81000	平畝マルチ アッシ	—	—	○		○		○		○	
	99041-88000	平高畝マルチ アッシ	・プラウ爪 3 対付	マルチ用ヒッチ L1センタ用 (99041-88900)	○		○		○		○	
	99021-82000	小畝マルチ アッシ	・プラウ爪 3 対付		○		○		○		○	
	99031-84000	2 畝マルチ アッシ	・プラウ爪 4 対付	—	○		○		○		○	
	99041-85000	高畝マルチ アッシ	・プラウ爪 3 対付	マルチ用ヒッチ L1センタ用 (99041-88900)	○		○		○		○	
	98344-55000	土寄せ兼用 レベラー (LT1600-L1)	・本体幅160cm ・延長左右各35cm	—	○		○					
	98344-56000	土寄せ兼用 レベラー (LT1800-L1)	・本体幅180cm ・延長左右各35cm	—					○		○	
	98344-65110	スイッチ軽量 レベラー (SNK-160)	・本体幅160cm ・延長左右各35cm	—	○		○					
	98344-00110	スイッチ軽量 レベラー (SKL-180)	・本体幅180cm ・延長左右各35cm	—					○		○	
	98344-66110	サイドスキ単品 (SN-18)	・取付け ブラケットなし	取付け ブラケット右 (98344-77110)	○		○		○		○	
	98344-67110	サイドスキ完備 (SN-18)	・コールター付 ・取付けブラケット付	—	○		○		○		○	
	98344-31000	サイドスキ用 コールター (K-350)	—	—	○		○		○		○	

・V……Vカット，A……メカオート・リヤカバー2付き，Y……波形補助板付き

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適 応 形 式							
					NR1400		NR1500		NR1600		NR1700	
					標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY	標準 A AY	V VA VAY
	98344-68110	アゼギワ ディスク単品 (N-330)	・取付け ブラケットなし	取付け ブラケット右 (98344-77110)	○		○		○		○	
	98344-69110	アゼギワ ディスク完備 (N-330)	・取付け ブラケット付	—	○		○		○		○	
	98344-70110	カッティング ディスク単品 (ND-33)	・左右セット ・取付け ブラケットなし	取付けブラケット右 (98344-77110) 取付けブラケット左 (98344-78110)	○		○		○		○	
	98344-71110	カッティング ディスク完備 (ND-33)	・左右セット ・取付け ブラケット付	—	○		○		○		○	
	98344-72110	カッティング ディスク右	・取付け ブラケットなし	取付け ブラケット右 (98344-77110)	○		○		○		○	
	98344-73110	(チェーンケース側) カッティング ディスク左	・取付け ブラケットなし	取付け ブラケット左 (98344-78110)	○		○		○		○	
	98344-74110	カッティングディ スク用片培土 (NK-12)	—	—	○		○		○		○	
	98344-90110	波形スイング 整地板(NT-16)	・本体幅160cm ・延長左右各40cm	—	○		○					
	98344-92110	波形スイング 整地板(NT-18)	・本体幅180cm ・延長左右各40cm	—					○		○	
	98344-75110	溝掘機単品 (NM-18)	・取付け ブラケットなし	取付け ブラケット右 (98344-77110)	○		○		○		○	
	98344-76110	溝掘機完備 (NM-18)	・取付け ブラケット付	—	○		○		○		○	
	98344-77110	取付け ブラケット右	・サイドスキ ・アゼギワディスク ・カッティングディス ク溝掘機各機種兼用	—	○		○		○		○	
	98344-78110	(チェーンケース側) 取付け ブラケット左	・カッティングディス クのみ兼用	—	○		○		○		○	
	98344-58500	鎮圧ローラー (KR-1500)	・鎮圧幅150cm	—	○		○					
	98344-58600	鎮圧ローラー (KR-1600)	・鎮圧幅160cm	—			○		○			
	98344-58900	鎮圧ローラー (KR-1800)	・鎮圧幅180cm	—					○		○	

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適用形式							
					R13N				R15N			
					ST ・W <sub>2</sub>	ST ・V ・W <sub>2</sub>	ST	ST ・W	ST ・W <sub>2</sub>	ST ・V	ST ・V ・W	ST ・V ・W <sub>2</sub>
耕 う ん	70325- 57400	なた爪アッシ	581号R・L各18本 544号R・L各1本	・爪取付け部品 アッシを含む	○	○	○			○		
	99092- 49100	なた爪アッシ	581号R・L各21本 544号R・L各1本					○	○		○	○
	70461- 55550	爪取付け部品1	ボルト・ナット・ バネ座金 各1個	—	○ 38	○ 38	○ 38	○ 44	○ 44	○ 38	○ 44	○ 44
	99032- 58010	589なた爪R	581なた爪の 反転改良爪	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	99032- 58020	589なた爪L	581なた爪の 反転改良爪	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	99172- 55000	200延長爪軸 アッシ	・延長幅 左右各10cm	—			○	※ ○		○	※ ○	
	99172- 56000	300延長爪軸 アッシ	・延長幅 左右各15cm	—	※ ○	※ ○	○		※ ○	○		※ ○
整 地	99762- 42700	代かきセットⅢ	・本体整地幅 165cm ・延長左右各60cm	フロントウエイトアッシ (99801-18000)	○	○	○			○		
	99772- 42700	代かきセットⅣ	・本体整地幅 185cm ・延長左右各60cm					○	○		○	○
	99772- 44700	延長代かき 整地板	・延長幅 左右各20cm	代かきセット Ⅲ・Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○
	99022- 41700	くし形整地板 140アッシ	・整地幅 140cm	フロントウエイトアッシ (99801-18000)	○	○	○	○	○	○	○	○
	99812- 38700	くし形 20延長	・本体延長幅 左右各20cm	くし形整地板140アッシ (99022-41000)				○	○		○	○
	99058- 44000	RL15くし付 整地カバー	・本体整地幅 160cm ・延長左右各40cm	—	○	○	○			○		
	99078- 44000	17用くし付 整地カバー	・本体整地幅 180cm ・延長左右各40cm	—					○			○
	99088- 44000	18用くし付 整地カバー	・本体整地幅 190cm ・延長左右各40cm	—				○			○	
	99031- 77000	折りたたみ 整地部	・整地幅 左右各20cm	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	98344- 94110	波形スイング 整地板(RN-15)	・本体幅150cm ・延長左右各40cm	—	○	○	○			○		
	98344- 93110	波形スイング 整地板(RN-17)	・本体幅170cm ・延長左右各40cm	—					○			○
マ ル チ	98344- 10110	波形スイング 整地板(RN-18)	・本体幅180cm ・延長左右各40cm	—				○			○	
	99061- 81000	平畝マルチ アッシ	—	クロスセンタ用 ヒッチ (99901-88000)	○	○	○	○	○	○	○	○
	99041- 88000	平高畝マルチ アッシ	・プラウ爪 3 対付		○	○	○	○	○	○	○	○
	99021- 82000	小畝マルチ アッシ	・プラウ爪 3 対付		○	○	○	○	○	○	○	○
	99031- 84000	2 畝マルチ アッシ	・プラウ爪 4 対付		○	○	○	○	○	○	○	○
	99041- 85000	高畝マルチ アッシ	・プラウ爪 3 対付		○	○	○	○	○	○	○	○
	99901- 81000	平畝マルチ 移動式アッシ	・プラウ爪 3 対付		○	○	○	○	○	○	○	○

※印は付属の延長部の交換用です。○印下の数字は1台分のセット個数です。

・ST……1枚カバー      ・V……Vカット      ・W……300mm延長      ・W<sub>2</sub>……200mm延長

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適用形式							
					R13N		R15N					
					S T ・ W <sub>2</sub>	S T ・ V ・ W <sub>2</sub>	S T	S T ・ W	S T ・ W <sub>2</sub>	S T ・ V	S T ・ V ・ W	S T ・ V ・ W <sub>2</sub>
敵 立 て	99042-13700	4号敵立器(03)	・溝幅12cm ・底板無 ・羽根長さ85.4cm	※7号 敵立て金具 (99042-17000)  ※Vカット 敵立て金具アッシ (99742-17000)  ※印はどちらでも 装着可能 (選択使用) フロントウエイトアッシ (99801-18000)	○	○	○	○	○	○	○	○
	99042-14700	5号敵立器(03)	・溝幅13.5cm ・底板無 ・羽根長さ86.5cm		○	○	○	○	○	○	○	○
	99042-11700	7号敵立器(03)	・溝幅21cm ・底板無 ・羽根長さ92cm		○	○	○	○	○	○	○	○
	99022-13700	Vカット4号 敵立器(03)	・溝幅12cm ・底板無 ・羽根長さ85.4cm			○				○	○	○
	99022-14700	Vカット5号 敵立器(03)	・溝幅13.5cm ・底板無 ・羽根長さ86.5cm			○				○	○	○
	99022-11700	Vカット7号 敵立器(03)	・溝幅21cm ・底板無 ・羽根長さ92cm			○				○	○	○
	99742-13700	Vカット4号 敵立器(02)	・溝幅12cm ・底板有 ・羽根長さ75.4cm			○				○	○	○
	99742-14700	Vカット5号 敵立器(02)	・溝幅13.5cm ・底板有 ・羽根長さ76.5cm			○				○	○	○
	99742-11700	Vカット7号 敵立器(02)	・溝幅21cm ・底板有 ・羽根長さ82cm			○				○	○	○
	99042-17700	7号敵立て金具 (03)	—	上記敵立器	○	○	○	○	○	○	○	○
	99742-17700	Vカット用 敵立て金具アッシ	—			○				○	○	○
	99052-17000	Vカット用 敵立て反転金具	—			○				○	○	○
て	99512-73700	40号敵立器	・2連敵立器 溝幅12cm	2連敵立て金具 (99772-15000) フロントウエイトアッシ (99801-18000)	○	○	○	○	○	○	○	○
	99772-15700	2連敵立て金具	—	40号敵立器 (99512-73100)	○	○	○	○	○	○	○	○
	99022-71700	片培土機 Ⅰアッシ(03)	・溝幅16cm	フロントウエイトアッシ (99801-18000)	○	○	○			○		
	99082-71700	片培土機 Ⅱアッシ(03)	・溝幅16cm					○	○		○	○

・S T……1枚カバー    ・V……Vカット    ・W……300mm延長    ・W<sub>2</sub>……200mm延長

# インプルメント一覧表

品 番	品 名	適 用 型 式				メーカ
		X-20		X-24		
		メカオート なし	メカオート 付	メカオート なし	メカオート 付	
79105-00000	NR1400ロータリ (サイド)	○				クボタ
79105-10000	NR1400-Vロータリ (サイド)	○				
79105-50000	NR1400-Aロータリ (サイド)		○			
79105-55000	NR1400-AYロータリ (サイド)		○			
79105-60000	NR1400-VAロータリ (サイド)		○			
79105-65000	NR1400-VAYロータリ (サイド)		○			
79106-00000	NR1500ロータリ (サイド)	○		○		
79106-10000	NR1500-Vロータリ (サイド)	○		○		
79106-50000	NR1500-Aロータリ (サイド)		○		○	
79106-55000	NR1500-AYロータリ (サイド)		○		○	
79106-60000	NR1500-VAロータリ (サイド)		○		○	
79106-65000	NR1500-VAYロータリ (サイド)		○		○	
79107-00000	NR1600ロータリ (サイド)	○		○		
79107-10000	NR1600-Vロータリ (サイド)	○		○		
79107-50000	NR1600-Aロータリ (サイド)		○		○	
79107-55000	NR1600-AYロータリ (サイド)		○		○	
79107-60000	NR1600-VAロータリ (サイド)		○		○	
79107-65000	NR1600-VAYロータリ (サイド)		○		○	
79108-00000	NR1700ロータリ (サイド)			○		
79108-10000	NR1700-Vロータリ (サイド)			○		
79108-50000	NR1700-Aロータリ (サイド)				○	
79108-55000	NR1700-AYロータリ (サイド)				○	
79108-60000	NR1700-VAロータリ (サイド)				○	
79108-65000	NR1700-VAYロータリ (サイド)				○	
79109-60000	NR1400X-VAロータリ(サイド, 正逆転)		○		○	
70353-00010	R13N-STロータリ (センタ)	○		○		
70353-00020	R13N-STVロータリ (センタ)	○		○		
70353-00110	R13N-STAロータリ (センタ)		○		○	
70353-00120	R13N-STVAロータリ (センタ)		○		○	
70324-00010	R15N-STロータリ (センタ)	○		○		
70324-00020	R15N-STVロータリ (センタ)	○		○		
70324-00110	R15N-STAロータリ (センタ)		○		○	
70324-00120	R15N-STVAロータリ (センタ)		○		○	
70874-00000	SJ24Xスーパージョイントキット	○	○	○	○	

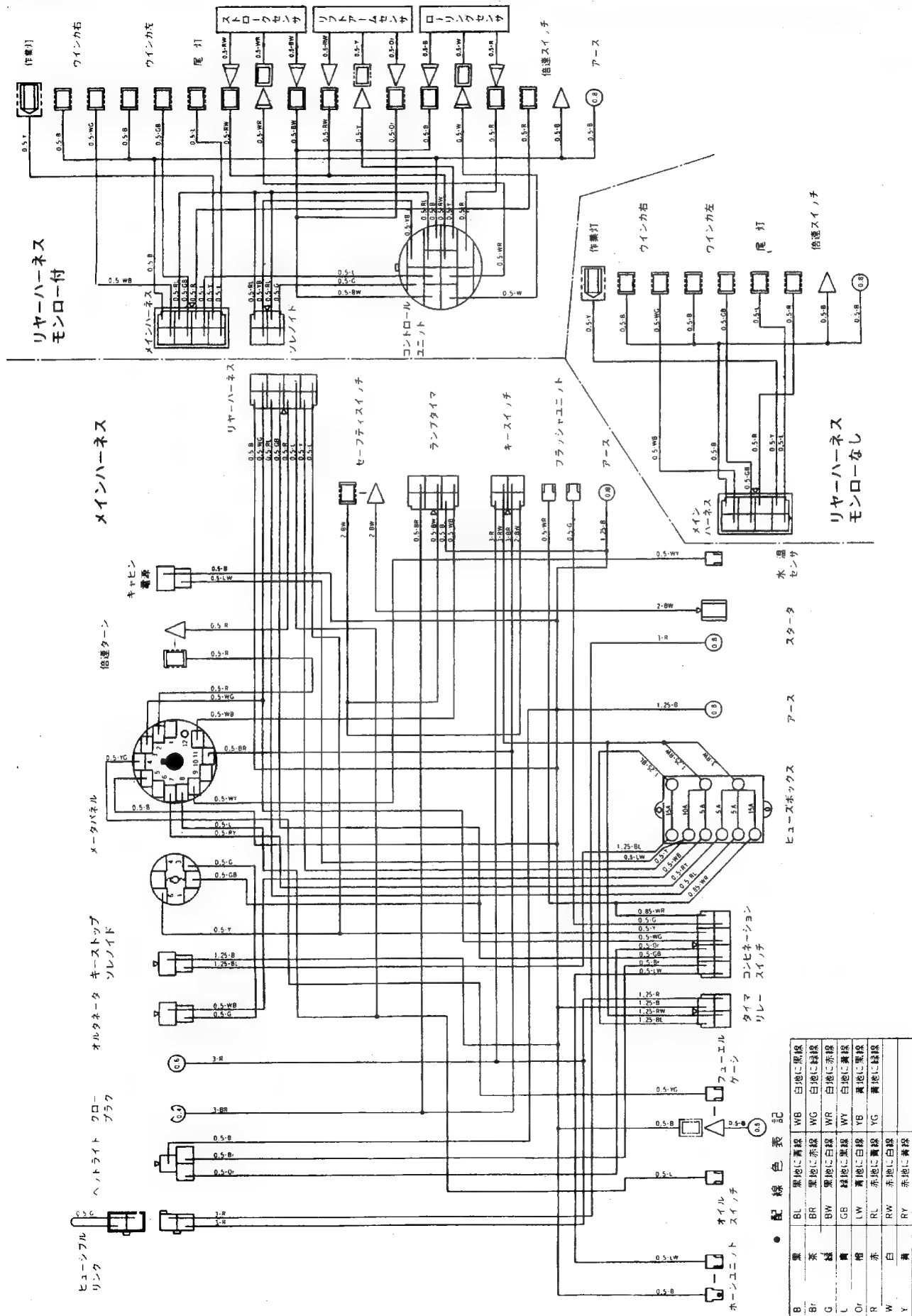


品 番	品 名	適用型式		メーカ
		X-20	X-24	
71974-00000	AT300 明きよ溝掘機	○	○	クボタ
71976-00000	AT450 明きよ溝掘機	○	○	
78271-29010	SK502S 溝掘機	○	○	
78282-18010	RT40 溝掘機	○	○	小 橋
78203-18010	KT100 エアーインジェクタ	○	○	
74251-18030	SD42N スーパーディスク	○	○	
74052-18150	ZE200KA パディハロー Aフレーム用(メカオート付)	○	○	
74052-18160	ZE240KA パディハロー Aフレーム用(メカオート付)		○	
74052-18650	ZE180KA パディハロー Aフレーム用(メカオート付)	○		
74052-18670	ZE220KA パディハロー Aフレーム用(メカオート付)	○	○	
74052-18690	ZE180K パディハロー Aフレーム用(メカオートなし)	○	○	
74052-18700	ZE200K パディハロー Aフレーム用(メカオートなし)	○	○	
74052-18710	ZE220K パディハロー Aフレーム用(メカオートなし)	○	○	
74052-18720	ZE240K パディハロー Aフレーム用(メカオートなし)		○	
76060-18030	FM110 フレールモア	○		
75130-18020	KMB120L リヤパケット	○	○	
73801-02100	VP13 バイプロサブソイラ	○	○	スガノ
73801-02080	PA12 サブソイラ	○	○	
73114-02020	POY1022 水田プラウ	○		
73404-02040	OY1511 オフセットプラウ		○	
73304-02040	OY1311 オフセットスリックプラウ	○	○	
73271-02010	MMY1311 スリックプラウ	○	○	
73301-02080	Y1311 スリックプラウ	○		
72850-02020	MROY1311 リバーシブルプラウ	○	○	
72851-02020	MROY1511 リバーシブルプラウ		○	
72401-02040	S1315 スチールプラウ	○		
72304-02040	OS1318 オフセットスチールプラウ	○		
72404-02040	OS1517 オフセットスチールプラウ		○	
73801-15040	LS-160 パラソイラ	○	○	松 山
73801-15120	S-27B 振動サブソイラ	○	○	
74740-15540	FT-1603 ライムソーワ	○	○	
74712-15090	MP-200 ブロードキャスタ	○	○	
74301-15220	JB-401S ディスクロータリ	○	○	
74051-15410	HM2200BKA ドライブハロー Aフレーム用(メカオート付)	○	○	
74051-15420	HM1800BKA ドライブハロー Aフレーム用(メカオート付)	○	○	
74051-15430	HM2000BKA ドライブハロー Aフレーム用(メカオート付)	○	○	
74051-15440	HM2400BKA ドライブハロー Aフレーム用(メカオート付)		○	
76060-15120	NFZ-1501B フレールモア	○	○	
74031-15120	RK-302U ロータリカルチ	○	○	
78120-15100	B-65 掘取機	○	○	
78120-15110	B-80 掘取機	○	○	
78120-15120	B-95 掘取機	○	○	
78120-15170	B-105 掘取機	○	○	
73801-05010	MDS0301 駆動サブソイラ	○	○	スター
74710-05110	MBC1820 ブロードキャスタ	○	○	
74710-05020	MBC1800 ブロードキャスタ	○	○	
74741-05030	MLS1510 ライムソーワ	○	○	
74740-05060	MLS1220 ライムソーワ	○	○	
74741-05020	MLS1520 ライムソーワ	○	○	
74740-05110	TLS1200 ライムソーワ	○	○	
74741-05110	TLS1500 ライムソーワ	○	○	
74910-05010	TFM1000 マニアワゴン	○	○	
74910-05050	TFM1010 マニアワゴン	○	○	
74910-05300	TMS1010 マニアスプレッダ	○	○	
74910-05390	TMS0700 マニアスプレッダ	○	○	
74910-05320	TMS1020 マニアスプレッダ	○	○	
74910-05400	TMS1011 マニアスプレッダ	○	○	

品 番	品 名	適用型式		メーカ
		X-20	X-24	
74910-05410	TMS1021 マニアスプレッダ	○	○	スター
74941-05120	TVC1001 バキュームカー	○	○	
74941-05130	TVC1000 バキュームカー	○	○	
74302-05240	MBP2224 ドライブブラウ	○	○	
74302-05480	MBP2025 ドライブブラウ	○	○	
74050-05600	MPR1842 水田ハロー	○		
74050-05610	MPR2042 水田ハロー	○	○	
74050-05620	MPR2242 水田ハロー	○	○	
74050-05630	MPR2442 水田ハロー	○	○	
74050-05320	MPR2050 水田ハロー	○	○	
74050-05730	MPR1841KA 水田ハロー Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74050-05740	MPR2041KA 水田ハロー Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74050-05750	MPR2241KA 水田ハロー Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74050-05760	MPR2441KA 水田ハロー Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74050-05690	MPR2042S 水田ハロー	○	○	
74050-05700	MPR2242S 水田ハロー	○	○	
74050-05710	MPR2442S 水田ハロー	○	○	
74050-05310	MPR1850 水田ハロー	○	○	
74050-05330	MPR2250 水田ハロー	○	○	
74050-05340	MPR2450 水田ハロー		○	
74050-05720	MPR1842S 水田ハロー	○	○	
76327-05020	MRB0810K 小型ロールベアラ	○	○	
76311-05100	THB1010 ヘイベアラ	○	○	
76041-05010	MDM1000 ディスクモア	○	○	
76280-05010	MHM1600 ヘイメーカ	○	○	
76230-05020	MHM1800 ヘイメーカ	○	○	
76212-05040	MGH2000 ジャイロヘイメーカ	○	○	
76252-05010	MSR1300 サイドレーキ	○	○	
76253-05010	MSR170 サイドレーキ	○	○	
76211-05080	MGR2000 小型レーキ	○	○	
76211-05050	MDV1300 デリバリレーキ	○	○	
76430-05010	MMC22C マウントカッタ	○	○	
74560-05030	MRG1510 リヤグレーダ	○	○	
74561-05030	MRG1810 リヤグレーダ	○	○	
74751-35400	FP100 肥料散布機	○	○	タイショー
74751-35130	GX-90AF 肥料散布機	○	○	
74751-31560	GX-90BF 肥料散布機	○	○	
74710-10030	BC160 ブロードキャスタ	○		高 北
74711-10050	BC210 ブロードキャスタ	○	○	
74740-10460	LS1501 ライムソーワ	○	○	
74910-10410	DH1000 マニアスプレッダ	○	○	
74940-10350	DH1100 マニアスプレッダ	○	○	
74942-10110	S-130 バキュームカー	○	○	
74941-10110	S-90 バキュームカー	○	○	
73106-10060	442V 双用2連スキ	○	○	
73304-10010	OS451V オフセットプラウ	○	○	
74181-10010	DDF2040 ドライブディスク	○		
76230-10050	HM1600 ヘイメーカ	○	○	
74560-10010	RG1500S リヤグレーダ	○	○	
74711-06010	BF200 ブロードキャスタ	○	○	佐々木農機
74711-06020	BS200 ブロードキャスタ	○	○	
74740-06040	ML1500 ライムソーワ	○	○	
74741-06050	ML1800 ライムソーワ	○	○	
74910-06230	GT-1100 マニアスプレッダ	○	○	
74910-06170	GY-1100 マニアスプレッダ	○	○	
74910-06190	GM-1100 マニアスプレッダ	○	○	
74910-06210	GV-1100 マニアスプレッダ	○	○	
74171-06030	SL-205D パワーブラウ	○	○	

品 番	品 名	適 用 型 式		メーカ
		X-20	X-24	
74173-06020	SH-244D パワープラウ	○	○	佐々木農機
74053-06560	KX180 パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオートなし)	○	○	
74053-06570	KX200 パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオートなし)	○	○	
74053-06580	KX220 パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオートなし)	○	○	
74053-06590	KX240 パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオートなし)		○	
74053-06540	BE200T パワーハロー	○	○	
74058-06870	KX180KA パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74058-06880	KX200KA パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74058-06890	KX220KA パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74058-06900	KX240KA パワーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオート付)		○	
74058-06370	KX180TKA パワーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオート付)	○		
74058-06380	KX200TKA パワーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74058-06390	KX220TKA パワーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74058-06400	KX240TKA パワーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオート付)		○	
76042-06040	AX1300 ディスクモア	○	○	
74740-12070	DL-140KT ライムソーワ	○	○	デリカ
74940-12050	DV-500T バキュームカー	○	○	
74941-12030	DV-810T バキュームカー	○	○	
74942-12120	DV-1310T バキュームカー	○	○	
74910-12540	DMY-810 マニアスプレッダ	○	○	
74910-12320	DMT-1010 マニアスプレッダ	○	○	
74911-12240	DMT-1510 マニアスプレッダ	○	○	
75140-12020	DT-700 定置トレーラ	○	○	
75141-12020	DT-1200 定置トレーラ	○	○	
75210-12020	DTD-700 ダンプトレーラ	○	○	
75211-12040	DTD-1200 ダンプトレーラ	○	○	
78413-22020	MR-2S 小うねマルチ	○	○	筑波工業
78413-22010	MR-2D 小うねマルチ	○	○	
78400-00000	RT-130X マルチロータリ	○	○	鋤 柄
74838-04070	TS401-D2 施肥播種機	○	○	
74642-04010	TB3 ツールバー	○	○	
74642-04020	BC+TB3 3兼機カルチベータ	○	○	
74642-04060	BR-2B+TB3 3兼機リッジヤ	○	○	
74601-04110	TCH3×5 3畦カルチベータ		○	
74601-04010	TCM3×3 3畦カルチベータ	○		
74621-04110	TCR-H 3畦リッジヤ		○	
74621-04010	TCR-M 3畦リッジヤ	○		
74642-04050	BD+TB3 3兼機掘取機	○	○	
74561-04110	TLM-6 ランドレベラ	○		和 同
74561-04120	TLM-B ランドレベラ	○	○	
74054-16850	KRX202N-CM スーパーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74060-16190	KRX242N-CM スーパーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオート付)		○	
74060-16220	KRX202K-CM スーパーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオート付)	○	○	
74060-16230	KRX242K-CM スーパーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオート付)		○	
74060-16200	KRX202N-C スーパーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオートなし)	○	○	
74060-16210	KRX242N-C スーパーハロー (ツメ) Aフレーム用 (メカオートなし)		○	
74060-16240	KRX202K-C スーパーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオートなし)	○	○	
74060-16250	KRX242K-C スーパーハロー (カゴ) Aフレーム用 (メカオートなし)		○	
78262-17020	FA-40 畦めり機	○	○	藤 井
75821-08080	NLH250 グレイタスローダ	○	○	三陽機器

## 配線図



# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

台格番号 87021 型式 名 クボタ XSF-24

依頼者名及び住所 久保田鉄工株式会社

製造者名及び住所 大阪府大阪市浪速区東津田1丁目2番47号

依頼者名及び住所 依頼者と同じ

## I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ X-24	クボタ X-20
主要諸元（最大及び最小トラクター）		
型式名	クボタ X-24	クボタ X-20
種類	4輪駆動	4輪駆動
質量（フレーム付き）kg	897	877
軸距mm	1450	1450
機関出力/回転速度 kW(PS)/rpm	17.7(24)/2600	14.7(20)/2600

## II 構造の概要

- 構造及び装着方法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり、取付金具を介してトラクター本体フレーム及び後車軸ケース部にボルトで装着。

## 2. 主要寸法

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ	101.0 cm
フロントプレートから屋根部材（上面）までの高さ	134.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅	77.0 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	— cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離	52.0 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離	52.5 cm
ステアリングホイールからフレームまでの最短距離	37.0 cm
戸口の幅	— cm
（上部）	— cm
（中部）	— cm
（下部）	— cm
戸口の高さ	— cm
（フロントプレートから）	131.5 cm
（最高位ステップから）	152.5 cm
（最低位ステップから）	— cm
フレーム装着時のトラクターの全高	195.5 cm
（フレーム上端まで）	— cm
（排気管上端まで）	106.5 cm
フレームの全幅	27.5 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	— cm

※ 1. クボタ X-24 タイヤサイズ：前輪 6-14 後輪 9.5 R-22 装着時

2. トラクターシートの銘柄型式：日産 エニバーサル、K-2

3. ステアリングホイールは、シート中央位置に調節

## 3. 主要材料

主フレーム：STKR 41, SPHC, STK 41

装着ブラケット：SS 41, SPHC

組立・装着ボルト：S 40 C ~ S 50 C

シートベルト（2点式）

## III 検査成績

### 1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後方左側、前方右側、側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は 901 kg。

所要吸収エネルギー：後部負荷：1.26 kJ [129 kgf・m] 前部負荷：0.95 kJ [97 kgf・m]

側部負荷：1.57 kJ [161 kgf・m]

圧壊力：18.02 kN [1838 kgf]

2) 試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：{ 右側 -1.5 cm 前部（後方へ）：{ 右側 2.0 cm

{ 左側 2.5 cm { 左側 -1.5 cm

側部（左側方へ）{ 前側 3.0 cm 上部（下方へ）：前部 { 右側 -1.0 cm 後部 { 右側 -0.5 cm

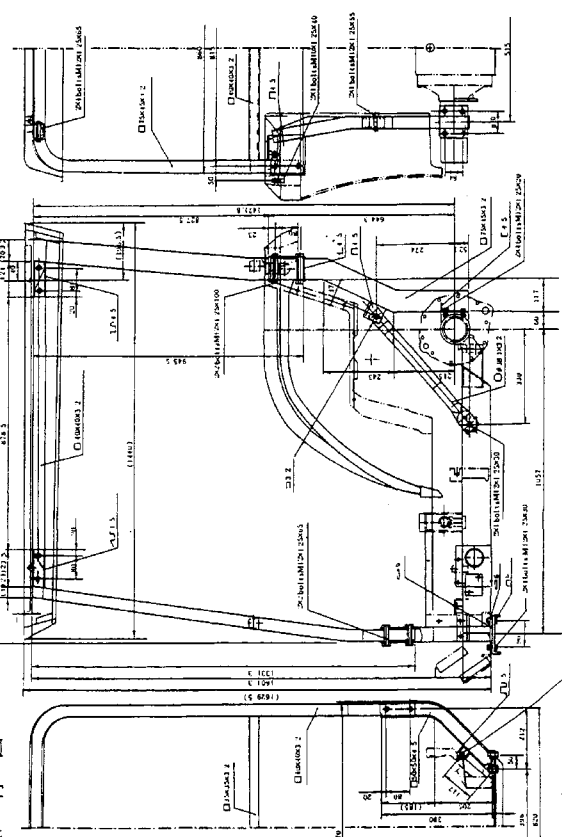
{ 後側 10.5 cm { 左側 0.5 cm { 左側 0.5 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：9.0 cm

2. フレーム内の騒音（7.5 km/h に近い速度段における無負荷走行時、運転者の耳もと）

87 dBA [クボタ X-24] 86 dBA [クボタ X-20]

## IV 付図



## V 付記

(単位：mm)

# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



型式名：クボタ SF-X24

合格番号：89058

種類：安全フレーム(2柱式)

依頼者名：久保田鉄工株式会社

住所：大阪府大阪市浪速区御津東1丁目

製造者名：依頼者と同じ

住所：2番47号

住所：依頼者と同じ

## I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ X-24 H	クボタ X-24	クボタ X-20 H	クボタ X-20
2. 主要諸元(最大及び最小トラクター)				
■型式	クボタ X-24 H	クボタ X-24	クボタ X-20 H	クボタ X-20
■種類	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg: 970	kg: 970	kg: 850	kg: 850
■軸距	mm: 1450	mm: 1450	mm: 1450	mm: 1450
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm: 17.7{24}/2600	kW(PS)/rpm: 17.7{24}/2600	kW(PS)/rpm: 14.7{20}/2600	kW(PS)/rpm: 14.7{20}/2600

## II 構造の概要

- 構造及び装着法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、取付金具を介してシャシフレーム及び後車軸ケース部にボルトで装着。
- 主な装備  
シートベルト(2点式)
- 主要寸法※

■ 座席基準点から屋根部材(下面)までの高さ	: 92.0 cm
■ フートプレートから屋根部材(下面)までの高さ	: 131.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	: 70.0 cm
■ スタフリックホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	: — cm
■ 戸口の幅	: — cm
■ 戸口の幅	: — cm
■ 最低位ステップの高さ	: 62.0 cm
■ フレーム装着時のトラクターの全高(屋根部材上面まで)	: (39.5 cm)
	: 218.5 cm
	: (192.0 cm)

- フレームの全幅 : 88.0 cm
- 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離 : 16.0 cm
- ※ 1. クボタ X-24 H (タイヤサイズ: 前輪 7-14 後輪 9.5-26) に装着時。
- 2. ( ) 内はクボタ X-24 (タイヤサイズ: 前輪 7-14 後輪 9.5-26) に装着時。
- 3. トラクターシートの銘柄型式: 日産 エンバーサル, K-2
- 4. スタフリックホイールは、セルト調節の下から2段目に調節。

- フレーム: STKR41, STK41, SS41, SPHC
- 装着ブラケット: SPHC
- 組立・装着ボルト: S45 C

## III 検査成績

### 1. 強度試験

- 1) 水平負荷試験は、フレームの後部右側、側部左側に対して実施。

■ 基準質量 : 970 kg

■ 所要吸収エネルギー : 後部負荷 1.56 kJ { 159 kgf·m }

側部負荷 2.47 kJ { 251 kgf·m }

■ 圧壊力 : 14.27 kN { 1455 kgf }

- 2) 試験後のフレームの永久変位

■ 後部(前方へ) : 右側 6.5 cm 左側 6.5 cm

■ 側部(右側方へ) : 13.5 cm

■ 上部(下方へ) : 右側 0.5 cm 左側 -0.5 cm

- 3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差: 7.5 cm

### 2. 騒音※

■ 89 dBA (クボタ X-24 H) 89 dBA (クボタ X-20)

※ 7.5 km/h に近い速度段における無負荷走行時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

## IV 付記

強度試験はコード III によって実施した。

# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

台格番号 87021 型式 名 クボタ XSF-24

依頼者名及び住所 久保田鉄工株式会社

製造者名及び住所 大阪府大阪市浪速区東津田1丁目2番47号

依頼者と同じ

## I 装着可能トラクター

1. 型式名 クボタ X-24 クボタ X-20

## 2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型式名	クボタ X-24	クボタ X-20
種類	4輪駆動	4輪駆動
質量（フレーム付き）kg	897	877
軸距mm	1450	1450
機関出力/回転速度 kW(PS)/rpm	17.7(24)/2600	14.7(20)/2600

## II 構造の概要

### 1. 構造及び装着方法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり、取付金具を介してトラクター本体フレーム及び後車軸ケース部にボルトで装着。

### 2. 主要寸法 表

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ	101.0 cm
フロントプレートから屋根部材（上面）までの高さ	134.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅	77.0 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	— cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離	52.0 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離	52.5 cm
ステアリングホイールからフレームまでの最短距離	37.0 cm
戸口の幅	— cm
（上部）	— cm
（中部）	— cm
（下部）	— cm
戸口の高さ	— cm
（フロントプレートから）	131.5 cm
（最高位ステップから）	152.5 cm
（最低位ステップから）	— cm
フレーム装着時のトラクターの全高	195.5 cm
（フレーム上端まで）	— cm
（排気管上端まで）	106.5 cm
フレームの全幅	27.5 cm
（フェンダーを含む）	— cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	— cm

※ 1. クボタ X-24 タイヤサイズ：前輪 6-14 後輪 9.5 R-22 装着時

2. トラクターシートの銘柄型式：日産 エニバーサル、K-2

3. ステアリングホイールは、シート中央位置に調節

## 3. 主要材料

主フレーム：STKR 41, SPHC, STK 41

装着ブラケット：SS 41, SPHC

組立・装着ボルト：S 40 C ~ S 50 C

## 4. 主な装備

シートベルト（2点式）

## III 検査成績

### 1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後方左側、前方右側、側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は 901 kg。

所要吸収エネルギー：後部負荷：1.26 kJ [129 kgf・m] 前部負荷：0.95 kJ [97 kgf・m]

側部負荷：1.57 kJ [161 kgf・m]

圧壊力：18.02 kN [1838 kgf]

### 2) 試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：{ 右側 -1.5 cm 前部（後方へ）：{ 右側 2.0 cm

{ 左側 2.5 cm

側部（左側方へ）{ 前側 3.0 cm

{ 後側 10.5 cm

上部（下方へ）：前部 { 右側 -1.0 cm 後部 { 右側 -0.5 cm

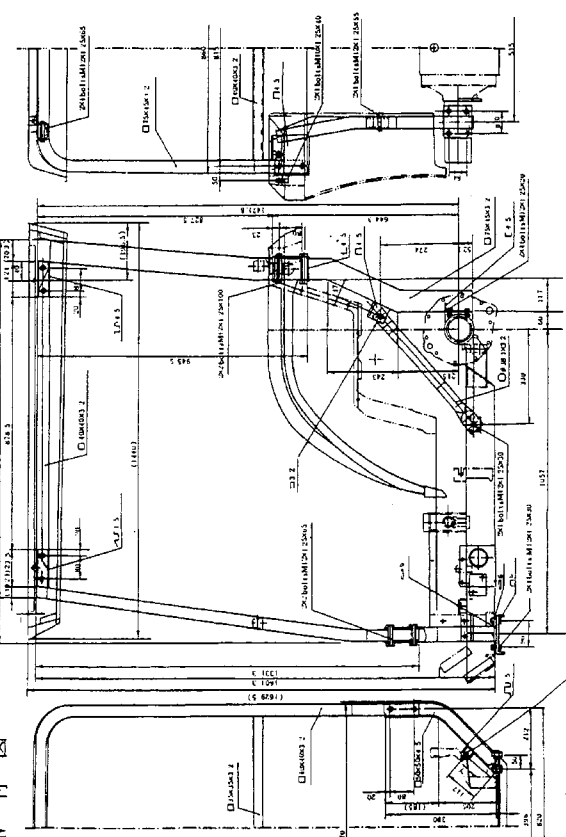
{ 左側 0.5 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：9.0 cm

2. フレーム内の騒音（7.5 km/h に近い速度段における無負荷走行時、運転者の耳もと）

87 dBA [クボタ X-24]

## IV 付図



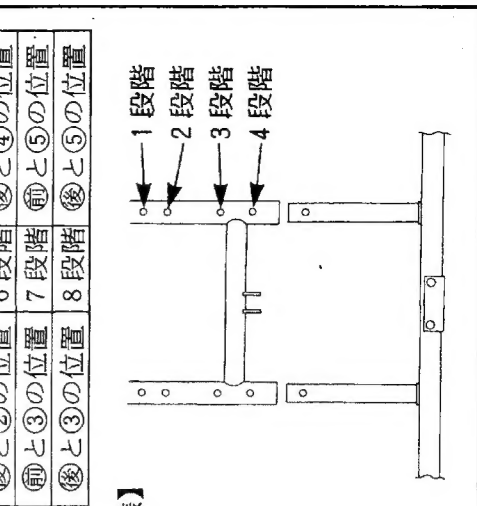
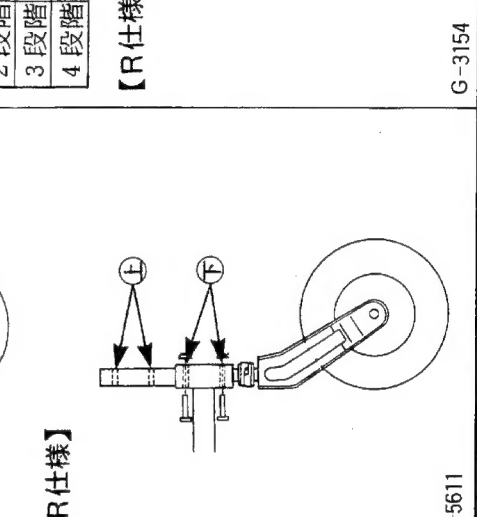
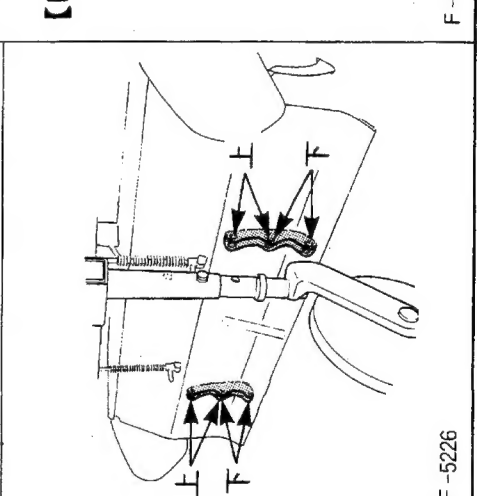
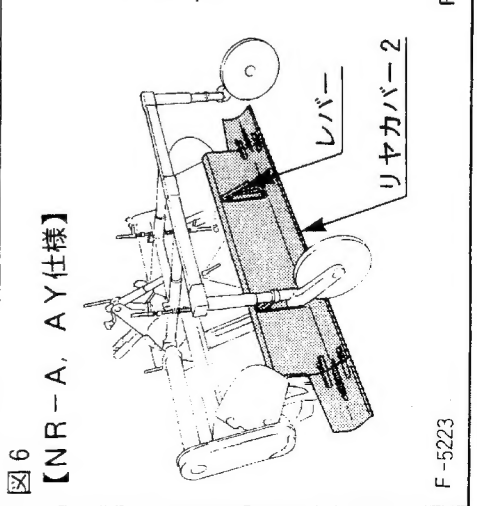
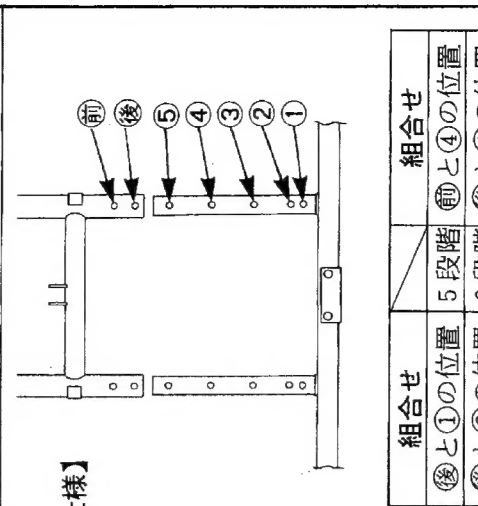
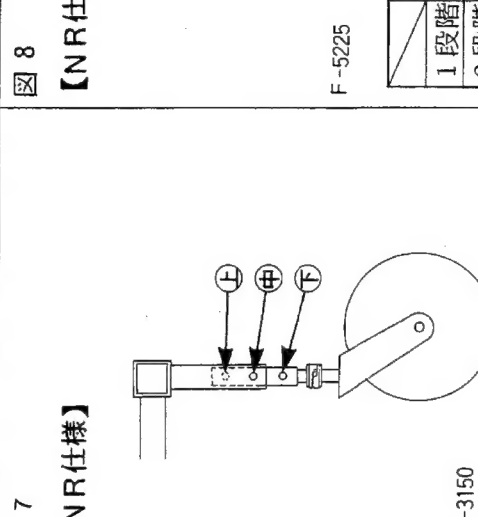
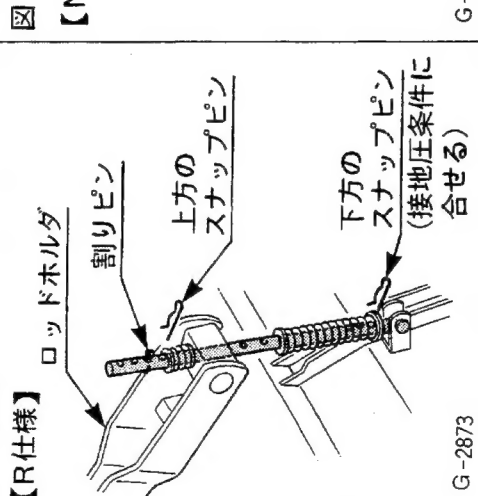
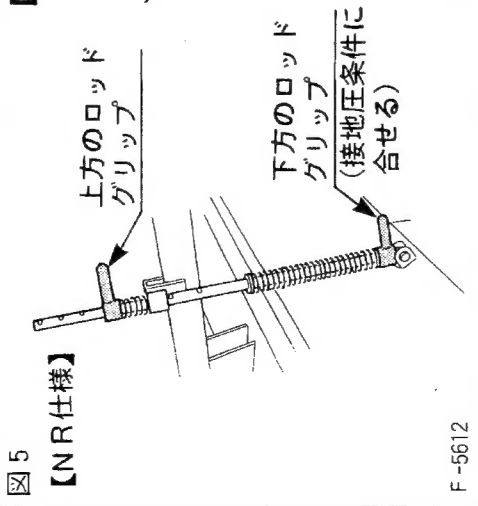
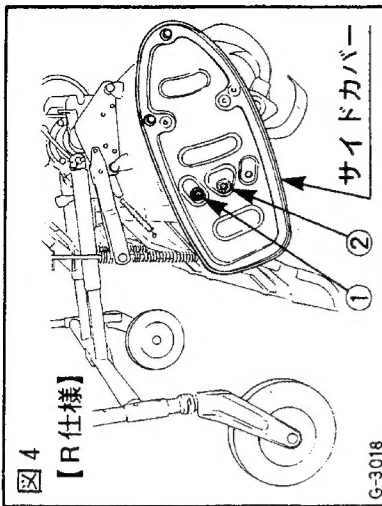
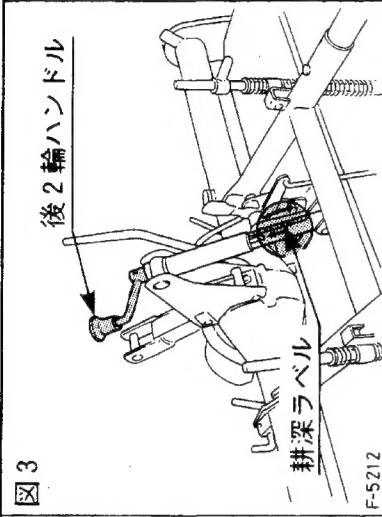
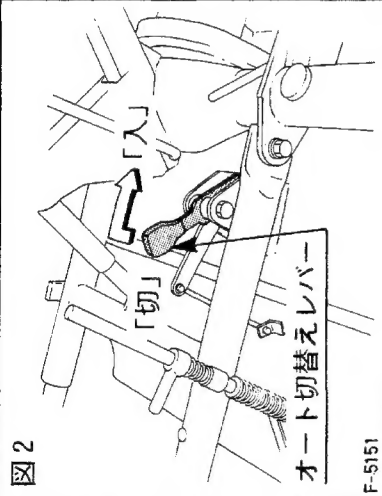
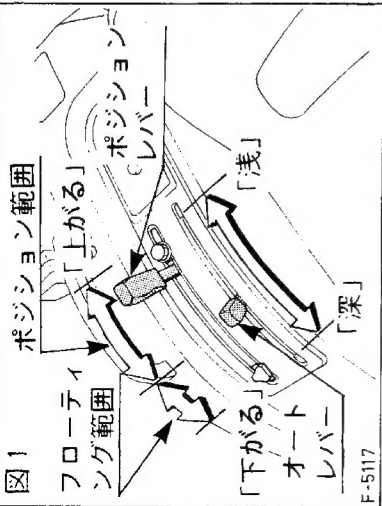
## V 付記

(単位：mm)

# ロータリ作業の一般的な調整要領(主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています)

操作・調整箇所		ポジション レバー	オート レバー 【A仕様】	後2輪 ハンドル NR仕様 R仕様	後 2 輪			ロッドの調整		リアカパー-2 【NR-A, AY仕様】	サイド カパー 【R仕様】			
					上 下 調 整	前 後 調 整	輪	ロッドグリ ップの位置 【NR仕様】	スナック ピンの位置 【R仕様】					
図	番	図 1	図 1	図 3	NR仕様 図 7	R仕様 図 7	NR仕様 図 8	R仕様 図 8	図 5	図 5	図 4			
ポジションコントロール	一般耕うん	最も下げた位置	最も下げた位置	希望耕深になるよう調整	Ⓚ又はⓁ	Ⓚ又はⓁ	4～8段	3～4段	任意 ・上方のグリップ又は ピン：耕深に合せス プリングが少し効く 位置にセット ・下方のグリップ又は ピン：接地圧条件に 合せてセット	任意 ・上方のグリップ又は ピン：耕深に合せス プリングが少し効く 位置にセット ・下方のグリップ又は ピン：接地圧条件に 合せてセット	上	①又は②		
	浅耕し										Ⓚ	3	①	
	深耕し										Ⓛ	4	②	
	代かき	Ⓚ	8段		4段	下	①							
	畝くずし	Ⓚ又はⓁ	Ⓚ又はⓁ		4～8段	3～4段	上	①						
畝立て					後2輪を外します		2段	Vカット 無：1段 有：2段	下方のグリップ又は ピン：一番下にセット	外します	②			
メカオート【A仕様】	一般耕うん	最も下げた位置	希望耕深になるようにセット	任 意	後2輪を外します	後2輪を外します	後2輪を外します	後2輪を外します	・上方のグ リップ：最上位置 にセット ・下方のグ リップ：接地圧条 件に合せてセ ット	・上方のピ ン：上か ら4段目 にセット ・下方のピ ン：接地 圧条件に 合せてセ ット	上	①又は②		
	浅耕し												下	①
	深耕し												上	②
	代かき										下	①		
	畝くずし										上	②		
畝立て	最も下げた位置	最も下げた位置	最も下げた位置	希望耕深になるよう調整	後2輪を外します	後2輪を外します	2段	Vカット 無：1段 有：2段	下方のグリップ又は ピン：一番下にセット	外します	②			





組合せ	組合せ	組合せ
1段階 後と①の位置	5段階 前と④の位置	前と④の位置
2段階 後と②の位置	6段階 後と④の位置	後と④の位置
3段階 前と③の位置	7段階 前と⑤の位置	前と⑤の位置
4段階 後と③の位置	8段階 後と⑤の位置	後と⑤の位置

## 補修用部品の供給年限について

---

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 純正部品を使いましょう

---

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

---

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

# 株式会社クボタ

本 社	社：大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556	電(06)	648-2111
東 京 本 支 店	社：東京都中央区日本橋室町3丁目1番3号	〒103	電(03)	3245-3111
北 海 道 支 店	社：札幌市中央区北3条西3丁目1番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東 北 支 店	社：仙台市青葉区本町2丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中 部 支 店	社：名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九 州 支 店	社：福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札 幌 支 店	店：札幌市西区西町北16丁目1番1号	〒063	電(011)	662-2121
仙 台 支 店	店：名取市田高字原182番地の1	〒981-12	電(022)	384-5151
東 京 支 店	店：浦和市西堀5丁目2番36号	〒338	電(048)	862-1121
大 阪 支 店	店：大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556	電(06)	648-2111
岡 山 支 店	店：岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福 岡 支 店	店：福岡市東区和白丘2丁目2番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺 製 造 所	所：堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工 場	場：宇都宮市平出工業団地22番地2	〒321	電(0286)	61-1111
筑 波 工 場	場：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚 方 製 造 所	所：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1121
堺 部 品 セ ン タ ー	：堺市築港新町3丁8番	〒592	電(0722)	45-8601
宇 都 宮 部 品 セ ン タ ー	：宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
北 海 道 部 品 セ ン タ ー	：北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011)	376-2335
筑 波 部 品 セ ン タ ー	：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚 方 部 品 セ ン タ ー	：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1797
株式会社クボタアグリ東北				
秋 田 事 業 所	：秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙 台 事 業 所	：宮城県名取市田高字原182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東 京 事 業 所	：浦和市西堀5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
新 潟 事 業 所	：新潟市上所上1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金 沢 事 業 所	：石川県松任市下柏野町956-1	〒924	電(0762)	75-1121
名 古 屋 事 業 所	：愛知県一宮市観音町1-1	〒491	電(0586)	24-5111
大 阪 事 業 所	：大阪市浪速区敷津東1-2-47	〒556	電(06)	648-2111
株式会社クボタアグリ中四国				
米 子 事 業 所	：米子市米原570	〒683	電(0859)	33-5011
岡 山 事 業 所	：岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高 松 事 業 所	：香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福 岡 事 業 所	：福岡市東区和白丘2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊 本 事 業 所	：熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1	〒861-41	電(096)	357-6181